

旅館(軒) 對山館、常磐樓、對潮樓。
名物 保名酒、豆竹輪。

軒の船唄 (備後)

軒の向ひの仙醉島はヨ

地から生えたか浮島かヨ

地から生えもせぬ浮ても居らぬヨ

あれは殿様お立山ヨ

尾道 (をのみち) 八二三籽 東京から急行で
十七時間、尾道鐵道接續點。尾道、市間一六籽六。
備後第一の海市、多度津、今治への汽船便あり、賃

金多度津三等一圓二十錢、今治三等
一圓二十五錢、道後温泉へ行く人の
爲には石崎汽船と鐵道との連絡扱が
ある。高濱、三津濱へは共に賃金三
等一圓八十錢。市は人口三萬四千

山陽線

(四、三調) 花筵、疊表、酒、鯛を産し、いはゆる備
後表の主産地で年産額三百三十萬圓に達する。地形
は大寶、愛宕の二山その後、向島その前面に
横はつて一海峡をなし海山の眺めが美しい。この風
光を見るには大寶山の中腹にある千光寺(眞言宗)が
よい、寺は驛の東北約一籽、特に本堂後方山頂の千
疊敷は展望絶佳である。▼浄土寺(眞言宗) 約二籽
餘、聖徳太子の開基と傳ふ、多寶塔は國寶、その他
古文書數十通國寶指定のものが多い。
旅館 尾道ホテル、鶴水館、濱吉支店。

名物 蒲鉾、鯛味噌、鹽辛。
糸崎 (いとざき) 八三二籽一 瀬戸内海に於
ける主要貿易港の一で、昭和三年度貿易額三百四十
九萬六千圓、内輸出十三萬五千圓。▼御調の井、糸
崎神社、船繫の松 共に東一籽一、神功皇后の御遺

跡と傳ふ。▼能地の浦の浮鯛 西南海上 一糎三、汽船あり、陰曆二月から十八夜の前夜、附近の海上に鯛が浮遊する様、恰も酔つてゐるやうで奇觀を呈する。▼瀬戸田島の桃林 西南海上 一三糎二、汽船便がある。

旅館 (糸崎) 風月、東洋樓。
本郷 (ほんがう) ▼佛通寺(臨濟宗) 北六糎、自動車八十錢、安藝の高野といはれてゐる。
海田市 (かいたいち) 吳線分岐點。

吳線



吳 (くれ) 市街は廣島灣の東側、海軍鎮守府の所在地、造船廠、製鋼所、海兵團などがあつて往時海岸の一小邑は今尠



ち、背後には廣島平野を控へ、南は直ちに海に臨み、宇品港を以てその埠頭としてゐる。もと淺野氏四十二萬石の城下で人口三十萬に垂んとし、中國第一の都會、第五師團司令部、廣島文理科大學、廣島高等學校、廣島高等工業學校などがある。大田川は市内に入り四派に岐れてゐるので水の都の觀を呈する。物産に傘、蚊帳、牡蠣、海苔、柿、鮎、罐詰、足袋、縫針、ゴム製品、清酒、家具類などがある。
この牡蠣はその養殖に約二百五十年の歴史をもち肉の充實してゐると芳味の點において知られてゐる、年産額四十七萬圓。
▼廣島城 西二糎七電車自動車共に五錢、天正十年(約三四八年前)毛利輝元の創築したもので、今も天

大な軍港となり、人口十七萬六千(三、一二調)。江田島は西八糎、海軍兵學校がある。北方廣島市と相望む間に似島が浮んで、安藝の小富士といはれてゐる。

香戸の瀬戸 江田島の西方にある倉橋島が、元一地峽をなして本土と接続してゐたのを、平清盛が舟行の便を計る爲、開鑿した瀬戸で、瀬戸内海勝地の一である。對岸警固屋町との間九一米餘、潮流激しくして帆船は順潮の時でなければ容易に通過することが出来ない、附近の風光亦美しい。旅館(吳) 岩越、吉川、徳田。(警固屋) 戸田、銀水。

廣島 (ひろしま) 九〇六糎五 藝備鐵道、廣島瓦斯電軌(廣島、新宮島、嚴島間) 接續點。東京から急行約十九時間、大田川の成せる三角洲上に立

主閣を存し、第五師團司令部がある。二十七八年の役、明治大帝親しく征駕を廣島に駐められ、城中を以て大本營となし、軍國の事を統べ給ひ、我軍大捷武威八表に揚り、この地は國史の上に不朽の名を得たのである。天主閣は五層にして高さ約三四米である。▼饒津公園 西北約一糎、二葉公園ともいひ園内には舊藩祖淺野長政を祀る饒津神社がある。▼泉邸 西一糎一、電車五錢、泉石花卉の勝あり、舊藩主淺野氏の別邸、庭園は支那西湖を模倣したもので、縮景園ともいふ。▼比治山公園 南一糎一、電車、自動車共に五錢、園内に日清の役に際し、臨時廣島帝國議會議事堂内にあつた記念御便殿を移した建物があり、今御眞影及當時の御物を奉置してある。
▼江波公園 西南七糎三、自動車あり、廣島灣に突出した丘上で島山の風光佳、海苔と牡蠣が特に良質

である。▼國泰寺 西南三軒一、電車五錢、曹洞宗の本山で城内に豊太閤靈堂などがある。▼宇品港 南六軒電車五錢、自動車十五錢、二十七八年戦役以來軍事上重要な兵站基地として、市の繁華を來した。陸軍運輸部本部、陸軍糧秣支廠などがある。對岸向宇品は樟の處女林が繁茂して風光がよい。

旅館 岩友、吉川支店、昭和館、鶴水館、土屋、吉川、松萬、わたや、天城。

名物 牡蠣、祇園坊、(柿)白柿、柿羊羹、蜜柑。

三段峽 西北七二軒、自動車三圓、往復五圓五十錢、三時間を要する。太田川の上流一六軒に互る溪谷で山容水態の美に富み殊に秋の紅葉がよい。猿飛、二段瀧、三段瀧、三つ瀧、龍門は峽中奇景の最たるもの。

探勝者は峽中又は手前の戸河内町で一泊せねばな

らぬ。尙入口から順次進んで二段瀧に至り復路は樽床から戸河内へ貸切自動車があるが豫約して置かねばならぬ。旅館(戸河内) 藤川、小田、川久。(峽入口) 三峽莊、峽南館。(峽中) 風林館、ますや。(樽床) 峽北館。

廣島縣廳は廣島市にあり、縣は備後、安藝を管轄し、北部の山地には牧牛の業盛んに又大麻の産あり、備後灘に瀕する尾道、福山地方には備後表、花苧を産し製鹽の業亦盛んである。廣島灣内には牡蠣の養殖多く、岡山縣と共に柑橘類の産も多い。

雨乞「はね踊」唄 (備後)

音頭「エーエーオーサー参らう」

踊子「ヤーサー、参らう

音頭「あら目出度や、地からも湧いて

踊子「空からも降る

音頭「地からも湧いて空からも降らば

踊子「五穀もみのる。以下畧

藝備鐵道 廣島から北に向ひ、三次を経て備後

庄 原まで九〇軒四。吉田口(よしだぐち) ▼毛利

元就の墓 西七軒二、自動車がある。三次(みよ

し) 江川の邊にあり風光美に富み、驛附近の巴峽

は鶴飼で知られてゐる。三次城址、眞宗の名刹照

林坊がある。備後庄原(びんごしやうばら)

旅館 右近、伊尾、旭館。

帝釋峽 備後庄原から二〇軒、連絡自動車四圓

廣島驛で連絡割引切符を發賣する。(五月から十一月まで) 帝釋川上流の溪谷で石灰石から成る、鍾乳洞、懸崖、自然に出來た石橋などの奇勝に富む。

いはゆる帝釋峽は、帝釋町の川向ひ、石雲山の麓、帝釋天を祀る永明寺から始まる。そこから下流八軒餘の間に城ヶ鼻、白雲洞、唐門、雄橋、雌橋などの奇勝が連り、就中唐門は一名鬼の木戸ともいひ石灰岩の門である。その最も奇なるは雄橋で石灰岩から成る自然の橋を成し雌橋これに次ぐ。旅館 角屋、大黒屋。

横川 (よこがは) 廣島電軌(横川、可部間一

三軒七) 接續點。附近は京菜、護謨製品を産する。

巨斐 (こひ) 長州風呂釜、罐詰、指物類、海

苔などの産出が多い。

宮島 (みやじま)

嚴島 日本三景の一、驛前の連絡船棧橋からは汽車の時間に接續して鐵道省の連絡船があり、賃十錢、十三分にして達する。島は廣島灣の西南佐伯郡の陸

岸に沿うて東西三軒三、南北一〇軒、その北寄に官幣中社嚴島神社あり、風光明媚の境を占め、殿閣海に向つて水中に基礎を建てゝゐる。有名な海中の大鳥居は前方一二七米軟砂の上に立つてゐる。

殿閣の前方、左右の江濱には松並木があり、松に沿うて百八の石燈籠がある。このあたり鹿が逍遙して人に親しむ。凡そこの神社の結構は江山自然の形勝を利用し、殿閣廻廊の排布の妙を極めてゐるのである。

御手洗川を渡れば大願寺がある。海に沿うて更に西すれば大元神社、境内は今公園となつてゐる。大元浦の後山には二層の寶塔がある。紅葉谷は公園で御手洗川が潺々として流れる處、岸の兩邊景趣に富む。宮の東岡の塔、岡は陶晴賢の陣を構へた處で、北方町を隔て、毛利氏の戎兵を置いた要害鼻を望むこ

とが出来る。岡に、豊臣秀吉の築造した千疊敷及五重塔がある。要害鼻は連絡船棧橋の上方で、元就はこゝに兵を置いて陶の大兵を誘致したのである。海岸に沿うて北に行けば長濱、杉浦共に海水浴に適する。彌山は大宮の後なる秀靈の峰、(四一四米)登路二軒七、頂上は内海の風致悉く脚下にあつまり觀望廣濶である、登路の途中に白絲の瀧の宮があり、夏の夜は螢の多い所である。

鳥に杉浦、鷹巢浦、腰細浦、青海苔浦、山白浦、須屋浦、御床の浦の七浦あつて、各浦に江比須祠が祀つてある、「安藝の宮島まはれは七里、浦は七浦七江比須」風光の變化に富み、煙波の趣多き、島巡り亦興が多からう、島巡りには鐵道省の巡遊汽船があり、嚴島棧橋を發し、杉浦、青海苔浦、須屋浦を経て歸著する。巡航期間四月三日から十一月二十三日まで、毎日曜

岩徳線

大祭日に限り巡航し、午前十一時に發し、午後二時五十五分に歸る、賃五十錢、貸切百人未満三十圓、二百人未満四十圓、二百人以上五十圓である。別に嚴島神社の監督の下に行はるゝ巡拜船があり、和船十人まで百圓(鳥食式、御初穂料、賄料を含む)未明に纜を御笠濱に解き、夕景網浦に上陸する、拜所毎に茅輪の儀あり、養父崎にて鳥食の式あり、極めて神異なる傳説を有してゐる。

旅館 岩惣、龜福、錦水館、宮島ホテル。
名物 杓子、丸盆、菓子器、その他細工物。
大竹 (おほたけ) 附近製紙業が盛んで古い歴史をもち和紙の年産額六百萬圓に達する。
麻里布 (まりふ) 岩徳線分岐點。人造絹絲の工場があり年産額一千萬圓に上る。

岩國 (いはくに) 岩國町はもと吉川氏六萬石の城下、蚊帳、岩國縮、岩國半紙の産地で、蚊帳は關戸蚊帳と稱し年産額百二十萬圓、強靱なので好評がある。舊城址は横山にあつて、その麓の吉香公園内に吉川氏の祖を祀る吉香神社あり、錦川一帯の風光を見渡される、園内櫻樹多く、花期四月中旬。
▼錦帶橋 岩國町の西南錦川に架してある。橋は一に算盤橋といひ、全長二三〇米餘、河中四箇の石臺を置き、之に五箇の拱式橋梁を架けたもので每橋長四五米餘、幅五米餘、彎曲最高所水面から一〇米餘本邦架橋工事中、構造の奇巧と堅牢とを以て聞えてゐる。

山陽線

旅館 米平、白爲。
名物 錦帶橋煎餅、櫻饅頭、錦外郎。

柳井 (やなる) 室津半島の頸部にあり、地形
優美な一要港で、柳井津編、甘露醬油を産する。
旅館 凌波館。

名物 三角餅。

島田 (しまだ)

▼八代の鶴渡來地 西北一六
料、自動車一圓三十錢、毎年十月下旬から翌年三月
上旬までこゝに棲むもの二百羽を數へ、全部鍋鶴で
西比利亞の東部若くは蒙古方面から渡來するといは
れてゐる。

旅館 米川、白玉、鶴見亭、松刀字。
名物 八代柿。

虹ヶ濱 (にじがはま)

▼海水浴場 西南三〇〇
米。▼室積灣 東南九料、自動車四十錢、岩田驛か

らも同料程、室津半島の南端にあつて、附近一帯白
砂青松連り、祝島、牛島、尾島などに横はり風光
極めてよく、象鼻山、普賢寺の勝もある。
旅館(虹ヶ濱) 鶴岡。(室積) 金久。
名物 (室積) 普賢煎餅、檜人形、名樂焼。

徳山 (とくやま)

下で、徳山灣に臨み水陸の便あり、海軍燃料廠があ
る。尙附近からは花崗岩が出る。
旅館 松政。

名物 澤庵粕漬。

戸田 (へた)

湯野温泉 三料三自動車がある
慢性滲出物諸症、婦人病などによい。
旅館 旭屋。

三田尻 (みたじり)

防石鐵道接續點、三田尻から
堀まで一八料七。三田尻町は三田尻灣に臨む周防第

一の良港で、宮市と合して防府町といつてゐる、附
近に鹽田が多い。▼宮市天満宮 三料二、輪奐の
美あり、境内は眺めがよい。▼國幣中社玉祖神社

西北六料自動車四十錢、玉祖命を祀る。▼國分寺

北一料七、天平年中聖武天皇行基に勅して創建せし
めた國家鎮護の道場の一で、金堂は國寶。寺寶多く
國寶に指定せられたものもある。

旅館 石田、旭館、松月。

小郡 (をごほり)

一、〇六一料 山口線分岐
點。山陰方面への乗換驛である。

秋吉鍾乳洞

小郡から大田を経て秋吉まで二八
料、自動車一圓三十錢、こゝの秋芳洞は長さ二料、
世界第二の大鍾乳洞で、洞中には山あり、川あり、
瀧あり、淵あり、之に鍾乳石、石筍、石灰華などの
奇觀が連續して加はる。洞内には電燈があり、渡舟

山陽線

あり、處に依つては橋も架けてある。入洞料(案内
料共)五十錢、秋吉から美禰線吉則へは一六料、自
動車一圓。

大田から別の道を取ると繪堂に行く、小郡、繪堂

間二六料、自動車一圓十五錢、繪堂からは四料で景
清洞につく、秋吉からは一四料、こゝは壽永の昔、
平景清が隠れてゐたのでこの名があるといふ。

その外、大正洞、中尾洞があるが何れも鍾乳洞で
洞内には多數の石筍、石柱が見られる。

山口線

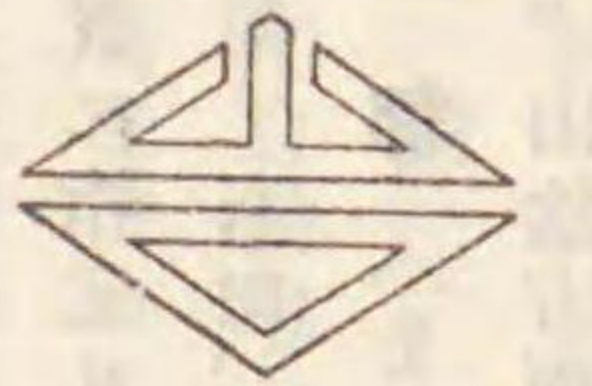
小郡から岐れ、山口、津和野を経て石見益田で
山陰本線と接續する支線で山陰線との間に直通列
車あり、山陽西部及九州方面から大社詣での捷路
である。

湯田 (ゆだ) ▼湯田温泉 北半籽、山口の人達の遊樂地で幕末七卿長州落の際には茲に滯留せられた。

旅館 松田屋、野原屋、水野。

山口 (やまぐち)

山口盆地の中央、樵野川



の上流にあり、南方纔に開けて他の三面は山に圍まれてゐる。大内氏の時、繁榮京都を歴する勢であつた。

市街整然、小京都の觀がある。毛利氏が居城を萩に築いてから稍衰へた

が、維新前毛利氏治所を茲に移し再び繁華に向ふことゝなつた。人口三萬三千(三、一二調)漆器、山口焼を産する。

龜山公園は西北約一籽半、自動車あり、大内氏の故墟で今公園となり、毛利氏宗支藩主の銅像が

建つてゐる。豊榮神社は東北約二籽半、別格官幣社で毛利元就を祀る。野田神社は豊榮神社の西隣にあり、毛利敬親を祀り、別格官幣社に列する。香山園は北二籽八、毛利敬親の墳墓があり、園内の露山堂は敬親が久坂、高杉、木戸などと勤王の大事を議した處、附近瑠璃光寺、洞春寺あり、瑠璃光寺内の五重塔は嘉吉年間(約五〇〇年前)の建造で高さ三〇米、國寶である。市に縣廳、山口高等學校、山口高等商業學校がある。

旅館 上田、中村。

名物 舌鼓、外郎、大内塗。

山口縣廳は山口市にあつて周防、長門を管轄し、三面海を繞らして沿岸の平野に米を産し、瀬戸内海には鯛、鱈多く、近海の水産は、中國

第一である。海濱には又多く鹽を産し、三田尻はその中心となつてゐる、その他大嶺からは無煙炭を出し、萩からは夏蜜柑の産多く、下關は穀物、海産物などの取引が盛んである。

長門峽 (ちやうもんげふ)

長門峽 驛前から金郷出合まで約一〇籽に互る

阿武川峽谷を長門峽といひ、空氣の變化、石脈の横斷、水中の巨岩及石色石理、瀑布及淵潭、天然喬木林の五大特色があり、峽谷の規模大きく、殊に巨岩の多いことは我國に比類ないものといはれてゐる。金郷出合から約五籽、高瀬に出で高瀬からは更に川舟で舟行一六籽(八人乗一艘午前は四圓、午後は五圓五十錢、二時間半乃至三時間)萩町に出られるが、途中湯ノ瀬温泉に一泊すると面白

い、西約一籽に佐々連鍾乳洞がある。旅館 萬碧樓。

別に金郷出合から約二籽下流の渦ヶ原から萩町まで二六籽自動車一圓九十五錢、萩から歸途繪堂まで二一籽自動車あり、繪堂から景清洞、秋芳洞を巡遊するも面白い。(小郡驛參照)

徳佐 (とくさ) ▼十種峯スキー場 西北六籽、山麓まで馬橋がある。

旅館 (驛前)平野屋。

津和野 (つわの) 山陰山陽の境界にあり、青巒四周の地、もと龜井氏四萬三千石の城下、城址、津和野神社、永明寺、白絲瀬など見るべきものである。

旅館 錦屋、岩崎屋。

名物 源氏巻。

石見益田 (いはみますだ) 山陰本線接続點。

宇部 (うべ) 宇部鐵道(宇部、小郡間三三

一) 船木鐵道(宇部、吉部間一七

七) 接続點。宇部市は附近に炭礦多

く産額百六十二萬噸に達する、人

口五萬八千。(四、三調)



小野田 (をのだ) 小野田鐵道接続點。小野田か

らセメント町まで四軒七、セメント町には小野田セ

メント工場がある。この工場は本邦に於ける私設セ

メント工場の嚆矢といはれてゐる。

厚狭 (あさ) 美禰線分岐點。

美禰線

この線は厚狭から分岐して北進し、伊佐で大嶺
に至る支線を岐ち、於福を経て日本海岸奈古まで

行つてゐる。

伊佐 (いさ) 大嶺支線分岐點。大嶺驛の北

三〇〇米に山陽無煙炭礦、北四軒に大嶺無煙炭坑

がある。

吉則 (よしのり) 秋吉鍾乳洞 東北一六

軒自動車一圓。(小郡驛参照)

長門湯本 (ながとゆもと) 深川温泉 長門

第一の名湯、濫木の清流に臨んだ閑寂の境、附近

には曹洞宗の名刹大寧寺あり、大内氏の創建で義

隆は陶晴賢の反に遭ひこの寺に逃れて自刃したの

である。

旅館 大谷屋、白木屋、水津、秋山。

依山温泉 西南一〇軒二、自動車九十錢、旅館

山口屋、福隔。近松門左衛門出生地 北二軒二

江良にある。

正明市 (しやうみやういち) 長門古市驛へ至

る支線の分岐點。日本海岸に近く、北四軒に仙崎

港あり、自動車十五錢、仙崎は青海島と相接して

小海峽をなし、水産試験場、捕鯨會社などがある。

▼青海島 仙崎と狭い水道を隔て周圍二八軒、北

日本海に面する處奇巖簇立、豪岩雄大の景趣あり、

内海の島巡りの興も深い、周遊季節は四月頃から

十一月頃の風波の平穩な日がい、所要時間五時

間乃至七時間賃モーターボート十八人乗十八圓、

發動機船五十人乗二十圓、三十人乗十七圓、この

他偶數日及祭日には定期乗合船あり賃一圓。

玉江 (たまえ) 萩城址 北二軒、附近に

支都岐公園あり櫻樹が多い。園内に支都岐神社が

あり、自動車二十錢。

萩 (はぎ) 町は日本海に臨み、毛利輝元の慶

長築城以後(約三〇〇年前)文久年間の山口移轉に

至るまで、毛利氏累世の城下であつた處、人口三

萬三千。▼明倫館址 北二軒、自動車十錢。

名物 蒲鉾、萩焼、夏蜜柑、こゝの夏蜜柑は味の

よいので古くから知られて居り、年産額四十萬圓

に上る。

東萩 (ひがしはぎ) 松陰神社 東南一軒

吉田松陰を祀る。境内に隣接して維新の傑士を多

數出した松下村塾及松陰の幽閉せられた家がそ

のままに残つてゐる。

▼反射爐 東北一軒半、自動車十二錢。▼越ヶ濱

と明神池 北三軒八、自動車三十錢、萩の東北海

中に突出した小半島で風光佳。明神池は天然の一

大水族館をなす。

奈古 (なご) 現在美禰線の終點、山陰線須

佐驛へ自動車の便あり、沿道風光がよい。

小月（をづき） 長門鐵道（小月、西市間一八

軒二）接續點。依山溫泉はその西市から北一六軒、
自動車がある。

旅館 福隅、藤井。

長府（ちやうふ） ▼國幣小社忌宮神社 西南二

軒半、自動車二十錢、仲哀天皇の豊浦宮址にあり、

仲哀天皇、神功皇后、應神天皇を祀る。▼乃木神社

及乃木將軍舊邸 西南二軒半。▼功山寺 曹洞宗の

名刹、南三軒自動車二十錢、境内は櫻の名所。

長門一ノ宮（ながと、いちのみや） ▼官幣中社住

吉神社 南約一軒、表筒男命、中筒男命、底筒男命

の住吉三神を祀る。社殿宏麗で三韓の役の戦利品大

鐘を藏し、國寶となつてゐる。

幡生（はたぶ） 小串線分岐點。山陽電氣軌道

（幡生、東下間二軒三）接續點。

小串線

川棚溫泉（かはたなをんせん） ▼川棚溫泉

東二軒自動車がある。

旅館 菊水、新店。

阿川（あがは） 小串線の終點、この線は更

に延びて美禰線正明市驛に接續することになつ

てゐる。

下關（しもせき） 一、一三〇軒五 東京から

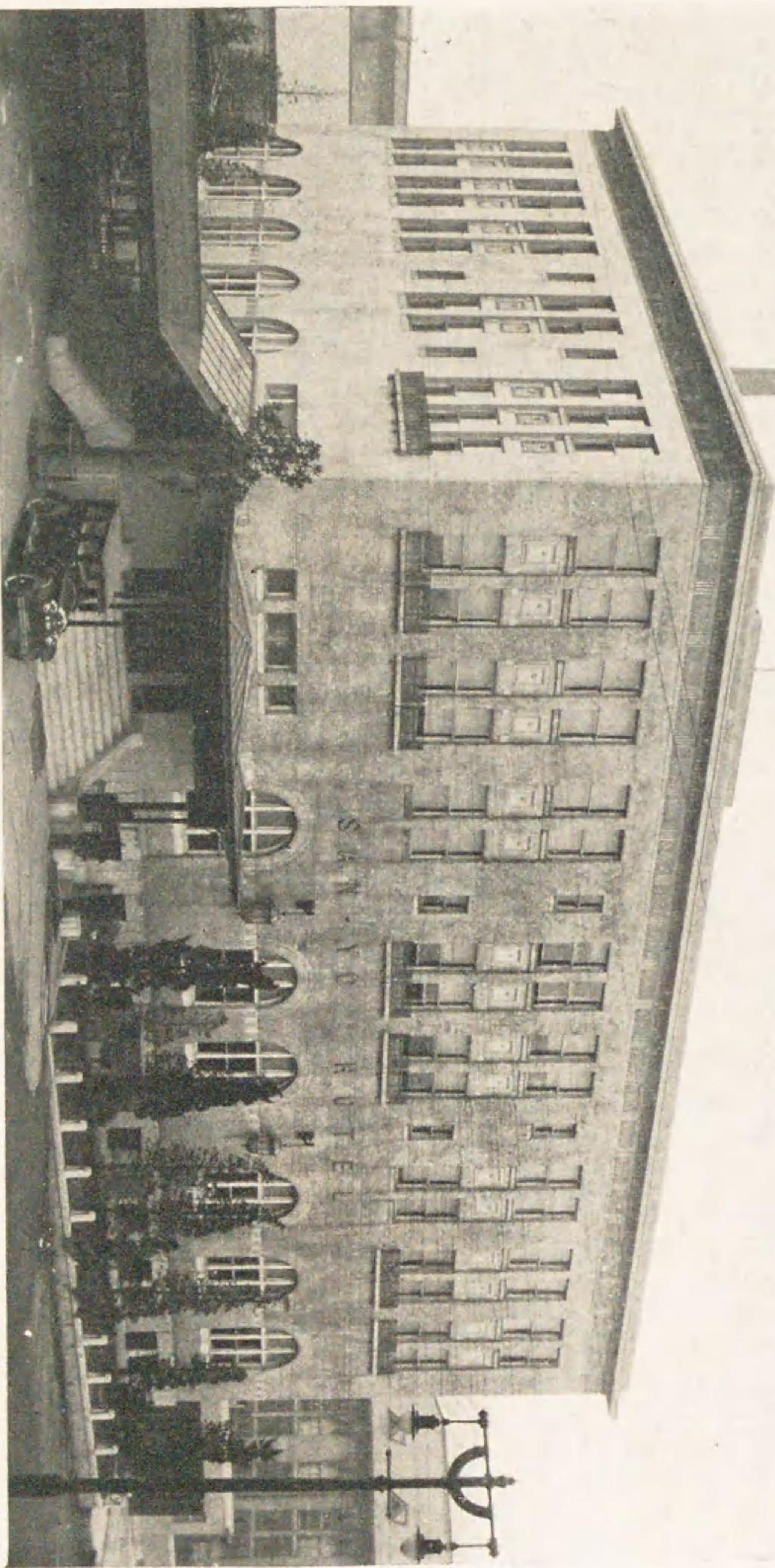
普通急行で二十四時間、中國地方の西南端、下關海

峽の北岸にあり、九州の門司と相對して瀬戸内海の

西口を扼し、交通上、軍事上樞要の地點を占め人口

十萬五千、中國第一の貿易港で昭和三年度貿易額輸

出二百六十三萬圓、輸入七十八萬圓、又鮮魚の陸揚



山陽ホテル



港としても知られその年産額一千二百萬圓に上る。鐵道省の連絡汽船により、對岸の門司へは十八分、釜山へは晝夜二回の鐵道省連絡船便があり、九時間を要し、朝鮮總督府鐵道局線列車に接續する。

市街は後に丘陵を負ひ、前は直ちに海に接して、東は壇浦だんのうらから西は彦島ひこしまに連つてゐる。その後山に登れば、眼界遠く開け、山光水色畫くが如く、山陽線中稀に見るの佳景である。

遊覽地 官幣中社赤間宮あかまは東二軒二、紅石山麓べにいしにあり、境内に隣して安徳天皇の御陵あり、附近平家一門の墓あり、懷古の情を催さしめるものが多い、宮から東數百米壇浦だんのうらがあり、浦には平家蟹が名物になつてゐる。

龜山神社は東一軒八、海岸丘陵にあり、關門風光一眸の中に萃り、廊門に掲げてある「鎮西第一勝」の名に恥ぢぬ。春帆樓は東二軒、日清媾和談判場、永福寺は東七〇〇米、大同年間（一、二二一年前）創建の臨濟宗の古刹で水陸の展望がよい。

小門せどは西二軒半、山水の風光に富み、附近の漁夫が夏秋の交、夜々小舟に松明たいまつを焚き網を以て魚類を捕ふ、之を小門の夜焚よたきといひ、素人もまた抄網すくひあみを以て容易に捕獲することが出来る、雇船四人乗一夜七圓内外奔流渦卷く所、巧に舟を操り、趣味多き遊である。

山陽ホテル 驛前にあり、省直營、館内各室とも清楚を旨とし、酒場、玉突場、閱覽室、浴場などの外、船車連絡客のため特に無料休憩の設備もあるから、宿泊は無論であるが、汽車汽船の待合せ、入浴

食事などにも便利である。宿泊料は歐式のみで一日（食料を含まず）四圓以上。本食堂の食料は朝食一人前一圓五十錢、晝食同二圓、夕食同二圓五十錢、本食堂の外、地下室には氣の利いた Grill 食堂の設備があつて、午前八時から午後十一時まで近海で獲れる鮮魚を主とした地方色濃やかな清新な一品料理を提供する。入浴料一回五十錢である。

旅館 春帆樓、濱吉、川卯。

名物 硯、雲丹、泡雪、龜甲煎餅、鯨尾、羽毛、平家蟹。



山陰線

一 山陰本線	京都、須佐間	五四二籽〇
一 舞鶴線	綾部、新舞鶴間	二六籽四
一 宮津線	新舞鶴、中舞鶴間	三籽四
一 峰豐線	舞鶴、網野間	五五籽七
一 因美北線	豊岡、久美濱間	一一籽九
一 倉吉線	鳥取、智頭間	三一籽九
一 境線	上井、倉吉間	四籽二
一 大社線	米子、境港間	一七籽九
	出雲今市、大社間	七籽五

本線は京都を起點とし、保津川の溪谷に沿うて山陰に入り、綾部で北に舞鶴線（宮津線はこの線の舞

鶴で分岐する）を岐け、西して福知山線と會し和田山で播但線に接続し、豊岡では峰豐線を右に岐け、圓山川に沿うて城崎温泉郷を過ぎ、竹野に出て初めて蒼茫とした日本海に接する。

竹野から西米子に至るまで、汽車は絶えず日本海に沿うて走り風光に富む。鏝驛は懸崖の上であり、斷崖の下、岩に縋つて軒を列ねる漁村は鏝村である。そこから走ること約一籽六、辨天、荒神、兩山の溪間、餘部の村落を跨いだ延長三〇八米、高さ四〇米の大鐵橋を渡る。鐵橋から右に見える御崎村は鏝村と共に平家の落武者村と傳へられてゐる。久谷、濱坂から居組、岩美に至る間、景致一段と美しさを増す、鳥取で因美北線を左に岐けて進めば湖山池、東郷湖の風光が車窓に入る、上井では更に倉吉線を左に岐つ。やがて大山の秀麗な山容に迎へられつゝ伯

舟疊に門院始め總に立ち
注進のたびに平家は後家が殖え
二むかし榮華の夢は船でさめ
旗色を茹てあらはす平家蟹
下の關蹴出しに直す緋の袴

山陰線

者大山につく、こゝで伯備線を岐けて陰陽を連絡し米子に至つて境線を右に岐ける、汽車は中海に沿ひつゝ松江に至り宍道湖の風致に接する。日本海の豪壯な風光に別れてこの温雅な光景に遇ふ、山陰の景致亦多趣なりとせねばならぬ。

松江から宍道湖畔に沿うて走り、出雲今市に行けば、こゝで大社線を右に岐ける、本線は再び日本海岸を走り温泉津、石見第一の都會濱田を過ぎ石見益田で山口線と會して山陰山陽を連絡し、海岸傳ひに須佐まで延びてゐる。

列車は京都から大社へ一日一回、濱田へ同二回、大阪から福知山線を経て大社へ一日一回、出雲今市及石見益田へ同各一回の直通列車がある。京都、大社間約十一時間、大阪、大社間約十二時間を要し、大阪石見益田間約十四時間を要する。又陰陽直通連

絡としては、出雲今市、大社、豊岡、福知山から小郡行の列車が出る。

山陰本線

京都 (きやうと) 東海道本線参照。

花園 (はなぞの) 附近、廣隆寺、妙心寺、仁和寺、等持院などの名刹がある。又高雄、横尾、榊尾の紅葉境へもこゝから行くのが便利で三時間もあれば十分である。

龜岡 (かめをか) もと龜山と稱し松平氏五萬石の城下、驛の前面にある龜山城址は明智光秀の築いたもので、本能寺襲撃はこゝで計畫されたといふ。旅館 改開樓、高鳥屋。

名物 丹波栗(年産額十萬圓)

保津川下り 東北三三〇米、保津川遊船場あり、

川下りはこゝから嵐山渡月橋畔までする、下流約一二軒清瀧川と會ふ落合石門から先はいはゆる嵐峽の勝で桂川となる、舟は亂石奔湍の間を巧みに縫ひ壯快盡きぬものがある。四月中旬櫻花の頃、五月中旬から六月にかけての躑躅の頃、十一月の紅葉の頃が特に興趣が多い、船賃切十八人まで十八圓、乗合一人一圓七十錢。

園部 (そのべ) ▼瑠璃峽 西一六軒、溪山の勝がある。

綾部 (あやべ) 七七軒八 舞鶴線分岐點。もと九鬼氏二萬石の城下、郡是製絲會社があり、生絲の年産額三千萬圓に達する、大本教本部もこゝにある。旅館 龜嘉、龜甲屋。

舞鶴線

山陰線

舞鶴 (まひづる) 宮津線分岐點。もと牧野氏三萬五千石の城下で、田邊城址は南三三〇米、細川幽齋に因む古今傳授の松がある。旅館 清和樓、常磐樓。

宮津線

丹後由良 (たんごゆら) 前に渺茫たる日本海を控へ、夏季海水浴によく、その石浦にはいはゆる山椒太夫の屋敷の跡といふ石の水船があり、附近に安壽姫祠、山椒太夫刑場址などがある。旅館 丹後屋。

宮津 (みやづ) もと松平氏七萬八千石の城

下、宮津灣に臨みその前面に天橋立あまのましたてが見える。

宮津港の貿易額は昭和三年度輸入六十九萬四千三百三十一圓である。

丹後縮緬を特産とし生絲、繭、絹織物、その他海産物が多い。

旅館 荒木、山嘉、精輝樓、北野屋、茶六、洋加樓、油原、ふでや。

宮津節 (丹後)

二度とゆくまい丹後の宮津

綿の財布が空になる

丹後の宮津でピンと出した。

會うてうれしや別れのつらさ

會うて別れがなけりやよい

丹後の宮津でピンと出した。

天橋立 (あまのはしだて) 京都から一二六軒

六。附近の天橋立は日本三景の一。



天橋立の天

天橋立遊覽

文殊もんじゆは天橋立南方の岸頭で、文殊もんじゆ

閣あり、遙に成相寺なりあひに對して晝中の景物を添へて

ゐる。かの崇神すじんの御代に天照大神の暫し鎮座せら

れた與謝宮よさのみやはこの境であるとの説がある。驛を出

で、小天橋を渡れば即ち天橋の沙洲、萬松一路

海に泛ぶこと凡そ三軒餘、上下概ね枝を齊しうし

て一字を碧水の上に描き、遠く之を望めば長洲海

波に映じて水中に松あるが如くである。

白沙青松の間を行くこと暫し、松林中に橋立神

社があつて、その傍に磯清水いそしみづとて清冽な靈泉があ

る、岩見重太郎が、父の仇を討つたのはこの邊だ

といふ。このあたりから天橋の幅次第に狭く、松

も亦疎となり、江尻えじりに至つて全く盡きる。

橋立の景は樗峠あふちと成相山なりあひに登つて俯瞰せねばそ

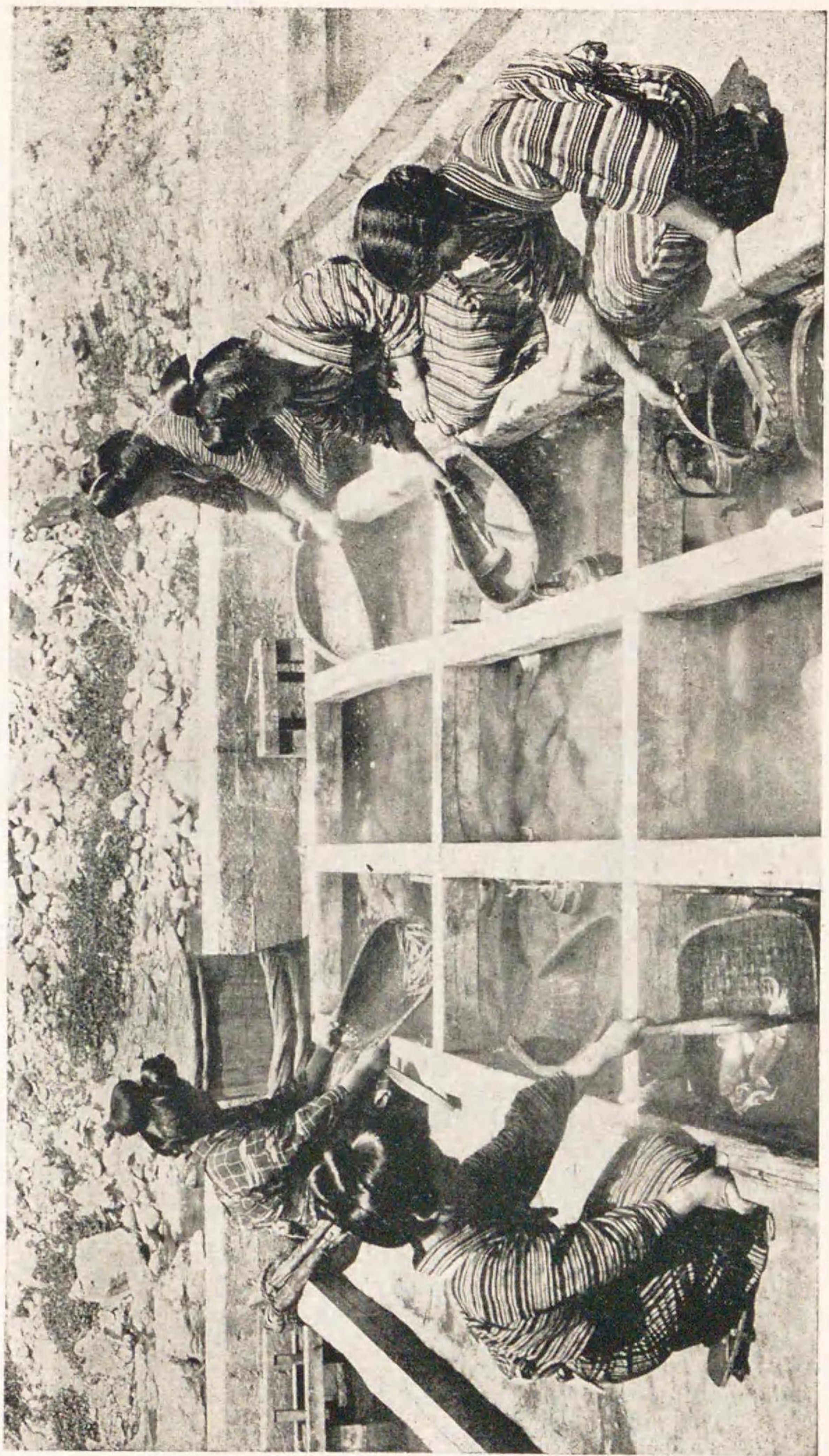
の價値を判ずることは出来ぬ。文殊から樗峠あふちへ自

浦富海岸



松江及安道湖

湯村温泉の湯元



自動車あり、麓の岩瀧には汽船もある。樗峠からは横一文字に、成相山からは斜に縦一文字に見える。

江尻から府中の國幣中社籠神社に詣で、成相山に登ると中腹に西國三十三所觀音第二十八番の札所成相寺があり、與謝の江山全景を望める、賽路の傍笠松の蔭からの眺望が第一である。府中、傘松間にはケーブルカーがある、天橋立股眼鏡はここに設けてある臺石の上からするのである。成相山は又近時スキーの適地として知られて来た。

丹後山田 (たんごやまだ) 加悦鐵道接續點。

加悦鐵道 丹後山田、加悦間五軒六。

加悦驛から約一軒に、最近発見された蛭ノ子山、作り山の古墳がある、臨濟宗の古刹、慈徳院の山門前にあつて大和式前方後圓墳、前者からは割竹式船形石棺、後者からは組合式船形石棺が發掘さ

山陰線

れた。又傳説の山、大江山はこゝから山麓まで三軒餘。(大江山は山陰本線福知山驛參照)。

峰山 (みねやま) もと京極氏一萬石の城下で、四面丘巒の間にある、こゝから久美濱に出れば(自動車あり)山陰本線の豊岡まで峰豐線が通じてゐる。峰山町は丹後縮緬の産地で、約二百年前その製法が京都からこゝに傳はりその後丹後國一圓の主要産業となつたもので、年産額四千四百萬圓に達してゐる。

福知山 (ふくちやま) 九〇軒一 福知山線分岐點。北丹鐵道接續點、福知山、河守間一二軒四。

もと朽木氏三萬二千石の城下、音無瀬川に臨み、水陸運輸の便を占め丹波第一の都會である。▼福知山城址 東五五〇米。旅館 喜壽儀、舟橋、平佐。

大江山 北二四軒、途中河守までは北丹鐵道の便がある。福知山から一二軒四、河守から徒歩約一軒半にして元伊勢宮あり、宮は古伊勢大廟の鎮座せられた處と傳へ、社殿の構造伊勢と同じで、宮川、五十鈴川、宇治橋、天ノ岩戸などがある。それから山路を四軒餘で大江山に達する。山上の中腹に鬼ヶ嶽稻荷があり、山上には酒呑童子の棲んだと傳へられてゐる廣さ四、五十疊位の鬼ノ岩屋があり、附近には官女洗濯岩、頼光腰掛岩など酒呑童子や源頼光に因んだ遺跡と稱する場所が數々ある。

大江山から宮津方面の加悦鐵道加悦驛に出て、橋立方面へ周遊するもよい、山麓から加悦まで三軒餘。

和田山 (わだやま) 一二〇軒六 播但線分岐點。

江原 (えばら) 出石鐵道接續點。出石まで八軒四、終點出石はもと仙石氏三萬石の城下で、出石

燒の産地である。製品の茶器、花瓶、湯呑などは好評があり、年産額十五萬圓に上つてゐる。▼鶴山 約一軒半、山本村にあり、毎年五月から六月下旬までの間十數羽の鶴が山腹の松上に巢を構へて雛鶴を育てる。▼神鍋山スキー場 九軒、冬季一米乃至二米の積雪があり雪質もよく、場所も廣く關西屈指のスキー場として知られてゐる。▼國幣中社出石神社 東一二軒、自動車及出石鐵道の便がある。太古我國へ渡來した新羅王子天日鎰命を祀る。

峰 豐 線

豐岡 (とよをか) 峰豐線分岐點。もと京極氏一萬五千石の城下、柳行李、柳籠などの生産に古い歴史をもち年産額二百萬圓。

旅館 あまや、竹井。

この線は久美濱まで開通し將來宮津線と接續する豫定である。

久美濱 (くみはま) 久美濱灣は灣口が狭く囊を括つたやうで、湖水の觀がある。町の東方甲山

に登れば灣内の風光は更なり、東は丹後、西は但馬の海岸を望み、勝れた景觀がある、こゝから宮津線の峰山へは自動車を通ずる。

玄武洞 (げんぶどう) 驛前圓山川の對岸を望めば山の半腹に見える石窟が玄武洞で、全長七三米、

左右中の三房に分れ、蜂巢狀を呈し頗る奇觀である。

城崎 (きのさき) 昔から開えた温泉地、日神山公園、玄武洞、圓山川、津居山港は浴客の遊覽區域である。

城崎は山陰温泉の門戸で、こゝを振り出しに沿線到る處に温泉があるから、旅行者は往復共に温泉に

親しむ楽しみがある。

山陰沿線の諸温泉

▼城崎温泉 城崎驛附近、古來山陰第一の稱がある。神經痛、リウマチスなどによい、三面山を圍らし、東は圓山川に臨み、山水の美がある。温泉附近は各一米乃至一米半の積雪があり、近時スキー地として知られて來た、驛から約一軒に桃島の練習場があり、約四軒に來日岳スキー場がある。

旅館 油筒屋、西村屋、三木屋。

▼湯村温泉 濱村驛から一〇軒自動車の便がある。浴場の前には荒湯が湧き、煮物に熱湯を用ゐる薪炭にやらない。湯の町は春來川を中に挟んで軒を列ねてゐる。

旅館 柳屋、井筒屋。

▼岩井温泉 岩美驛から四軒、自動車(二十五錢)軌

道(十五錢)があり、胃腸病、痔などによい。東南は山に圍まれ、西北には廣々とした田野が展げ蒲生川が緩く流れてゐる。こゝでは昔から節面白い「湯かむり歌」を歌ひながら柄の短い杓子で頭から湯を冠る風習がある。逆上を引下げるためであるといふ。

旅館 木鳥屋、明石屋、岩井屋。

湯かむり歌

忠臣蔵づくし

初まる初まるひきぬき手をざり

三番は申すに及ばず

藝題は忠臣三つに四つは五つでも

六つ七な八つは初めのおきよ (以下略)

▼鳥取温泉 吉方、寺町、末廣の三温泉の總稱で、鳥取驛から一軒餘、皮疹、呼吸器病などによい。鳥取市民の行樂地である。
旅館 鳥取温泉、末廣温泉、八千代。

▼吉岡温泉 鳥取驛から約八軒餘、自動車四十五錢。上ノ湯、下ノ湯があつて、胃腸病、神経痛などによい、前面には湖山池が展けてゐる。
旅館 吉岡ホテル、糺屋、三谷。
▼濱村、勝見温泉 濱村は濱村驛から北二二〇米、勝見は同驛南柵外、何れもリウマチス、子宮病などによい、この二温泉は鐵路を挟んで脊中合せになつて、濱村川の清流に臨み、砂丘の蔭にある。温泉から一四軒、鹿野町の幸盛寺には山中鹿之助の墓がある。
旅館 鈴木、煙草屋。
▼松崎温泉 松崎驛前。
旅館 土井、河本。
▼東郷温泉 松崎驛から西約一軒、自動車二十錢、子宮病、神経衰弱などによい、東郷湖畔にあつて、

風光の美は昔から伯耆名所の歌になつてゐる。こゝの鰻は名物。

旅館 養生館。

▼新東郷温泉 湖上約一軒半、モーターボート十五錢、リウマチス、花柳病などによい、水に臨んで東郷温泉と相對する。

旅館 東郷館、旭館。

▼三朝温泉 上井驛及倉吉線倉吉驛から八軒餘、自動車四十錢、鹽類、硫黄、炭酸の三泉があり、ラヂウム含有量は日本第一といはれる。リウマチス、肝臓、腎臓病などによい、地勢高燥、三朝川の清流を挟み山に圍まれた閑雅の境である。約四軒餘に名刹三徳山三佛寺(天台宗)があり、奥ノ院投入堂及その本尊木造金剛藏王大権現、古銅鐘は國寶に指定されてゐる。

旅館 齋木、岩崎、岩場、木屋。
▼關金温泉 倉吉驛から約一一軒、自動車五十錢。ラヂウム含有量の多いことは三朝に次ぐ、皮膚病、神経痛などによい。
旅館 鳥飼、千代田、山本。
▼皆生温泉 米子驛から五軒、電車十八錢、婦人病呼吸器病などによい。夜見ヶ濱の頸部にあり、日本海に接し、伯耆富士に對して風光明媚の境。
旅館 靜養館、錦波館。
▼玉造温泉 湯町驛から二軒、リウマチス、花柳病、子宮病などによい、出雲風土記に載せられてゐる程の古湯で宍道湖に面して風致よく玉造川は町を貫流する。
旅館 保性館、松ノ湯、伊藤。
尙驛の西北五五〇米に湯町新温泉がある。

山陰線

旅館 千登世

▼湯ノ川温泉 莊原驛から約一軒、皮膚病、創傷、眼病などによい、大國山の麓で静かなところ。

旅館 湯ノ川館。

▼志學温泉 石見大田驛から東南約二〇軒半、自動車二圓五十錢。湧出量多く湯は溪流をなし、咽喉諸症、婦人病などによい、三瓶山麓にあり眺望廣大、三瓶登山の休憩地として知られてゐる。

旅館 北原、三河。

▼小屋原温泉 石見大田驛から一〇軒、三瓶山の西麓にあつて三瓶川の清流を望む。

旅館 熊谷。

▼湯泉津温泉 温泉津驛から約一軒、自動車あり、(小濱温泉は約三〇〇米)、胃腸病、肝臓、子宮病によい。三方山に圍まれ一方海に臨んで景色がよい。

旅館(温泉津) ますや、康養館、能川屋。(小濱)小濱温泉。

▼有福温泉 波子驛から約四軒半、自動車往復四十錢。リウマチス、婦人病などによい、溪谷に臨み、枕頭に清流のさゝやきを聞く。

旅館 主屋、三階館。

竹野 (たけの) 附近は海水浴に適し、海岸まで約一軒。

香住 (かすみ)

▼大乘寺 東南約一軒、自動車あり、眞言宗の名刹、畫人圓山應舉が密英法師の恩義に酬いる爲、襖を始め多くの畫幅に筆を残したので應舉寺ともいふ。

鎧 (よろひ)

鎧村は附近の御崎村と共に平家の落武者の隠れた處と傳へ、古來山海の交通の無い一漁村で、一帶の海岸に奇勝が多い。この驛から次驛

久谷驛間には餘部の大鐵橋がある。長さ三〇八米、高さ四〇米、橋脚はトレススル式を用ゐてある。

濱坂 (はまさか)

▼湯村温泉 南一〇軒。

岩美 (いはみ)

岩井町營軌道接續點。岩美、

岩井温泉間三軒四。▼浦富海岸 西北約三軒自動車あり、浦富から網代に至る海岸八軒の間、海岸は千態萬様の出入屈曲をなし、碧波奇岩怪石を噛み斷崖は空を覆ひ、岸邊近くに景趣面白い島々が浮ぶ、その中、觀音島、菜種島、門島、千貫松の諸島は特によい。又白沙青松の入江で、海水浴に適する所もある。▼岩井温泉 東南四軒、軌道の便がある。

鳥取 (とつとり)

二三一軒九 因美北線分岐

點。京都、大阪から約七時間、もと池田氏三十二萬五千石の城下で、人口三萬九千(四、三調)繭、生絲、米、木材、和紙、白珊瑚、海松パイプなどを産



する、和紙は因幡紙の名で廣く知られ、往時は藩主の料紙に指定されてゐた、年産額百二十萬圓に達する。

▼鳥取城址 約二軒、久松山

麓にあり、久松城ともいふ。天文十四年(三八〇年前)山名誠通の築くところ。▼樗谿神社、東北二軒。

▼荒木又右衛門墓 東北一軒六、市内玄忠寺にある。又右衛門は渡邊數馬と共に伊賀越の仇討後、藤堂氏に預けられ伊勢にあること五年、後鳥取藩に移され當地に歿した。▼渡邊數馬の墓 市内栗谷興禪寺にある。▼國幣中社宇部神社 東一五軒、稻葉山麓にあり、武内宿禰を祀る。▼摩尼寺(天台宗) 北約五軒、摩尼山上にある因州第一の靈境。

▼鳥取温泉 東北一軒餘。▼吉岡温泉 八軒半餘。

山陰線

▼濱坂砂丘 北五軒、海岸の一大砂丘で青松を配し風光がよく冬はスキートの練習場となる。
旅館(鳥取) 小銭屋、米善、松の家。
名物 海松パイプ。

鳥取縣廳は鳥取市にあつて、因幡、伯耆を管轄し、大山火山高く縣の西部に聳えその裾野には牧場がある。縣は一般に養蠶業行はれ、西部には綿の産多く、倉吉では木綿織を産する。

因美北線

郡家 (こほげ) ▼若櫻町 約一七軒、自動車の便がある。池田氏一萬五千石の治所。若櫻城址がある、一名鬼ヶ城ともいふ。矢部若狭守の創築である。

智頭 (ちづ) 美作に行く通路に當り、こゝから津山へ行くに駒歸峠越と那岐山越の二路があり草鞋旅の興が深い、駒歸まで一二軒の間は自動車(八十錢)が行く。

寶木 (はらぎ) ▼白菟神社 東五軒、大國主命が氣多の岬で素兔を救はれたといふ神話で知られてゐる。▼氣多ノ岬 東六軒、素兔神話にある素兔到着の岬。

濱村 (はまむら) ▼濱村温泉 北二〇米。

▼勝見温泉 驛南柵外。

松崎 (まつざき) ▼松崎温泉 驛前。▼東郷温泉 西約一軒。▼新東郷温泉 東郷池の西北岸、湖上約一軒半。▼倭文神社 北約二軒七、伯耆國一ノ宮。

上井 (あげゐ) 二七一軒七、倉吉線分岐點。

倉吉は商工業地で生絲の年産額三百萬圓、その他農蠶具の産額も七萬圓に達してゐる。城址は今打吹公園といひ、驛南約二軒、櫻樹が多い、園内に光格天皇の御生母盤代の君を祀つた大江神社がある。三朝(八軒)、關金(約九軒)の温泉へも倉吉から行ける。

旅館 中井、牧田。

赤碕 (あかさき) ▼船上山 西南約一軒、

山麓まで六軒自動車五十錢、大山山系中の一峯で、名和長年が後醍醐天皇を奉じて義旗を擧げたところ、山中の智積寺は行在所の跡である、山中に船上神社がある。

御來屋 (みくりや) ▼別格官幣社名和神社 西南約二軒、元弘の忠臣名和長年を祀る。賽路に櫻多く毎年四月上旬から五月上旬まで觀櫻客の爲に名和假

驛を設ける。▼御醍醐天皇の御着船所 西約一軒。
大山口 (だいせんぐち) 大山頂上まで約一六軒。大山寺まで自動車一圓。附近は干瓢の産地。(大山は伯耆大山驛参照)。

伯耆大山 (はらきだいせん) 三一九軒八 伯備線分岐點。(山陽線倉敷驛参照)。

大山 絶頂まで東南約二一軒。山陰旅行者の忘れ得ない風光の一である。山は一に大神山と稱し、伯耆富士又出雲富士ともいつてゐる。火山通有の圓錐形を呈し、海拔一、七一三米、山陰山陽第一の高峰である。

山麓は廣漠たる裾野で牧畜に適し、軍馬育成所あり、冬季は有数のスキー場として知られて來た。例年日を定めて牛馬の驪市を開く。驛から中腹大山寺まで一四軒、自動車一圓。登山者は大山寺の僧房に

一泊する。蓮淨院、洞明院、金剛院、普明院、清光院その他旅館もある。大山寺から頂上まで約三料である。登山案内人は十四五名までは一人でよい。

寺は天台宗に屬し、本堂及阿彌陀堂は遠く天承年間(約八〇〇年前)の造營に成り、後、稍縮小して再建したもの、棟木柱礎皆創立當時のものを用ゐてあり、依然として千年の古建築たるを失はなかつたが昭和三年惜しくも焼失した。寺域は大山の中腹に位し眺望雄大である。

登山者は寺の東數百米の國幣小社大神山神社奥社に參拜し、行くこと二料にして、横腹といふ處を過ぎればこゝから峻嶮な登山道となる、登路極めて峻嶮、僅か三料の絶頂まで、登り三時間を要する。

頂上の眺めは頗る雄大で、北は船上山、隱岐の孤島、美保灣、中海、宍道湖などから西は出雲石見の

境上に聳える三瓶山に及び、東は但馬丹波の峰々から遠く加賀の白山に及び、南は作州の諸峰を見下し、四國淡路島に及び、山陰山陽兩道の名山大嶽、皆容を整へて仕ふるが如く見える。

下山は頗る痛快で裏坂砂上を約一時間で下つて大山川原に達し、こゝから奥社を経て大山寺に約十分で歸着する。

米子 (よなご) 三二四料六 伯陽電鐵接續點。米子、法勝寺間一二料四。

京都及大阪から約九時間、丘陵を負ひ、大山平野を帶び中海に面し、夜見半島の頸部を占めてゐる。

境と共に山陰に於ける良港で商工業盛んに海陸交通の便よく殊に伯備線全通後一大躍進の勢を示して來た。古來山陰地方の俚諺に「逃けて米子で花



北約五料。

旅館 島佐、米村、松屋、柏木。

境線

沿線一帶の地は即ち夜見ヶ濱である。濱は美保灣と中海との間を隔離する一條の堆洲で長さ二〇料廣き四料、また弓ヶ濱ともいふ、一帶の蒼松雲の如く連つて風光優美詩人は之を大天橋と呼ぶ。

境 (さかひ) 夜見ヶ濱の尖端にあり、東は渺茫たる大海に臨み、西は中海を介して宍道湖に通じ前面は島根半島障壁をなして、自然北海の風濤を防ぎ山陰に於ける有數の要津、山海の景勝を占めてゐる。昭和三年度貿易額輸出入二千二百萬圓。旅館 油屋、唐津屋。

隱岐島 隱岐は日本海上の一孤島、知夫島、西

が咲く」とは蓋し米子の商工業盛んにして運命開拓の地たるを証するものであらう。人口三萬二千(三、一二調)生絲、酒、醬油、農具、銅の産がある。

▼米子城址 一料、港山の頂にあり大山の英姿、夜見半島の翠松中海の蒼波皆一眸の裡に入り、山海の眺望がよい。▼根上り連理松 法城寺境内にある老松二株、何れも三百年を経たもので、一方は高さ四〇米。根の周圍一〇米、根上り三米餘に及ぶ。

▼瓊子内親王の墓 東約五料。安養寺内にあり、伯陽電鐵安養寺から約一料。内親王は後醍醐天皇の皇女で、天皇隱岐へ御遷幸の御御年十六歳にて共に隱岐へ渡らんとせられしも果さず、この地に御落飾遊ばされ、西月院安養尼と號され、後、堂宇を營まれたのがこの安養寺である。「知るらめや憂き目を三保の浦千鳥なく」絞る袖のけしきを」瓊子内親王 ▼皆生温泉 東

山 陰 線

島、中島(以上を總稱して島前といふ)及島後から成る。後醍醐天皇、後鳥羽上皇の御遺蹟があつて、我國史に幾多の悲しい頁を加へてゐる。

西郷港は北七〇軒半、汽船便あり、毎日午前九時發、三時間餘を要する。賃三等一圓五十錢、二等三圓、一等四圓五十錢。島前から約一九軒を隔てた島後にある。隱岐支廳所在地で、港灣深く、波靜かで繫泊に適し、昔は西國、東國の賈客往來の泊所として商船の輻輳した湊である。支廳には往時の驛鈴(本書扉に用ゐたるもの)及倉印を存する。黒木御所は島前の浦郷港から八軒、後醍醐天皇行在所の舊址をいふ。老樹鬱蒼とした一小丘である。

焼火神社は浦郷港の岬角にある、祭神木花開耶姫。大晦日の夜海中一時に螢光を放ち、渦巻上つ

て來る奇瑞からこの社の名がある。

後鳥羽上皇御陵廟は島前の菱浦港から三軒餘、苅田山の麓にある、昔は源勝寺と稱し供僧を置いたが、維新後寺僧を停め、廟堂を建てたのである。御陵は喬木に圍まれ、竹籬を繞らす、當時奉仕した村上家は今尙御遺愛の品を藏するといふ。

ごつさり節 (隱岐)

叶うたー叶うたや思ふこも叶ふたー

鶴がー御門にー巢をかけたーサノイ

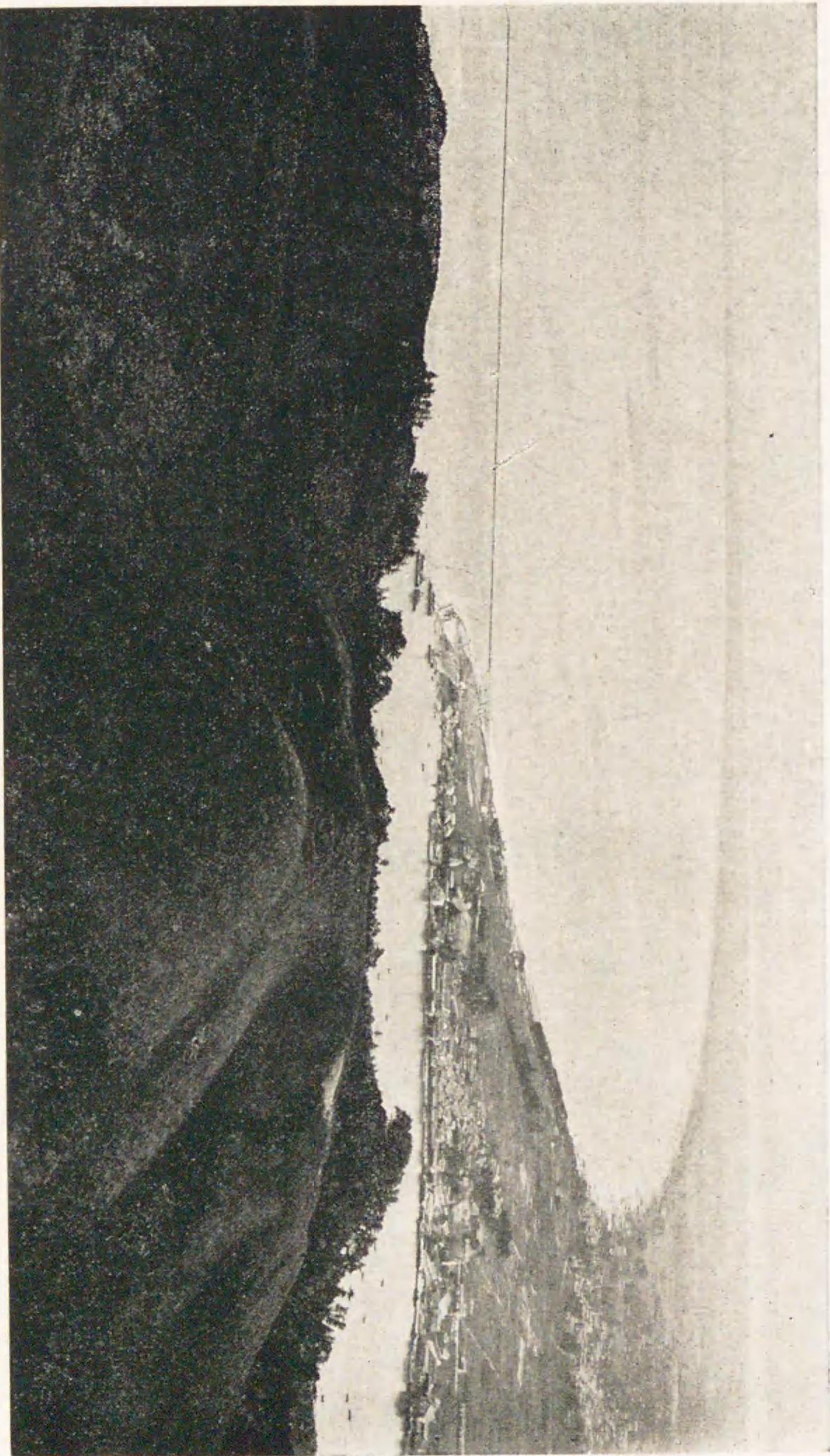
御家、コレワイ、ドオヂマイナ、御繁昌と、チヨイト

巢をー懸けーた。

美保關 島根半島の東南端、境から汽船便一日

十回あり、往復四十三錢、四十分を要し松江からも一日十回、海上四〇軒約三時間で達し賃片道五十錢、往復九十五錢である。

境を出ると伯耆大山は前面に聳立してその秀貌



濱 々 見 夜



を美保灣の碧波に映じ、夜見ヶ濱の^{だいてんけう}大天橋は右に長翠を曳いて風光の美を盡してゐる。舟が美保關に近づくと五本松の峰が見える。「關の五本松一本伐りや四本あこは伐られぬ夫婦松」といふのがそれである。

港は灣に沿うて狭長な街衢をなし、三面山嶺に圍繞せられ、いはゆる「關はよいこ」、朝日を受けて大山風がそよ／＼をなし、山陰に於ける遊樂地として纏綿の情に堪へざらしめるものがある。町の西南海に面して老松青を^ひ拖く中に一つの鳥居がある。これが即ち國幣中社^{みほ}美保神社で、大國主神の御子^{ことしろぬし}事代主神及その妃^{みほつひめ}美保津姫命を祀る、毎年四月七日に^{あそしほがき}青柴垣の神事、十二月三日に^{もろて}諸手船の神事を執行する。これは事代主神が大國主神の命に従ひ、國土を天神に譲り、青柴垣を海中に作り船の^{かぢ}柁を踏みて、自ら隱退し給うた故事によるので、社頭

山陰線

神代史の一頁を繙くも興多きことである。▼^{がっこう}佛谷寺(淨土宗) 町の中央、古は龍海山三明院と稱し、七堂伽藍を具へた大寺で、後鳥羽院、後醍醐天皇隱岐御遷幸の際假行在所に充てられた處といふ。本尊木造藥師如來坐像一軀、木造聖觀音立像三軀木造菩薩形一軀は共に國寶になつてゐる。

▼地蔵岬燈臺 町から海岸路を約三料、島根半島の盡きんとする斷崖にある一等燈臺で、石造三層樓、六十三萬燭光の電燈を使つてゐる。▼五本松公園 町の西半料。旅館 美保館、福間、山根。名物 鰯、竹細工、乾鰯。

關の五本松 (出雲)

關の五本松、一本伐りや四本

あこは伐られぬ夫婦松

シヨコ、シヨコホイノマツホイ。

お國戀しや、あの灯は關か

關はよいこ五本松

シヨコ、シヨコホイノマツホイ。

境から松江、一畑へ 美保關遊覽の旅行者は境から再び中海を汽船で松江に至つて名所見物の上、尙汽船で宍道湖畔小境上陸、一畑薬師に詣でて、一畑電鐵で出雲今市に出て出雲大社に參拜するがよい。

安來 (やすぎ) ▼十神山 驛前の海中に突出する一小孤山で、景色もよいが、安來節に名高いところである。▼清水寺(天台宗) 六軒、自動車四十錢、雲州屈指の伽藍、大同年間(一、二〇年前)の再興で、根本堂、十一面觀音立像及彌陀三尊像は共に國寶になつてゐる。雲樹寺もこの寺に近く間道約一軒。驛から自動車二十錢、四脚門、絹本着色三光

國師畫像及高麗傳來の古鐘は國寶になつてゐる。
荒島 (あらしま) 廣瀬鐵道接續點。荒島、出雲廣瀬間八軒四。

廣瀬はもと松平氏三萬石の城下で、戰國の頃には尼子氏の根據地で月山城址があり、經久及十勇士の墓を始め尼子氏悲劇の跡が多い。

松江 (まつえ) 三五三軒五 京都及大阪から約十時間、宍道湖と中海との間狭長なる地頸に位置を占めて水郷の情趣豊かである
もと松平氏十八萬五千石の城下で、山陰の首府の稱があり、高等學校がある。大橋川は市の中央を貫通して市を末次、白湯の二部に分ち、宍道湖と中海との交通を連絡してゐる。人口四萬五千(三、一二調)を有し生絲、八雲塗、陶



器、人蔘、瑪璃細工などを産する。

市街は直ちに宍道湖に臨み、北に宍道山脈の蜿蜒たるあり、風光實に畫を見るやうで、古來日本十二景の一に數へられてゐる。

松江城址 二軒、千鳥城ともいひ、龜田山にある。慶長十六年(三一九年前)堀尾吉晴の築城で、天主閣は高さ四三米の五層樓、今開いて上ることを許してある。閣上の眺望は山陰無比の絶觀で、松江市の町家から宍道湖畔の風景を一陣の裡に收め、中海を隔て、伯耆の大山を仰ぐ。千鳥城の下は城山遊園と稱し梅櫻桃柳などが植ゑられ公園となつてゐる。

園内に縣社松江神社があり、藩祖松平直政を祀つてある。▼宍道湖 西約二軒、周回四六軒、四圍の青山影を泛べて白帆の去來するさま、誠に繪のやうである。湖中に「嫁ヶ島根に夕日がさせば、松の梢を舟が行く」

の嫁ヶ島の勝がある。湖中からは名産鱸、白魚、公魚、鰻などがとれる。▼天神遊園 約一軒、白湯天満宮境内附近の稱で、天神川、宍道湖に面し眺望がよい。▼月照寺(淨土宗) 二軒三、松江藩主松平氏の菩提寺であつたが、今は廢寺となり、藩主累代の瑩域が儼存してゐる。

小泉八雲の舊宅 約二軒二、多くの著述をなし日本を世界に紹介し小泉八雲の名で知られた文豪ラフカヂオ、ヘルンの舊宅で、その居室、遺愛の庭園は縦覽することができぬ。

八重垣神社の一節
(ラフカヂオ・ヘルン 未だ親まれぬ日本のこゝもより) 苔深く蒸したる小路は境内の中央にある一の小きな池にダラダラ下つてゐる、——出雲の國では有名な池であるが。此處に澤山「るもり」が棲んでゐる、約五時位、赤い腹の、陰鬱の影は濃い。そして竹の幹には乙女の名前が深く刻まれてゐる。
八重垣の聖池の「るもり」の肉は催淫の物質を有してゐる。信

じられてゐる。さて「ゐもり」なる物を焼いて灰にしたものは以前は戀の粉薬となつてゐた。之れは日本の一小唄が如實に語つてゐる。「惚れ薬外にはないかゝるもりに問へば指を丸めて、こればかり」水は頗る透明である。そして「ゐもり」が澤山見える。戀人間にはこんな風習がある。これは紙で小さな舟を作り、その中に一厘錢を入れ、水に浮べ、見守るのである。紙が濡れて、水が入り来ると、銅錢の重さで底に沈むが、水が清澄なので元のやうにハッキリ見える。

そこで「ゐもり」が近づいて、舟に觸れると、戀人は神の御心、我戀を祝福し給ふものと信じてるのである。がもし「ゐもり」が来ない時は我戀破れしと信ずる。

この小路に近く、池畔に椿の林がある。そして枝の先は二つづつ白い紙片で結んであつた。吉凶判断の灌木である。忠實な戀人は二つの小枝を曲けて、紙でシカツリと結ぶことが出来ねばならない——凡て片手の指でする。

これが出来るものは幸運である。紙片にはなんにも書いてない。

▼郷社八重垣神社 南約六軒、自動車三十錢。素盞鳴尊と稻田姫命を祀り、縁結びの神として名高い、境内晝尙暗い鬱樹の間に大杉がありその杉皮を肌守とすれば良縁を得、その傍なる鏡ノ池に紙船に錢を

乗せて沈ませ、その遲速によつて良縁の難易を卜する風習がある。

▼郷社神魂神社 南六軒、伊井諾命を祀る。社殿は建築壯麗神代の遺風があり、天井扉の裏、壁畫などは古代の神事風俗上の好参考資料である。社殿は國寶となつてゐる。

▼國幣小社佐太神社 西北一〇軒、佐太大神を祀り、社前櫻馬場がある。▼國幣大社熊野神社 南一四軒、自動車八十錢。素盞鳴命を祀る。出雲大社と共に古來有名な神社で、延喜式には名神大と誌されてゐる。現在の社殿は永祿年間（約三六〇年前）吉川元春の造營と傳へる。

▼觀音堂 南六軒、出雲巡禮二十四番の札所、本尊十一面觀音立像は國寶。

旅館 皆美館、赤木館、岩田屋本店、一文字屋、臨水 常磐館。

青野山の火山があり、石見は山地多く、銀、銅を産し又大麻、石見半紙を出す、斐伊川は宍道湖に注ぎ、その下流は豐沃な杵築平野をなして米穀の産が多い。

名物 八雲塗、瑠璃細工、陶器（樂山燒、布志名燒）白魚、山川（菓子）。

安來節 (出雲)

關の岬に燈臺あれ戀の關路は照しやせぬ

愛宕お山に春風吹けば安來千軒花吹雪

出雲よいこ又來やしやんせ聞かせますぞへ安來ぶし

安來千軒名の出たところ社日ざくらに十神山

松江大橋流れヨミ燒けヨミ和田見通ひは船でする

ゑびす大黒出雲の國は西と東にまもり神

宍道湖水を鏡に立て、雪で化粧する出雲富士

出雲八重垣鏡の池にうつす二人の晴れ姿

出雲名物荷物にやならぬ、きいてお歸り安來節

社日ざくらは昔のこまよ、今は愛宕の山ざくら

島根縣廳は松江市にあつて、出雲、石見、隱岐を管轄し中國山脈その南境に聳え、三瓶山、

湯町 (ゆまち) ▼富士名義綱記念碑 東約二

軒餘、判官山の丘上にある。贈正四位富士名判官義綱は元弘の忠臣で、一族の墳墓は判官山の山腹に埋れてゐたのを土地の有志が修理して記念碑を建てたのである。宍道湖を見下して眺望がよい。▼玉造温泉

泉 南二軒、玉造は神代以來忌部氏の居住地で玉類製造を以て知られてゐる。赤、青、斑の瑠璃を産し、殊に華仙山の瑠璃は名高い。

旅館 保性館、松の湯。

宍道 (しんぢ) 簸上鐵道接續點。

名物 鰻。

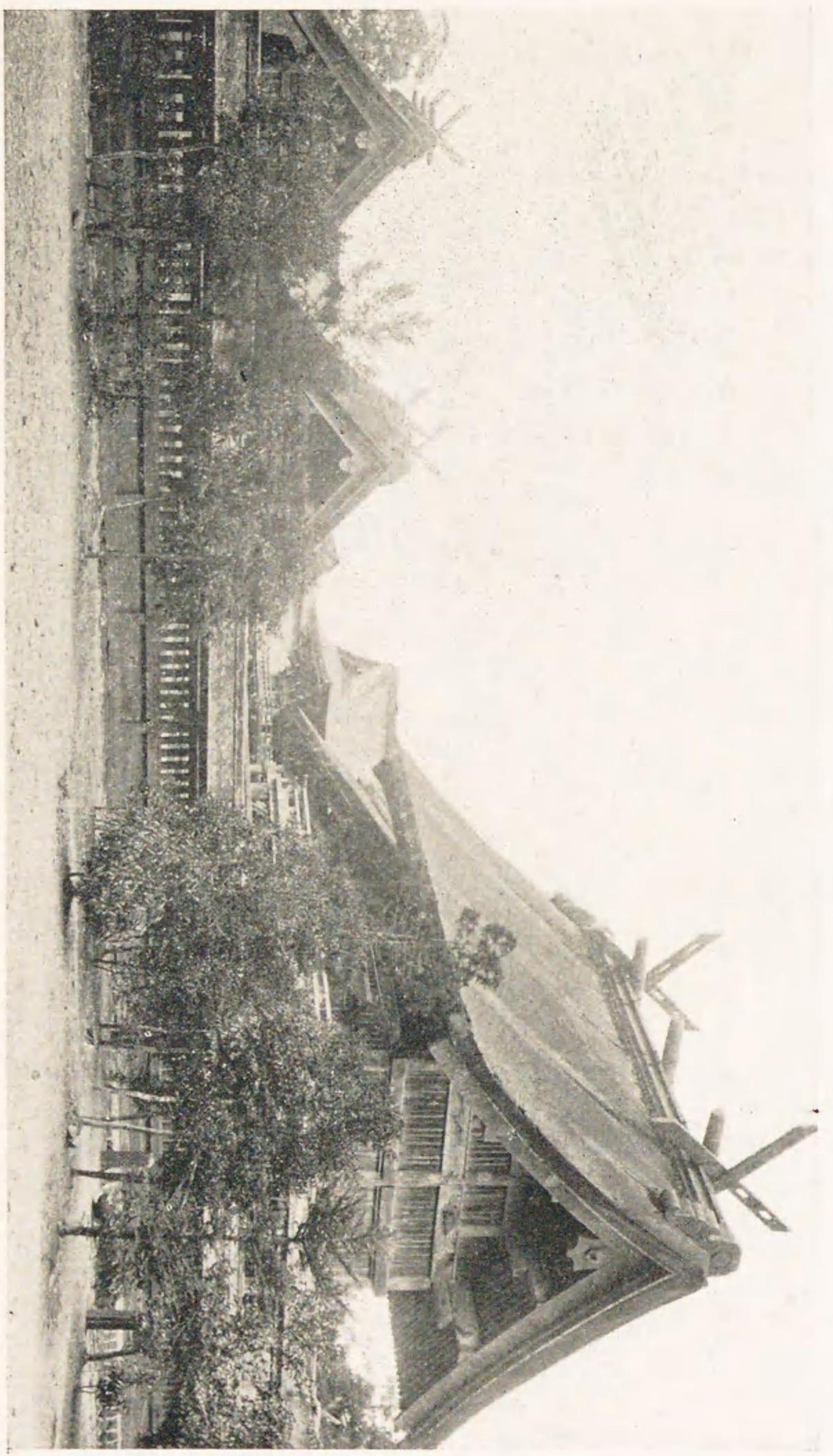
鏡上鐵道 宍道、木次間二一軒一、この沿線には神代史に著明な傳説をもつた地が多い。**大東町** (だいとらまち) ▼海潮温泉約三軒三、千餘年前の發見と傳へ、リウマチス、痛風、花柳病などによく、附近に靈泉山遊園地がある。旅館 館屋、二井屋。▼縣社須賀神社 九軒餘、素盞鳴尊、稻田姫命を祀る。地は尊が八岐の大蛇を退治して稲田室を造り「八雲立つ出雲八重垣妻ごめに八重垣造るその八重垣を」と我國風の始を詠ませられた須賀宮の舊址であるといふ。

木次 (きすき) ▼湯村温泉 南七軒、皮膚病、中風、花柳病などによい、斐伊川畔にあつて附近奇勝が多い。旅館 西村屋。▼鬼の舌震 約

三〇軒、古くは和邇の戀山といつた、馬木川の
中流二軒に互る溪谷の奇勝で、斷崖奔流、瀑布、
碧潭みな天然の技巧を極めてゐる。
出雲今市 (いづもいまいち) 三八六軒二 大社
線分岐點。一畑電鐵接續點。今市は鏡川平野の中心
地で出雲西部の物資集散地。▼鰐淵寺 天台宗の古
刹、北八軒。(一畑電鐵雲州平田驛參照)
旅館 大平、加藤、黒崎。

大社線

京都、大阪方面から直通する列車がある。
大社 (たいしゃ) 官幣大社出雲大社 一軒
半、自動車十錢。
宮は古代日本の王者大國主命を祀り、創建は遠
く神代にある。大社驛から宇迦橋を渡り高さ二二



社 大 雲 出

米餘、柱の周り六米の大鳥居を過ぎ、坂路を上れば第二の鳥居あり、それから賽路となる。中央に祓橋あり、賽路の左右には古松長く連なり、更に碧銅の大鳥居を過ぎれば即ち社境、四面荒垣を繞し、内に拜殿、社務所、會所、八足門、樓門、神饌所、供齋所、觀祭樓を始め、大社の攝社末社整然として相並んでゐる。

八足門の内、門に隣接して玉垣と又樓門に隣接して玉垣とを二重に劃して、中央に本殿あり、即ち天日隅宮である。日本最古の神社として神代建築の遺風を存し、いはゆる大社造の標本である。本殿は向破風登向拜、白木造檜皮葺で他の神殿と趣を異にしてゐる、もとは掘立柱草葺であつたが、中古以來現今の建築に變つたのである。樓門に刻んだ葡萄に栗鼠の浮彫は左甚五郎の作で、日光の

眠猫と共に雙絶と稱せられ、觀祭樓上にある稻田媛の塑像は、明眸皓齒、長髮地に曳き、劍を按じて片足つまだてたるさま、溫和貞淑の相尊く拜される。

本殿の東西に東十九社、西四十九社とて主のなにもろくの社がある。これは十月の神有月に八百萬の神々の集合せられ給うたときの御宿であるといふ。

寶物館には國寶その他大社傳來の古文書、寶器珍什が陳列されてゐる。

社境は三面丘陵を以て圍まれ、後丘を八雲山といひ、向つて左は鶴山、右は龜山である。

杵築の海濱 稻佐濱は武甕槌神と經津主神とが、大國主命に迫つて、國避の諾否を問はれた舊蹟である。右方遙かに一帶の沙汀彎曲して白砂青松の

連るを見る三里濱ともいふ、自動車又は船によつて日御碕神社に賽することが出来る。

▼國幣小社日御碕神社 杵築から北西八軒餘、稻佐濱から發動機船往復七十七錢、自動車往復一圓十錢、上宮には素盞鳴尊、下宮には天照皇大神を祀り、境内は丘陵に據り松林社頭を蔽ひ、西南一帶日本海に面し、海上大小の島嶼岩礁起伏して風景がよい、附近に日御碕燈臺がある。

旅館 因幡屋、大和屋、日の出館。

名物 出雲焼、木彫人形、和布、和布菓子。

一畑電氣鐵道 出雲今市 北松江間 三三軒八。

小境灘 一畑間 三軒四。

川 跡 大社門前間 八軒三。

鳶ヶ巢 (とびがす) ▼萬福寺(淨土宗) 東北

一軒半、鰐淵寺と共に創立古く推古朝と傳へ、藥

師如來像、觀世音菩薩立像、四天王立像などの國寶がある。雲州平田(うんしゅうひらた) 人口七千餘、製絲業が盛んである。旅館 幸野屋。名物 鱈鮓、生姜糖。

▼鰐淵寺(天台宗) 西北二軒、推古天皇の二年(一三三六年前) 智春上人の開基往時は鰐山四十二坊と稱し數百の僧徒を有し寺運隆盛を極めた。

吉野朝時代には南院北院に分れ、南朝北朝に分屬し、戰國時代には毛利元就は尼子氏攻撃に際し山内に駐屯した。古來出雲第一の古刹で、寶物及古文書の如きも出雲社寺中の隨一であるといふ。

觀世音菩薩立像二軀、一字金輪曼荼羅圖、山王七佛畫像、後醍醐天皇宸翰、毛利元就畫像の國寶を首めとしその他の國寶古文書を藏してゐる。

一畑 (いちはた) ▼一畑藥師堂 驛から八

八〇米の石段を登ると一畑寺(臨濟宗)に達し、更に數十段の石階を登つて堂に達する。瑠璃光如來を奉安し、眼病に靈驗ありとて患者の參籠祈願する者が多く、大祭日には參詣者數萬に及ぶといふ。堂塔も壯麗で、藥師堂の側に籠堂があり、眼病者が絶えず參籠してゐる。寺の庭前に立てば穴道湖の全景を見晴し、出雲富士を背景にして風光がよい。旅館 玉清館。▼津森から北松江まで

この間電車は穴道湖畔に沿うて進み風光よく水郷の情趣溢れ、沿線には古社、名刹などが多い。

出雲訛の安來節

わたしおんすうふらに おま

私ア雲州平田の生れ

ブーウる、にブーウる、さんブーウる (十里二十里三十里) 引くづる、引張つて、來たものを

山陰線

石見大田 (いはみおほた) ▼國幣小社物部神社

東南四軒、神武天皇の大業を輔翼し奉つた可美眞手命を祀る。

▼小屋原温泉 一三軒、自動車あり、三瓶山の西麓にある。旅館 熊谷。▼湯抱温泉 約一九軒、自動車がある。旅館 青山、日の出。▼志學温泉 二〇軒半。

三瓶山 三瓶山は佐比賣ヶ嶽ともいひ海拔一、一

二六米、石見第一の高峯、山嶺四箇に分れ、その高峯を男三瓶、東の一峯を女三瓶、西の右を子三瓶、左を孫三瓶といふ。登路二つあり、一は西麓小屋原から、一は南麓志學からするが、多くは志學から登る。志學まで自動車あり、驛から大田川に沿ひ池田村を経て裾野に達し、片腕の松、夫婦松を経て志學温泉上ノ町まで約二二軒こゝに一泊する。

翌朝六時頃から上ノ町横道から登山し、子三瓶から室ノ内を環状に進めば、中央に舊噴火口の遺跡である窪地があり、その東方に室ノ内池がある。行くこと約二二〇米、孫三瓶に接する處を鳥地獄といひ、盛んに炭酸瓦斯を發散するので小鳥、蟲など斃死し、一帶の草木も色を變じてゐる。

こゝから男三瓶の頂上は約一籽半、頂上は平坦で金比羅の小祠がある。頂上からは藝備の連山と日本海とを一眸に收め、近く出雲、石見の諸山と江川の上流邊りは絶えず雲の海と化し、その壯觀は筆舌の盡すところでない。登山は半日で足りるから案内者一人を雇ふの外何等の準備も要らぬ、歸途は小屋原温泉(驛まで一〇籽)に浴するがよい。

五十猛 (いそたけ) ▼静の窟 北東二籽、魚津の海岸にあり、大己貴、少名彦の二神の國土經營の

際の假宮であると傳ふ。

仁萬 (にま) ▼斷魚溪 南四四籽、大森を経て江川上流の川本まで自動車二圓三十錢。川本から斷魚溪の勝境まで一〇籽、矢上川の上流斷崖左右に峙ち、溪中數百米の間全く岩盤を以て敷き廣められ、巨大の割裂斷層が所々に現出してゐる。南から馳せ下る水流こゝに至つて瀑布となり、奔湍となり、深淵となり、奇狀百態具に風景美を現してゐる。秋季紅葉の頃が最も佳い。

温泉津 (ゆのつ) 風光明媚な海岸に地を占め、温泉と良港とで知られてゐる。小濱温泉へ約三〇〇米、温泉津温泉へ約一籽。

都野津 (つのづ) ▼人麿神社 東六六〇米、境内に人麿手植の松といふ老松がある。

波子 (はし) ▼有福温泉 南約四籽半。

濱田 (はまだ) 四七四籽九 もと松平氏六萬

石の城下で、龜山城址は今公園となり、驛から約半籽。外ノ浦は西北二籽、風光明媚の地。粟島は西三籽、鏡山お初の墓がある。濱田港の全景を一眸裡に收め大麻山、三階山を望み海上遙かに高島の孤島が見える。近海は漁獲多く獲れた鯖、鱈、いかなどの罐詰業も盛んで、年産額百五十萬圓に達してゐる。旅館 道具屋、龜屋。名物 濱田人形。

録手 (かまて) 驛から近い海岸に二ツ山の景勝地がある。大濱の前面は小島起伏して、長門富士を望む。

石見津田 (いはみつだ) ▼鶴ノ鼻古墳 東北約半籽。

石見益田 (いはみますだ) 五一六籽一 山口線

の接續點。陰陽の二大幹線は山口線を介して相連絡してゐる。益田は砂田の義で沃野遠く連り、石見國に珍らしい平野の中心地をなしてゐる。

▼柿本神社 西二籽、もと人丸寺といつたのを近年神社とした、高津川西の高津村が歌聖終焉の地高角だといふ。▼大喜庵 東北二籽半、畫聖雪舟終焉の地でその墓がある。▼醫光寺(臨濟宗) 東三籽、雪舟留錫の地で、雪舟の意匠に成る庭がある。▼萬福寺 東約三籽、自動車がある。後龜山天皇の文中三年(約五六〇年前)益田越中守の創建で、本堂及弘法大師筆二河白道圖は國寶となつてゐる。こゝにも雪舟意匠の庭園がある。▼吹上の松原 東約三籽、白沙青松風光よく、東端に連理の松の奇態がある。旅館 紫明樓、青樹屋、松屋。名物 雪ノ船。

須佐（すき） 五四二軒 山陰本線の終點。將來海岸に沿うて美禰線に通じ、小串線に接する豫定である。萩町まで海岸に沿うて自動車の便がある。

苗取唄（出雲・石見）

米になりさや、富田米に
さたは名所で米所。

石になりさや、さた石に、
富田の若衆の擔い石に。

きづき高濱をはねこえて、
出雲戀しや大やしろ。

濱田の橋の、下を見れば、
鯉かや、鮒かや、はえのこか。

伊弉諾公は又有難い神、
人間の生まれくる伊弉册のお蔭よ。

田植歌（出雲・石見）

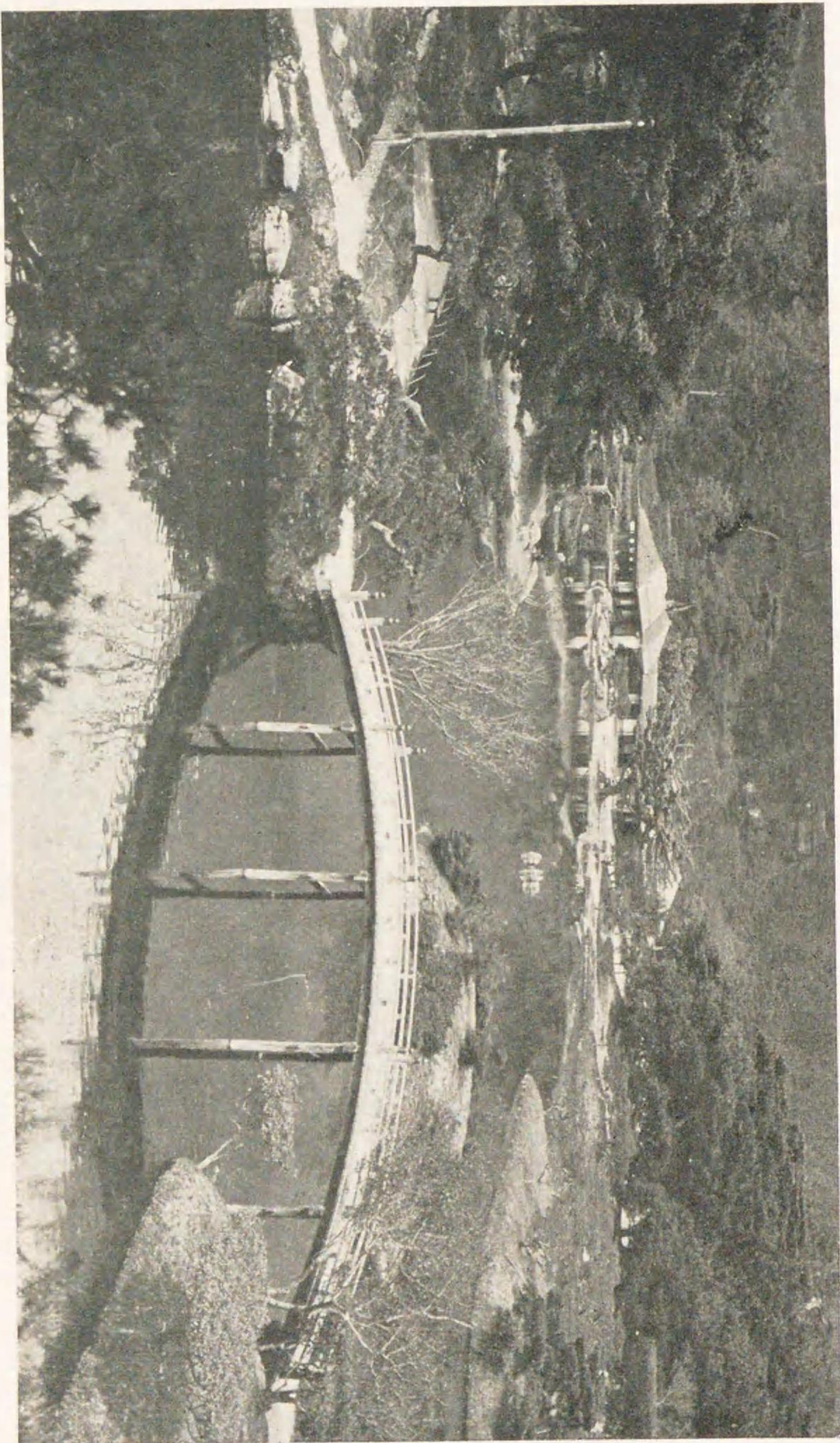
戀しくはたづねてござれ、米子まで、米子まで、
米子の町のまんなかへ。

十七がやなぎが原でぬのさらし、ぬの晒し、
さらいたぬのこそ白ござる。

大國様は、せはちそけれど、福の神、福の神、
千俵はらにこしかける。

紅が今花盛り、八重ぶけて、おそぶけての、
つむやつまずの花盛り。

今日の田の友達に文をやるの〜、
暇の文かや、なつかしや。



栗林公園

瀬戸内海(島談古嶺)内戸(瀬)



豫讃線

一、高松、伊豫郡中間
一、多度津、阿波池田間

二〇五軒六
四三軒六

豫讃線は高松を起點として西し、丸龜、多度津、観音寺、今治を経て松山を過ぎ伊豫郡中に至る線と多度津から琴平を経て阿波池田に至る線とをいふ。列車は高松、琴平、阿波池田間に直通六回、琴平へ一時間四十分、阿波池田へ三時間、高松、伊豫郡中間に下り五回、上り六回、五時間半乃至七時間を要する。

本州との交通は岡山から宇野に至り、省經營の連絡船によつて高松に着く。連絡船は毎日六往復一時間間を要する。高松と徳島とを連接せしむべき高德線

豫讃線

は今高松から引田まで開通してゐる。

高松 (たかまつ) 高德線分岐點。その他築港

前から市内を貫通して屋島、志度に向ふ四國水力電氣線、長尾に至る高松電氣軌道、琴平に至る琴平電鐵接續點。



高松は四國の大埠頭でもと松平氏十二萬石の城下玉藻城の白聖が美しく望まれる。人口七萬七千(三、一二調)傘、漆器、一刀彫、保多織、燐寸砂糖、鹽、和紙などを産する。

栗林公園 南二軒電車八錢、約二百年前舊藩祖松平頼重の築造したもので、四代頼泰が之を修治した。面積五、五〇〇アール(十六萬五千餘坪)後に紫雲山を負ひ、六の池水、十三の山坡、數箇の泉流、十一の嶋嶼を巧に布置し、叢林四方を遶つて林泉の

美夙に世に聞えてゐる。近時北園を開いて洋風を加味し、南園と相對して一層の景趣を添へてゐる。旅館 辻海、可祝、岡田、川六ホテル、砂屋。名物 瓦せんべい、鯛味噌、同漬焼、カラスミ、理平焼、屋島焼、一刀彫。

屋島から五剣山、志度寺へ 屋島は東約八軒、山麓まで電車二十八錢、五十分、こゝから徒歩約半軒、屋島神社前から屋島南嶺までケーブルカーがある、上り二十五錢、下り十五錢。

別途高德線屋島驛から約三軒自動車の便がある。屋島は源平二氏の決戦場たる歴史と、獅子ノ靈岩談古嶺からの瀬戸内海の眺望美をもつ、東側香川壇ノ浦は那須餘一扇の的で史的興趣を添へるところ。屋島寺は堂宇壯麗、源平合戦の古器を多く藏する。山を下つて電車に乗り更に東へ進めば五剣山下に

停留所がある。高松からは約一〇軒電車三十三錢、多くは中腹の八栗寺に參詣して歸る。旅館 (屋島)屋島館、源平館。名物 (屋島)平家蟹、源平餅。

更に電車を志度の終點(電車四十三錢)に下車すれば志度寺は約半軒に過ぎぬ。謠曲海士の古蹟で蟹女の墓もあり、國寶志度寺縁起もある。志度から東約八軒(自動車あり)に津田ノ松原の勝地がある。高德線讚岐津田驛からは約九〇〇米、琴林公園の名がある、白沙青松の境。

小豆島寒霞溪 紅葉の勝地、その季節の十一月は日曜祭日に宇野、高松から寒霞溪近くの内海港まで省連絡船の臨時運航あり、宇野から四五軒餘、二時間二十五分高松から三二軒、一時間五十分、京阪方面からは日歸りが出来る、船賃高松から三等六十錢

宇野から三等九十錢、高松からは別に小豆島の坂手港へ一日二回の汽船便がある、そこから寒霞溪へ八軒。内海棧橋から四望頂まで約五軒往復四時間、棧橋附近から溪の入口まで自動車三十錢、溪は洞門、怪岩、瀑布、溪流の勝に加へて瀬戸内海眺望の美があり、特に紅葉がよい。

▼鹽ノ江温泉 南三二軒、自動車一圓三十錢。
琴平電氣鐵道 高松、琴平間三一軒二。佛生山驛には法然寺があり約半軒、圓光大師の草創。一ノ宮驛には國幣中社田村神社 北二〇〇米、舊讚岐一ノ宮などがある。

高松電氣軌道 出晴、長尾間一四軒五。その終點長尾には天台宗の古刹、長尾寺がある。

香川縣廳は高松市にあつて讚岐國を管轄してゐる。南境には讚岐山脈あり、地勢次第に北に低く、瀬戸内海沿岸地方は屋島を初めとして風光に富んだところが多く又製鹽業が盛んで坂出はその中心地である。金刀比羅宮は水難救済の神としてその名高く賽客が常に雲集しつゝある。平野は古から農耕よく行はれ米麥の産が特に多い。

鬼無 (きなし) ▼飯田の藤 約半軒、花房が長いので名高い。▼根香寺 東六軒、四國八十二番札所。

端岡 (はしをか) ▼國幣中社田村神社 南八軒、祭神田村神。

國分 (こくぶ) ▼國分寺 約四〇〇米、四國

八十番札所、孝子田宮坊太郎の仇討で知られてゐる。
鴨川 (かもがは) ▼白峯山 北約七軒、山上に崇徳天皇の白峰御陵があり、内海の眺望がよい、山腹に四國八十番札所白峯寺があり、西麓には帝の御遺蹟雲井御所址がある。尙驛の南約一軒には帝の行在所たる木丸御所址がある。

坂出 (さかいで) 琴平急行電鐵接続點。この鐵道は坂出、琴平間一五軒八、飯野驛の東三三〇米に讚岐富士が秀麗な姿を見せてゐる。終點琴平驛から金刀比羅宮へは南六六〇米。瀬戸内海に望んで附近に鹽田が多く年産額一八萬噸、全國總産額の三分の一を占めてゐる。町の人口約二萬、商業盛んである。白峯山へはこゝから麓まで八軒自動車三十五錢
▼讚岐富士(飯ノ山) 約四軒自動車二十五錢。
宇多津 (うたづ) ▼郷照寺 南半軒、四國七十

地である。

參宮電鐵は多度津から善通寺へ六軒、坂出から丸龜へ六軒四、丸龜から琴平へ一四軒二。
旅館 花菱、戎屋。

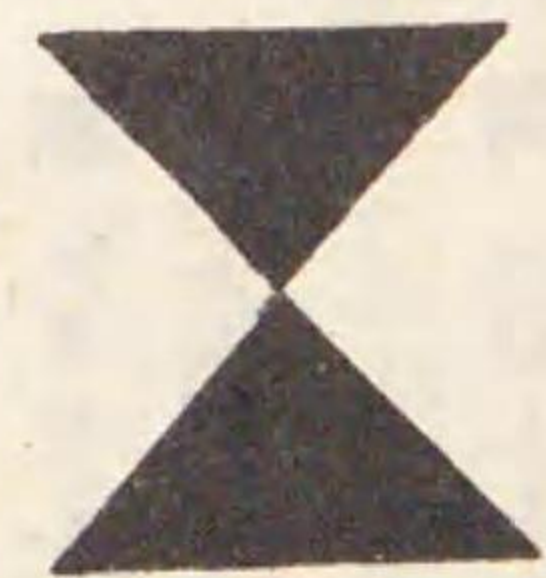
金藏寺 (こんざうじ) ▼金倉寺 東三〇〇米
智證大師の誕生地で乃木大將の遺跡がある、四國七十六番札所。

善通寺 (ぜんつうじ) ▼善通寺 西一軒二、
弘法大師の誕生地で寺域は父善通の邸宅だったといふ。境内廣く堂宇各所に聳え、洵に讚州第一の名刹である。四國七十五番札所。▼第十一師團司令部 約一軒半。
旅館 堀家、鹽田、吉金。

琴平 (ことひら) 四三軒六 琴平電鐵及琴平急行電鐵接続點。

八番札所。

丸龜 (まるがめ)



二八軒一もと京極氏五萬二千石の城下で、昔は琴平參詣の要津として榮えたものである。今人口三萬(三、一二調)團扇食鹽、吹、竹細工などを産する

城址は今龜山公園となり約一軒。中津梅象園は西三〇〇米、舊藩主の別墅、海水浴場などがある。

旅館 玉川、東洋軒、大和屋、日の出。
名物 坊太郎餅、四ツ目饅頭。

多度津 (たどつ) 三二軒三

京極氏一萬石の支封地で鐵道はこゝに分岐し、一は南して琴平を経て阿波池田に至り、一は西して伊豫郡中に至る。港は北約一軒半、自動車がある。

四國樞要の良港で尾道方面から琴平參詣客の上陸

國幣中社金刀比羅宮 西二軒、象頭山の中腹に位置し、登路の半以上は石段である。麓までは自動車がある、祭神は大己貴命に崇徳天皇を配祀してある。一般の崇敬極めて厚く賽人の多きこと伊勢大廟に次ぐといふ。神殿、拜殿、繪馬殿、參籠所、旭社、社務所など何れも壯大華麗なものである。拜殿の附近から讚岐富士、讚岐平野、五劍山から内海の風光まで見渡される。神社に參拜したらば鞍橋を見て公園に行くが宜い。
旅館 虎屋、櫻屋、備前屋、琴平華壇、敷島館。
名物 柚餅子、象麓おこし、船せんべい。
鹽入 (しほいり) ▼満濃池 東一軒半、弘法大師の築造にかゝるといひ灌漑用水の溜池である。周圍八軒餘。その開拔式は盛んである、螢の名所。

讃岐財田 (さぬきさいだ) ▼寶光寺 北半籽

餘、雅趣に富んだ庭園がある。▼世の中の櫻 三

籽、弘法大師の奇蹟と傳へ、錫杖形の花が珍しい

箸 藏 (はしくら) ▼箸藏寺 南二籽、箸藏

山腹にあり、弘法大師の建立にして眞言宗の古刹

俗に奥ノ院と稱し參詣者が多い。

阿波池田 (あはいけだ) 徳島線接續點。

(徳島線参照)

海岸寺 (かいがんじ) ▼海岸寺 北三三〇米、

海岸は海水浴場。▼屏風ヶ崎 西九〇〇米、弘法大

師の遺蹟。▼津島神社 西三籽、子供の守神として

參詣者が多い。

託 間 (たくま) ▼彌谷寺 東南約三籽、四國

七十番札所、弘法大師の學問所。▼仁尾町 西南八

籽自動車五十錢、人造眞珠を産する。

本山 (もとやま) ▼本山寺 約一籽、四國七

十一番札所。

上高瀬 (かみたかせ) ▼法華寺 北約三籽。

觀音寺 (くわんおんじ) ▼琴彈公園 北約二籽

琴彈山上にあり、瀬戸内海に面して風光よく、園内

に名刹觀音寺四國六十八番、六十九番札所、琴彈八

幡などあり、海岸白砂の間に寶永通寶の錢形が掘ら

れてあるのも面白い。▼伊吹島 海上一一籽、男子

禁制共同部屋があり夢の島として奇習に富む。▼五

卿谿温泉 西南一二籽自動車六十錢。

旅館 松廼家、生徳、藤川。

名物 アイムス焼。

豐 濱 (とよはま) ▼雲邊寺 東南一二籽、雲

邊寺山上にあり眺觀雄大である。四國六十六番札所

▼萩原寺(地藏院) 南五籽、國寶「急就章」外寶物

が多い。

川之江 (かはのえ) 愛媛縣東邊の小繁華地であ

る。こゝから高知へ一二〇籽、池田を経て自動車六

圓三十五錢、約六時間。▼城山公園 西約一籽。

▼三角寺 東南六籽。▼仙龍寺奥ノ院 東南一〇籽。

旅館 坂本屋、川路、杉源。

伊豫三島 (いよしま) 東豫商業の中心地、附

近に紙、元結、水引を産する。▼三島神社 東北半

籽。▼新長谷寺觀音 西五籽、自動車二十錢、眺望

の美がある。

旅館 綠屋、粹波。

伊豫土居 (いよどろ) 西約一籽、延命寺内に俗

に壁松といふ老松がある。

新居濱 (にいはま) ▼新居濱町 北約三籽自動

車二十五錢、別子銅山の埠頭である。

旅館 七福、喜樂、村上、泉樹。

名物 御代州羊羹。

▼別子銅山 南一二籽、新居濱町から鑛物運搬軌道

がある。住友の經營で東の足尾と共に天下に知られ

元祿三年(約二四〇年前)發見せられて以來今に採

鑛を繼續してゐる、従業員五千百人、銅年産二、七

四三萬噸、銀年産六、一〇〇噸。

▼瑞應寺 南約三籽自動車がある、大銀杏樹が珍し

い。▼新田梅林 南四籽自動車三十錢、梅林數百米

に互る。

伊豫西條 (いよさいでう) 西條町は約一籽、も

と松平氏三萬石の城下である。

旅館 新屋、福亭。

▼石鎚山 驛の南西、頂上まで約三二籽、毎年夏季

には約一ヶ月間石鎚山假驛を開く、四國で阿波の劍

山と高さを競ふ高山で、最高點天狗岳の頂上は海拔一、九八一米、山容雄渾、山頂の展望壯大である。

驛から一六軒の河口又は山腹の成就社（黒川から五軒）には宿泊が出来る。河口から先は登路峻嶮。成就社を出て頂上に近づくに連れ番外の鎖、一の鎖、二の鎖、三の鎖があつて登山者はそれにすがつて登る。頂上には石鍵権現が祀られてある。尙高山植物も見られ白樺もある。

この山は四國に於ける行場で、お山詣りと稱し、夏季の信仰登山者は夥しい數に上る。尙山を越して面河溪にも出られる。（松山驛参照）

▼武丈櫻 南約二軒、東豫の小嵐山の稱ある八堂の麓にあり、加茂の清流に臨んでゐる。

伊豫小松（いよこまつ）もと一柳氏の城下、石鎚山はこゝからも登れる、南三〇軒。石鎚山假驛開

設期間外はこゝからが便利、河口まで一六軒馬車が行く。▼寶壽寺 北一〇〇米、四國六十二番札所。

▼清樂寺 西約一軒。▼吉祥寺 東約一軒、四國六十三番札所。▼香園寺 西南約一軒半、四國六十一番札所。▼前神寺 東四軒、四國六十四番札所。いづれも四國巡禮の靈場である。

旅館 松竹樓。名物 よしの餅。

壬生川（にゆうがは）▼西山興隆寺 西八軒、

本殿も梵鐘も國寶となつてゐる。門前の由流岐橋は古歌に見える名所である。全山楓樹が多い。▼高須ノ濱 約三軒、白沙青松の地海水浴に適する。

伊豫三芳（いよみやし）▼日切大師 西南一軒

▼御來迎白井の泉 北約一軒。▼實報寺 西北二軒

伊豫櫻井（いよさくらゐ）▼網敷天満宮 東約一軒、社宇宏大、燧灘の碧波を前にし風光がよい、

一帯の砂濱を志々満ヶ原といふ。▼法華寺 西二二

〇米。▼國分寺 北約二軒、創建當時の七重の塔址は史蹟に指定されてある。

伊豫富田（いよとみた）▼眞光寺 西約二軒。

▼多伎神社、仙遊寺（四國五十八番札所）。西四軒、今治（いまばり）一四四軒五 今治市はもと



久松氏三萬五千石の城下で、人口四萬三千（四、三調）縣下第一の工業地である。來島海峡によつて瀬戸内海の咽喉を形成し、大阪、

神戸、尾道、宇品、別府、門司へ汽船便がある。城址（藤堂高虎の築城）は町の南方に位し、吹上公園と改稱し、縣社吹上神社がある。▼天保山海水浴場 東南約二軒。▼東禪寺 北約一軒半。▼南光坊 北約一軒。▼鈍川温泉 西一六軒自動車七十錢。

旅館 錦水、吉忠、須成舎、高繩。

名物 鶏卵饅頭、鯛の華、綿タオル。

▼國幣大社大山祇神社 大三島宮浦に鎮座し、汽船便があり、北約一八軒約一時間を要する。對岸尾道、糸崎、宇品からも定期汽船便がある。

祭神は大山津見命、古來武門の神、海上守護神として武運長久航海安全を祈願せられ、特に三島水軍の守護神として古から崇敬頗る厚く伊豫一ノ宮の稱がある。

本殿は後龜山天皇の天授四年（約五五〇年前）の造營で社宇壯麗、國寶に指定せられ、その他國寶百十一點その中八十七點は兵器類である。境内幽邃數百年を経た大楠が異彩を放つ。例祭は四月二十二日波止濱（はしはま）▼波止濱公園 北約一軒、繪のやうな來島水道から瀬戸内海を一眸の裡にをさ

め眺望よく西の屋島といはれる。旅館 吾妻樓。
▼來島 北約二軒、周圍約一軒、久留島氏の居城址
倭寇八幡船總司令部のあつた所といふ。船賃五錢、
十五分。

伊豫北條 (いよほうでう) ▼鹿島 西半軒、海

を隔て、高さ一五〇米、周圍二軒、俳畫のやうな島
松樟樹鬱蒼と茂り野生の鹿がゐる。久留島出雲守の
岩のあつた所で今尙その址がある。

堀江 (ほりえ) ▼堀江鑛泉 東南約半軒。

▼堀江海水浴場 北三〇〇米。

伊豫和氣 (いよわけ) ▼太山寺 西約二軒、四

國五十二番札所、本堂その他國寶。▼圓明寺 西北

六〇〇米。

三津濱 (みつはま) ▼三津の朝市 西二軒、伊

豫節で有名な魚市、元和二年(約三〇〇年前)の創

設で毎朝こゝに集る漁夫や商人は千を以て數へる。

松山 (まつやま) 一九四軒 伊豫鐵道接續點

松山市はもと久松氏十五萬石の城下人口八萬二千

(四、三調)。伊豫耕(年産額三

百五十二萬圓)、陶器類、竹細工

の産がある。松山高専學校、同

高等商業學校がある。



山陽方面からは尾道から高濱、三津へ、そこから

伊豫鐵道で松山へ出る。又宇品、吳から高濱へ来る

航路もある。尾道、高濱間四時間賃一圓八十錢、吳、

高濱間三時間半賃一圓七十錢。

城址は驛の東一軒半、市の中央に位し、眺望美に

富み今公園となり、天主閣が残つてゐる。その他石

手川畔の石手川公園は東南三軒、俳人子規の遺髪塔

のある正宗寺は東南一軒。

旅館 城戸屋、渡部、大谷。

名物 五色素麵、緋蕪、伊豫餅、竹細工。

▼道後溫泉 南四軒電車十三錢、自動車賃切八十

錢。松山市の郊外であるが殆んど町續きになつてゐ

る。古來名高い溫泉で、道後山の麓に位し、松山平

野眼前に展開して、舊城址と相對した景は一幅の畫

であり、四國唯一の溫泉郷竝松山人士の遊樂地とし

て繁榮してゐる。

附近には石手寺、湯神社、寶嚴寺、伊佐爾波神社

龍穩寺の十六日櫻、道後公園、いはせき遊園地など

がある。

旅館 鮎屋、岩井屋、道後ホテル、虎屋ホテル。

名物 湯染、砥部焼。

▼面河溪 四國の鎮山石鎚山に源を發して末は仁

淀川となる面河川上流溪谷である。探勝路としては

松山市から久萬町を経て仕七川村からする道と松山

から伊豫鐵道で横河原驛に至り黒森峠を越えて柳川

村澁草からするものと小松、西條方面から石鎚山を

越えて入る三路がある。その内仕七川からするものが

順路で、松山から五二軒、仕七川まで自動車がある

乗合三圓三十錢、こゝから龜腹まで二〇軒の間を徒

歩する。溪谷の入口から御來光ノ瀧まで約一二軒、

この間斷崖あり、奇岩峭立するあり、懸瀑、碧潭あ

り、奔流の碎けるあり、溪を覆ふ鬱蒼たる美林と共

に溪谷美の悉くを具現する。

伊豫鐵道 この鐵道は高濱から古町を経て松山

に至る九軒三と、松山から三岐する郡中線一〇軒

六、横河原線一三軒四、森松線六軒、別に古町か

ら道後に至り松山市内を通過して、再び古町に戻

り江ノ口(三津)に至る電車である。

高濱 (たかはま) ▼興居島 桃の名所、西四軒の海上。梅津寺(ばいしんじ) ▼梅津寺 東北六〇米、有名な梵鐘がある。古町(こまち) ▼寶塔寺 西一軒、日蓮上人の齒を蔵するといふ。久米(くめ) ▼繁多寺(はんだじ) 五十一番札所) 北一軒。▼淨土寺(四十九番札所) 東北二〇〇米。▼西林寺(四十八番札所) 南一軒半。石井(いしむ) ▼椿神社 北二〇〇米、延喜式内の古社。森松(もりまつ) ▼淨瑠璃寺(四十六番札所) ▼八坂寺(四十七番札所) 何れも東南六軒。松前(まつさき) ▼義農作兵衛の墓 北二〇〇米。

愛媛縣廳は松山市にあつて伊豫國を管轄してゐる。東南境には四國山脈の連亘するあり、石鎚山その主峯をなし地勢概ね西北に低く、高繩

半島及佐田岬は燧灘、伊豫灘及豊後水道を分つてゐる。佐田岬は西に突出すること約五〇軒。その幅一軒、豊後の地藏岬と相對してゐる。東部には別子銅山あり、本邦著名の銅産地にして、又縣下、米、楮、三椶を産し、機織、製紙、製蠟などが盛んで伊豫紙、伊豫紙、大洲半紙の名が夙に著れてゐる。

伊豫郡中 (いよぐんちゆう) 二〇五軒六 ▼五色濱 西二軒、海邊一帯の砂が種々の色を帯びてゐるのでこの名がある。▼寶珠寺 東南二軒餘、寺域は山中景勝の地を占めてゐる。旅館 大谷屋、門茂。▼内子町 三六軒、自動車一時間半、二圓二十錢、角力と涅槃市が地方的に名高い。

▼大洲町 内子町を経て七六軒、自動車二時間半、二圓九十五錢、もと加藤氏六萬石の城下、肱川に臨み風光がよく小京都の稱がある。見るべき處としては中江藤樹の舊蹟、城山及龜山公園、如法寺、少彦名命神陵などがある。旅館 油屋、小西、とぎや。名物 鮎。

▼長濱町 愛媛鐵道はこゝの肱川口から大洲を経て内子まで二八軒の間開通してゐる。旅館 本橋、松本。



▼宇和島 大洲から三二軒、松山、郡中、大洲から自動車がある。高濱からは海上約十二時間を要する。もと伊達氏十萬石の城下、南豫第一の都會である。

▼宇和島 大洲から三二軒、松山、郡中、大洲から自動車がある。高濱からは海上約十二時間を要する。もと伊達氏十萬石の城下、南豫第一の都會である。

城址は海岸に臨み眺望がよく天主閣が残つてゐる。見るべき處としては、薬師溪の勝、櫻の名所愛宕公園、石應の佳景、滑床の天然公園、和靈神社、龍光院などがある。闘牛は土佐の闘犬と共に有名である。旅館 蔦屋、花屋、木屋、鶴屋ホテル。名物 蒲鉾、白魚。宇和島鐵道はこゝから吉野まで二五軒六開通してゐる。

高知へ 松山から途中久萬、越知、佐川、伊野を経て一二八軒自動車六圓八十五錢、毎日四往復七時間間を要する。別途伊豫鐵道森松驛からも自動車の便がある。

伊豫節 (伊豫) 伊豫の松山名物名所、三津の朝市道後の湯、音に名高き五色素麵、十六日の初ざくら、吉田さし桃、小かきつはた、高井の里のていれぎや、紫井戸の片目鮒、薄墨櫻や、緋のかぶら、チヨイト伊豫がすり

高德線

この線は高松を起點として讚岐の東海岸を迂回し三本松、引田、撫養町を経て徳島に至る四國循環線の一部をなすもので、今引田まで開通してゐる。

栗林 (りつりん) ▼栗林公園 西一籽。▼一宮寺(四國八十三番札所) 南西六籽。

屋島 (やしま) ▼屋島 北一籽。▼五劍山 東北約四籽。

志度 (しど) ▼志度寺 北東半籽。造田 (さうだ) ▼龜鶴公園 南四籽、櫻の名所。▼長尾寺(四國八十七番札所) 南二籽餘。

讚岐津田 (さぬきつだ) ▼津田の松原 北一籽餘、自動車十五錢、琴林公園ともいひ、播磨灘に面し、白砂に立つ數千の松樹の風情が面白い、附近に

は古墳が多い。旅館 千歳、魚傳。

讚岐白鳥 (さぬきしろとり) ▼縣社白鳥神社

北西三〇〇米、日本武尊の御廟。神社の裏一帶の松林を三里の松原と呼ぶ。▼明神ヶ濱 東二籽、この邊り海濱は油石ばかりである、こゝから北東へ約一〇〇米、「ランププロファイヤ」がある、花崗岩と雲母、安山岩からなる黑白條理の珍らしい岩脈で、高さ三六米、面積一、六七七アール(五萬三百十坪)に互る。

引田 (ひけた) 四五籽一 ▼城山公園 北半籽、引田城址を中心として設けたもので三面海を繞らし眺めがよい。▼安戸池 公園の直下、天然の鹹水池で鱒その他が群をなしてゐる。

徳島線

一 徳島本線 徳島、阿波池田間 六四籽一

一 小松島線 徳島、小松島間 一一籽

その本線は徳島を起點として吉野川の南岸を走り阿波池田に至つて豫讚線に接続し、琴平を経て同本線の多度津に出る。

小松線は大阪商船と阿波共同汽船との着船地たる小松島から徳島に至つてゐる。小松島と大阪、兵庫間には毎日二回の汽船便あり、内一回は和歌浦に寄港する。賃金大阪、兵庫共に三等一圓八十錢、二等三圓六十錢、一等五圓四十錢、和歌浦三等一圓六十錢、二等三圓二十錢、一等四圓八十錢、この汽船を介して汽車汽船の連絡切符を發賣する。列車は多く

小松島から阿波池田に直通運轉し、約三時間を要する。便宜上記事は小松島から始めることとする。

小松島 (こまつしま) 大阪商船及阿波共同汽船着船場で、徳島縣第一の良港阿攝航路を介して大阪兵庫に至る船車の連絡地點である。又沿岸甲浦(日和佐經由)まで行く汽船及自動車があり、運賃日和佐まで汽船一圓二十五錢、自動車二圓十錢、甲浦まで汽船一圓九十五錢、自動車三圓九十錢。

旅館 角佐樓、萬野樓、松の家。

▼横須の松原 東南約二籽、自動車の便がある。海水浴地でそこから約一籽に金磯辯才天(四國十八番札所恩山寺の奥ノ院)がある。

中田 (ちゆうでん) 阿南鐵道接続點。

阿南鐵道 中田、古庄間一〇籽五。金磯(かな

いそ) ▼横須の松原及灌頂瀧驛附近。立江(たつえ) ▼立江寺 驛附近、子安地藏として知らる古庄(ふるしやう) ▼取星寺 約二軒、立江寺の奥ノ院。▼垂乳根の洞窟 約七軒、延長約二軒に近く、垂下せる鍾乳石と林立せる石筍と互に相接觸する圓柱又は石柱が多い。

地藏橋(ぢざうばし) ▼丈六寺 西南約三軒

曹洞宗の巨刹で、細川、蜂須賀兩家の墳墓がある。

観音堂安置の丈六の木像は國寶である。▼中津峯観音 西南約一〇軒、自動車二十錢、商運に靈驗があるとして賽者が絶えることがない。

二軒屋(にけんや) ▼勢見山 西北約一軒、山上に國幣中社忌部神社があり、天日鷲命を祀る。

徳島(とくしま) 一一軒 もと蜂須賀氏二十五萬八千石の城下で、人口八萬七千(四、三調)を

る。

旅館 平龜樓、志摩源、鶴龜樓、澄屋、明石。

徳島縣廳は徳島市にあつて阿波國を管轄し、四國山脈の東部は縣下に連互し、吉野沿岸の地は藍、繭及野菜の産地として名高く、河口の三角洲には徳島市があり、上流の池田附近には木材及煙草を多く産出し、撫養は鳴門海峡に面して齋田鹽を産する。

氣遣ひ踊 (阿波)

踊る阿呆に、見る阿呆

おなじ阿呆なら、踊らな損ぢや

イケソリヤ、ヨイ

ソリヤ、ソリヤ。

徳島ははれは石ばかり

徳島線

有し、四國第一の都會である。

阿波縮(年産額百五十萬圓)綿ネル、白木綿、鳴門和布、鹽、麻、卷柿を産し、藍、材木、砂糖の集



散が盛んである。徳島市の概観は城址渭山と大瀧山公園とに登つて眺めることによつて得られる。渭山は徳島公園のことで東北三〇〇米、物産陳列所がある。山麓には

有史前穴居生活時代の遺跡貝塚が近年發見せられた▼大瀧山 西南約一軒、市の西郊眉山の中腹、櫻の名所。眞言宗の古刹瑞巖寺がある。

▼夕霧の墓 市内寺町本行寺内。▼十郎兵衛邸址 四軒半、別宮川の北岸宮島浦にある。

▼阿波盆踊 毎年舊七月十四、十五、十六日の三日間行はれ市内を擧げて踊の巷となる程に盛んであ

寺町ははれは蛸ばかり

猪が豆食うて、ホウイ、ホイ。

阿波の鳴門 東北二〇軒、古川から撫養まで阿波鐵道の便があり、別途徳島から自動車も行く、賃六十錢。

鳴門海峡は撫養の前面大毛島の北端孫崎と淡路の鳴門崎とに抱かれる僅か四軒の海峡で、満潮時には太平洋の水が凄い勢で瀬戸内海に押寄せ、干潮時には内海の水が一時に外洋に出ようとして丈餘の落差をつくり瀑布の如く落下する。

見物には撫養から岡崎渡を渡つて土佐泊に行けば大毛山の觀潮場まで自動車が行く。

觀潮の時は毎年舊桃の節旬前後がよいが、干満潮の時に行けば四時その壯觀に接せられる。

阿波鐵道 撫養、古川間一五軒。池谷、鍛冶屋原間一三軒四。池谷(いけたに) ▼土御門帝陵 北方天王山麓。撫養(むや) ▼清少納言の墓 約一軒。坂東(さかひがし) ▼國幣中社大麻比古神社 約二軒。

蔵本(くらもと) 一四軒四 ▼國幣中社大麻比古神社 約一三軒、大麻比古神を祀る、附近四國一番札所靈山寺、同二番極樂寺、同三番金泉寺などがある。

府中(こぶ) ▼國府址 南三〇〇米、字御所ノ池附近だといふ。▼観音寺 西一軒、四國十六番札所。▼井戸寺 北約一軒半、同十七番。▼國分寺 西南約二軒、同十五番。▼常樂寺 南約三軒、同十四番。▼大日寺 南四軒、同十三番。石井(いしゐ) 附近は吉野川平野を控へ藍、

繭、野菜の産出が多い。▼雨乞瀧 南二〇軒、落下約四〇軒。▼地福寺(南西一〇〇米)、徳藏寺(南半軒餘) 共に藤の名所で花の長さ約二米に及ぶものがある。

鴨島(かもしま) 阿波藍の本場にして年産額七萬八千圓、生絲は年産額三百四十八萬八千圓に達する。▼藤井寺 四國第十一番札所、約三軒。▼法輪寺 北六軒、同上第九番。▼熊谷寺 北八軒、同上第八番。

阿波川島(あはかはしま) ▼古城山 北約半軒 吉野川畔に峙つ丘阜で、月の名所。▼切幡寺 約六軒、四國十番札所。川田(かはた) 林町の土柱 北四軒、礫砂から成る水成岩は水氣に侵蝕されて土柱となり、その高さ三〇米以上に達

するもの無数林立し、伊國チノール川のボーツェン附近の土柱と並稱せられ、地質學上珍重されてゐる 穴吹(あなぶき) (あなぶき) 讃岐高松へ約五六軒、自動車三圓、この道に沿うて木材、薪炭、葉煙草の産が多い。途中二四軒に鹽ノ江鑛泉があり、鑛泉まで自動車がある。

旅館 香徳。 劍峽と劍山 劍峽は劍山に源を發し、吉野川に注ぐ穴吹川の溪谷、宮内(穴吹から八軒)から谷口まで二八軒の間をいふ。驛から峽中の川井まで約三二軒自動車が行く。乗合二圓八十錢、宮内には鎮西八郎爲朝と那須餘一とを合祀する白人神社がある。こゝから溪流は趣を更め岩連り、流れは塞がれて瀨となり、或は急湍となるところ、斷崖峭立して列をなす、溪谷を圍む峰々は新緑、つゞじ及山吹によく特

に紅葉に勝れてゐる。谷口(劍峽の終點)から劍山の頂上まで約一六軒、谷口は登山路の一宿驛になつてゐる。 劍山は四國に於ける高山で、伊豫の石鎚山とその高さを競ひ海拔一、九五五米、頂上に近いところに安徳天皇が劍を納められたと傳ふる方形六米餘の寶藏石がある。頂上の廣場を平家馬場と呼ぶ、四望廣潤、脚下には劍峽が群峯の間に隠見し、西に石鎚山が連峯を開いて屹立し、北に瀬戸内海を一眸にあつめる。淡路島は鳴門海峡を隔て、東に浮び、太平洋は南に渺茫として展がる。 山腹には安徳天皇及素盞鳴尊を祀る劍山神社がある。附近一帯には平家の殘黨に關する傳説、口碑が多い。

貞光(さだみつ) 驛附近は材木及葉煙草を産

する。▼鳴瀧及土釜の勝 南約一〇軒乃至一二軒、自動車七十五錢。

阿波半田（あははんた） 附近木材及漆器を産する。

江口（えぐち） ▼龍頭瀑 東北二軒、附近に舞寺（眞言宗）がある。その本尊觀世音は國寶に指定されてゐる。

辻（つじ） 附近葉煙草及木材の産が多い。▼美濃田の湖 東北約一軒半、吉野川の清流が紺碧の淵をなすところに奇岩が起伏する。▲箸藏寺（眞言宗）約五軒、吉野川を渡つて行く。山麓まで自動車あり麓から二軒、もと琴平神社の奥ノ院といはれた寺で堂塔伽藍壯大を極めてゐる。

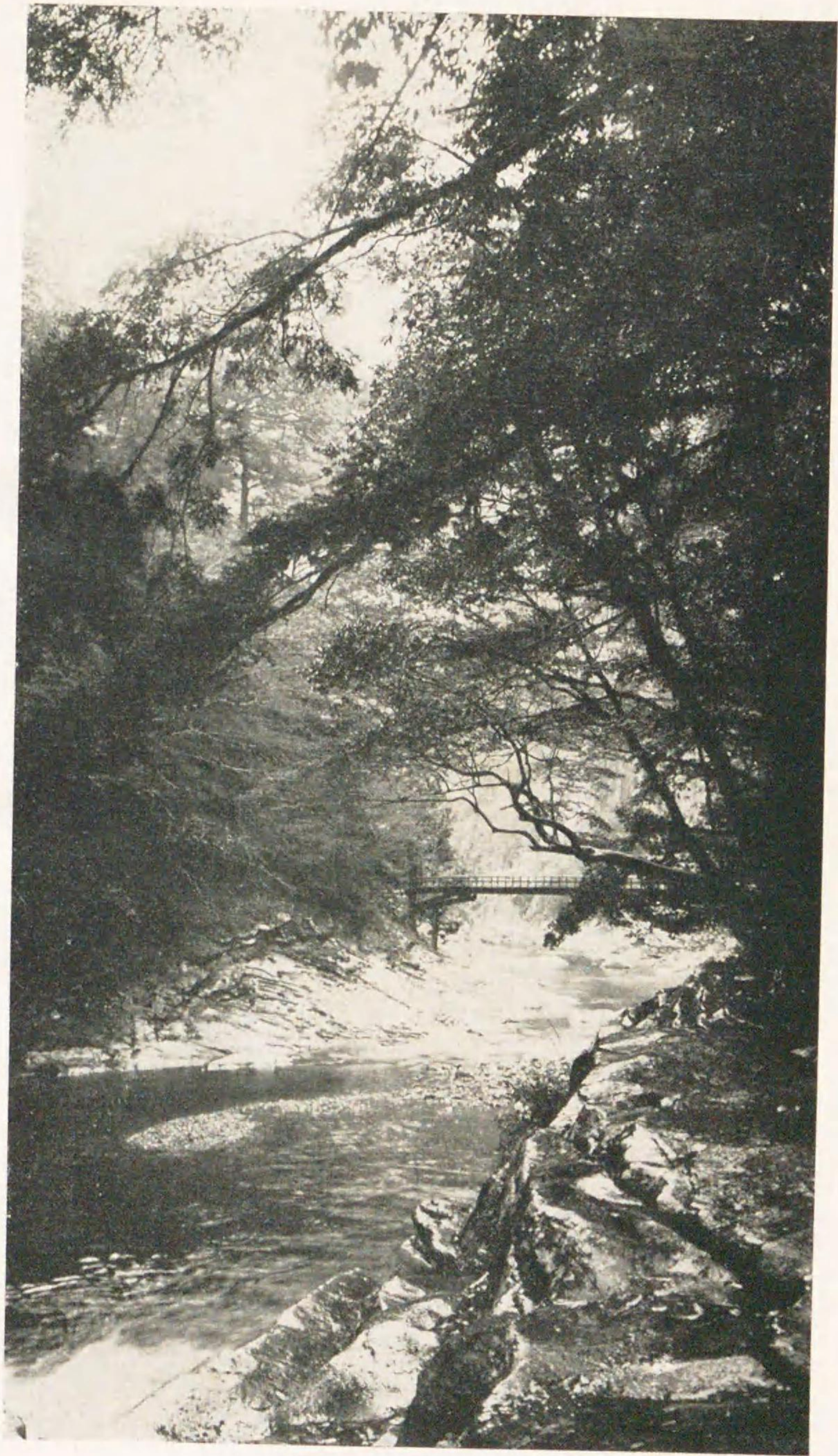
阿波池田（あはいけだ） 八五軒二 豫讃線接續點 山間の要害地で讚、豫、土交通の要路に當り、繁華を呈してゐる。昔は三好氏こゝにあつて阿波を治

め、長曾我部氏も亦對岸の白地に居城して四國を兼併した。附近は古來葉煙草の産多く年産額百三十三萬圓に達する。▼雲邊寺 西北一二軒、川之江行きの自動車はその二軒程前を通る。運賃二十五錢、寺は雲邊寺山上九〇〇米にあり、長曾我部元親が四州を望んで大望を起した處と傳へる。西國六十六番札所 大歩危 小歩危 驛の南西一六軒乃至二六軒、大歩危の奥二四軒自動車一圓二十錢、土佐街道に沿うた吉野川の奇勝で兩岸高く壁立し、流れ狭くして低く恰も井底を走るが如きところ約八軒、舟を浮べて下れば水鳴り石動き、山の奇、水の妙、きはまりない。春秋の探勝好季節には大歩危、小歩危間舟の設備があり、賃二圓。

祖谷溪 驛から一六軒の出合から久保まで約五六軒の間、吉野川の支流 祖谷川と松尾川との合流點



祖 谷 溪



溪 河 面

を基點とする祖谷川の上流と松尾川流域の溪谷を指し驛から約四八軒の京上^{きやうじやう}まで自動車が行く。乗合三圓五十錢。

谷深く斷崖二〇〇米に達するものがある。絶壁に懸る奇態の樹々、奇岩、激流の妙趣は比類ないものであらう。初夏には躑躅、石楠花^{しやくななげ}、山藤、山吹などが妍を競ひ、秋は谷合と周圍の峯々に紅葉が燃える。そして千二、三百米の峻峰の中腹を繞る斷崖上の道路を行く自動車から探勝が出来る。

祖谷の郷は深山幽谷、平家殘黨の立て籠つた處と傳へられ今でも雅かな昔のまゝの遺風習慣が残されてゐる。僻遠な深山に武家が逃込んだ處とて、三好氏も長曾我部氏も全く手がつけられなかつたといはれる。

池田から高知へ九九軒自動車五圓四十錢。

旅館 (池田)松又、政海樓、清月樓。(佐馬地村)菊屋。(山城谷村)芳野館。

高知線

この線は須崎を起點とし高知を経て土佐山田まで開通し、將來土讚南線の開通を俟つて徳島に接續するのであるが、目下本州との往來は大坂商船會社航路を介し毎日一回連絡を圖つてゐる。高知、大阪(天保山)間汽船賃三等三圓六十錢、二等七圓二十錢一等十圓八十錢。尙後免驛からは高知鐵道が手結まで一二軒七開通してゐる。

須崎 (すさき) 土佐第一の良港、四面を山に圍まれ、風波の憂なく最良の錨地である。

須崎公園 三〇〇米、町の背後にある小丘で市街及灣港を見下し、彼方に太平洋の波濤を望み眺望がよい。

旅館 吉村。

▼縣社久禮八幡宮 西南陸路一六軒、陸路一二軒、自動車九十錢、汽船三十錢。厄除の神として參詣者が多い。

吾桑 (あさう) ▼蟠蛇ノ森 西北約七軒、桑田山上にあり、大蛇の傳説を有し、石鏡神社を祀る

▼清瀧寺 東北七軒、三十五番札所、境内に高岳親王の塔がある。▼横波三里 東八軒、宇佐港から浦内村中ノ浦に至る長堤一二軒、灣内波靜にして、景趣に富む。

佐川 (さかは) もと藩老深尾氏の領地で、縣下第一の櫻の名所。深尾氏の邸址、その菩提寺たる龍淵山青源寺、國寶の藥師佛を安置する大乘院、眞言の名刹乘臺寺などがある。又町の附近は化石産地として地質學上有名なところで、鳥ノ巢、貝石山、河内谷など特に知られてゐる。▼青山文庫 東三〇

○米、明治大帝恩賜の御衣など、貴重な品を多數藏する。

旅館 須崎屋。

日下 (くさか) ▼猿田の石灰洞 西南三軒、洞口約二米、深さ約七六米、洞内は鍾乳石、石筍などが卓立し奇觀を呈する。

伊野 (いの) ▼杉本神社 西北一軒、俗に大黒様と稱し縣下屈指の古社。▼大内温泉 西一軒自動車三十錢、消化器、神経系諸病、皮膚病、花柳病などによい。

旭 (あさひ) ▼川口温泉 西北八軒、自動車五十錢。

高知 (かうち) 四二軒 大阪商船會社阪神航路接續點。市は土佐國の中央、鏡川下流の沖積層平地にあり、もと山内氏の城下で人口九萬一千(三、



一二調) 城址は西南一軒、今高知公園となつてゐるが、三層の天主閣林表に屹立して古の名残を止めてゐる、又板垣退助の銅像がある。

公園の外、大手門外には藩祖山内一豊を祀る藤並神社、もと板垣氏邸址に建てた高野寺、尾戸の小津神社、洞島山の洞島神社、その東側の安樂寺などがある。▼五臺山公園 東南約四軒、電車十一錢、吸江灣に臨み一ノ臺から五ノ臺まである、展望よく山上には吸江寺、竹林寺、春野神社などがあり、境内には多數の神庭がゐて遊覽者の興をよぶ。▼桂濱 南一二軒、龍頭岬の南岸にある白沙青松の地、附近には坂本龍馬の銅像、大町桂月の記念碑がある。巡航船十五錢。▼種崎公園 南一〇軒、海水浴の適地、

▼圓行寺鑛泉 北約六軒、旅館 靜養軒。
旅館(高知) 城西館、城東館、土居旅館、延命軒、
藤田屋。

名物 土佐半紙、鯉節、珊瑚細工。珊瑚は年産額二
十二萬六千圓に達し、土佐半紙は六百萬圓に上る。
室戸岬 日本八景の一、高知から東八八軒、自動
車三圓五十錢、約四時間、高知鐵道終點手結から六
○軒、自動車二圓三十錢、約三時間、道は土佐灣に
沿ひ平坦である。別に小松島方面からは阿南鐵道の
古庄驛に下車すれば、一三二軒、自動車がある。
岬は土佐灣の東端岬勢半島狀をなして太平洋に突
出する處で、前面には黒潮が流れ、氣候溫暖、岬端
一帯には榕樹、梧桐樹、うまめがし、橘など亞熱帶
性植物が自生する。岩石は斑瀾岩に屬し海潮の撃突
によつて浸蝕をうけ奇態を呈してゐる。

室戸の勝といふは行當岬から鹿岡鼻に至る約二〇
軒の海岸であるが風光最も優れるのは、岬端約二軒
の間である。太平洋の怒濤が岩に激して白沫を飛ば
すところ豪宕の氣に打たれる。

附近には弘法大師修法の遺跡である灌頂の濱、大
師目洗の池、大師一夜建立の岩屋、大師參籠の御藏
洞などがある。更に室戸山に登れば大師開基の東寺
(最御崎寺、第二十四番札所)がある。

旅館 (室戸岬町) 室戸岬旅館、丸福。
(室戸) 油屋、太田、濱田。

名物 土佐半紙、鯉節、珊瑚細工。

土佐一ノ宮 (とさいちのみや) ▼國幣中社土佐
神社 約一軒半、舊土佐國一ノ宮で、一言主神を祀
る。

後免 (ごめん) 五二軒五 高知鐵道の接續點



室戸岬

▼紀貫之の舊蹟 北三籽。▼尾長鳥 この地方の農家に飼育する珍鳥で鶏の一種に屬し、俗に篠原系統といひ尾の長さ約五米に及ぶものがある。

高知鐵道 後免、手結間一二籽七。

月見山 (つきみやま) ▼月見山 約六〇米。

海濱に臨む觀月の好適地。手結 (てひ) ▼手結 岬 南約六〇米、海水浴の適地。

土佐山田 (とさやまだ) 五七籽四

▼山田城址 東二籽。▼圓行寺鑛泉 北六籽。(高知驛参照) ▼山田堰 町内にあり、野中兼山の經營したものと云ふ。▼猪野澤鑛泉 東北二〇籽、自動車一圓徒歩二籽。

高知縣廳は高知市にあつて土佐國を管轄してゐる。四國山脈北境に蟠屈し、山嶺丘陵起伏するもの多く平野は河流及海岸に沿うた狭い部分に限られてゐる。室戸岬と蹉跎岬遙かに突出して土佐灣を抱き、仁淀川灣底に注ぐ。沿海は漁業盛んにして鯨、鰯、鰹などの漁獲多く西南沖ノ島附近は珊瑚の産に知らる。縣下林産に富み又製紙業盛んにして伊野町はその中心をなし土佐紙は古來有名である。

太刀 踊 (土佐)

切込の唄

一 ヨウ、花ドーン、取り儀は、

ヨウ、ナン七日を火精進でイヨ、

太刀を、抜きもつ、サツサノヨイ。

一 池川の、土居の中を流るゝ水は、
さんざみサツノサヨイ〜。
一 睦月には、年たちかへる初日かけ、
若水サツサノヨイ〜。

ヨサコイ節(土佐)

土佐はよい國南をうけて

薩摩風がそよそよと。

土佐の高知の播磨屋橋で

坊さんかんざし買ふを見た。

よしや南海苦熱の地でも

粹な自由の風がふく。

土佐の名物珊瑚に鯨、

紙に生絲に鯉節。

こゝの御家の戌亥の隅まに

黄金花咲くゆきゆき。

わしのさいち(情夫)は浦戸の沖で

雨にしよんぼりぬれて鯉つる。

ゆうたちいかんちやおらんくの池にや

汐ふく魚が泳ぎよる。

浦戸出る時なみだで出たが

御鼻廻れは小歌ぶし。

見ましょ見せましょ、浦戸を明けて

月の名所は桂蜜。

思や言はんせ、言はんしヨ事よ

打たぬ太鼓はなりやすまい。

四國八十八箇所巡禮

阿波國

- 第一番 靈山寺 撫養港に上陸阿波鐵道坂東驛から約六六〇米。板野郡板東村大字板東
- 第二番 極樂寺 一番から約一籽餘。同郡同村大字檜村
- 第三番 金泉寺 二番から二籽七。同郡板西村大字大寺
- 第四番 大日寺 三番から四籽四。同郡松坂村大字黒谷
- 第五番 地藏寺 四番から奥ノ院を経て二籽。同郡同村大字矢武
- 第六番 安樂寺 五番から五籽六。同郡松島村大字引野
- 第七番 十樂寺 六番から約一籽餘。同郡御所村大字高尾
- 第八番 熊谷寺 七番から四籽。阿波郡土成村大字土成
- 第九番 法輪寺 八番から二籽。同郡同村
- 第一〇番 切幡寺 九番から二籽七。同郡八幡村大字切幡
- 第一一番 藤井寺 一〇番から八籽。麻殖郡西尾村大字飯尾
- 第一二番 燒山寺 一一番から一二籽。名西郡下分上山村
- 第一三番 一ノ宮寺 一二番から三〇籽名東郡上八幡村字一宮
- 第一四番 常樂寺 一三番から一籽六。同郡國分村大字延命

第一五番

國分寺

一四番から約半籽。同郡同村大字矢野

第一六番

觀音寺

一五番から二籽。同郡同村大字觀音寺

第一七番

井戸寺

一六番から二籽。同郡南井上村大字井戸

第一八番

恩山寺

一七番から徳島をへて二〇籽。勝浦郡小松島村字田野

第一九番

立江寺

一八番から四籽。那賀郡立江村大字立江

第二〇番

鶴林寺

一九番から一二籽。勝浦郡生比奈村

第二一番

太龍寺

二〇番から六籽。那賀郡加茂谷村字加茂

第二二番

平等寺

二一番から一〇籽同郡新野村大字荒山野

土佐國

第二三番

藥王寺

二二番から二四籽。海部郡日和佐村

第二四番

東寺(最御崎寺)

二三番から八阪八濱、甲浦を経て八四籽。安藝郡津呂村室戸崎の南端

第二五番

津寺

二四番から六籽六。同郡室戸村大字室津

第二六番

西寺(金剛頂寺)

二五番から三籽八同郡室戸村大字元村

第二七番

神峯寺

二六番から三三籽。同郡安田村大字唐濱

第二八番

大日寺

二七番から四二籽二。香美郡佐古村大字大谷

第二九番 國分寺 二八番から約八杆餘同郡國府村大字國分
 第三〇番 一宮寺 二九番から一四杆二。土佐郡一宮村大字
 一宮
 第三一番 竹林寺 三〇番から五杆一。長田郡五疊山村
 禪師峰寺 三一番から六杆。同
 第三三番 高福寺(雪溪寺) 三二番から浦戸灣を渡つて一一杆三。
 吾川郡長濱村
 第三四番 種間寺 三三番から約八杆。同郡秋山村
 清瀧寺 三四番から八杆。高岡郡高岡町
 第三六番 青龍寺 宇佐港から大浦の灣口を渡り井ノ尻に上
 陸して行く。全行程一一杆三。同郡宇佐
 村大字龍
 第三七番 岩本寺(新田五社) 三六番から約三二杆三。同郡戸波
 村大字宮内
 第三八番 毘陀寺(金剛福寺) 三七番から八四杆。幡多郡清松村
 字伊佐
 第三九番 寺山院(延光寺) 三八番から四八杆。同郡中村町

第四〇番 觀自在寺 三九番から二八杆南字和郡御庄村字平城
 龍光寺 四〇番から奥ノ院を経て五一杆三。同郡
 一本松村字正木
 第四二番 佛木寺 四一番から二杆七北字和郡成妙村大字則
 明石寺 四二番から一二杆東字和郡田之筋村明石
 大寶寺 四三番から六八杆。上浮穴郡菅生村
 岩屋寺 四四番から一二杆上浮穴郡仕七川村七鳥
 淨瑠璃寺 四五番から二五杆一。温泉郡阪本村淨瑠
 璃寺
 第四七番 八阪寺 四六番から約半杆。同郡阪本村
 西林寺 四七番から四杆。同郡浮穴村大字高井
 淨土寺 四八番から二杆七。同郡久米村大字鷹子
 繁多寺 四九番から一杆六。同郡桑原村大字畑寺
 石手寺 五〇番から二杆二。同郡道後村大字石手
 太山寺 五一番から一〇杆。同郡和氣村字太山寺
 圓明寺 五二番から二杆。同郡同村大字和氣濱
 延命寺 五三番から三六杆。同
 第五四番 光明寺 五四番から四杆。越智郡宮浦村大字宮浦

伊豫國

第五六番 泰山寺 五五番から二杆。同郡日高村大字小泉
 第五七番 榮福寺 五六番から二杆二。同郡清水村字五十嵐
 第五八番 仙遊寺 五七番から二杆二。同郡同村佐禮山
 第五九番 國分寺 五八番から五杆五。同郡櫻井村大字國分
 第六〇番 横峯寺 五九番から一一杆三。周桑郡(香苑を距
 る一二杆)
 第六一番 香園寺 六〇番から九杆六。同郡(寶壽寺を距
 約一杆)
 第六二番 寶壽寺 六一番から約一杆同郡小松村大字新屋敷
 第六三番 吉祥寺 六二番から七七〇米。新居郡水見村
 第六四番 前神寺 六三番から三三杆。同郡同村藏王靈岳
 第六五番 三角寺 六四番から五二杆宇摩郡金田村字三角寺
 讚岐國
 第六六番 雲邊寺 六五番から三四杆。三豊郡(今阿波三好
 郡佐馬地村)
 第六七番 大興寺 六六番から一二杆。同郡辻村大字小松尾
 第六八番 神惠院 六七番から八杆。同郡觀音寺町
 第六九番 觀音寺 六八番と相對してゐる。同郡同琴彈山

第七〇番 本山寺 六九番から四杆。同郡本山村
 第七一番 彌谷寺 七〇番から一二杆。同郡大見村彌谷山
 第七二番 曼荼羅寺 七一番から四杆。仲多度郡吉原村
 出釋迦寺 七二番から三三〇米。同郡同村
 甲山寺 七三番から二杆二。同郡善通寺村
 善通寺 七四番から二杆二。同郡同村
 金倉寺 七五番から二杆七同郡瀧川村大字金藏寺
 道隆寺 七六番から四杆。同郡豊原村大字鴨
 道場寺 七七番から約八杆。綾歌郡宇多津町
 妙成壽寺 七八番から五杆六。同郡松山村大字高谷
 國分寺 七九番から五杆五。同郡端岡村大分國分
 白峰寺 八〇番から五杆五。同郡松山村大字青海
 根香寺 八一番から五杆五。香川郡上笠居村
 一ノ宮寺 八二番から一二杆。同郡一宮村
 屋島寺 八三番から一六杆六。木田郡瀧元村大字
 屋島
 第八四番 志度寺 八四番から六杆。同郡牟禮村八栗山
 第八五番 八栗寺 八五番から一四杆。大川郡志度町

高知線

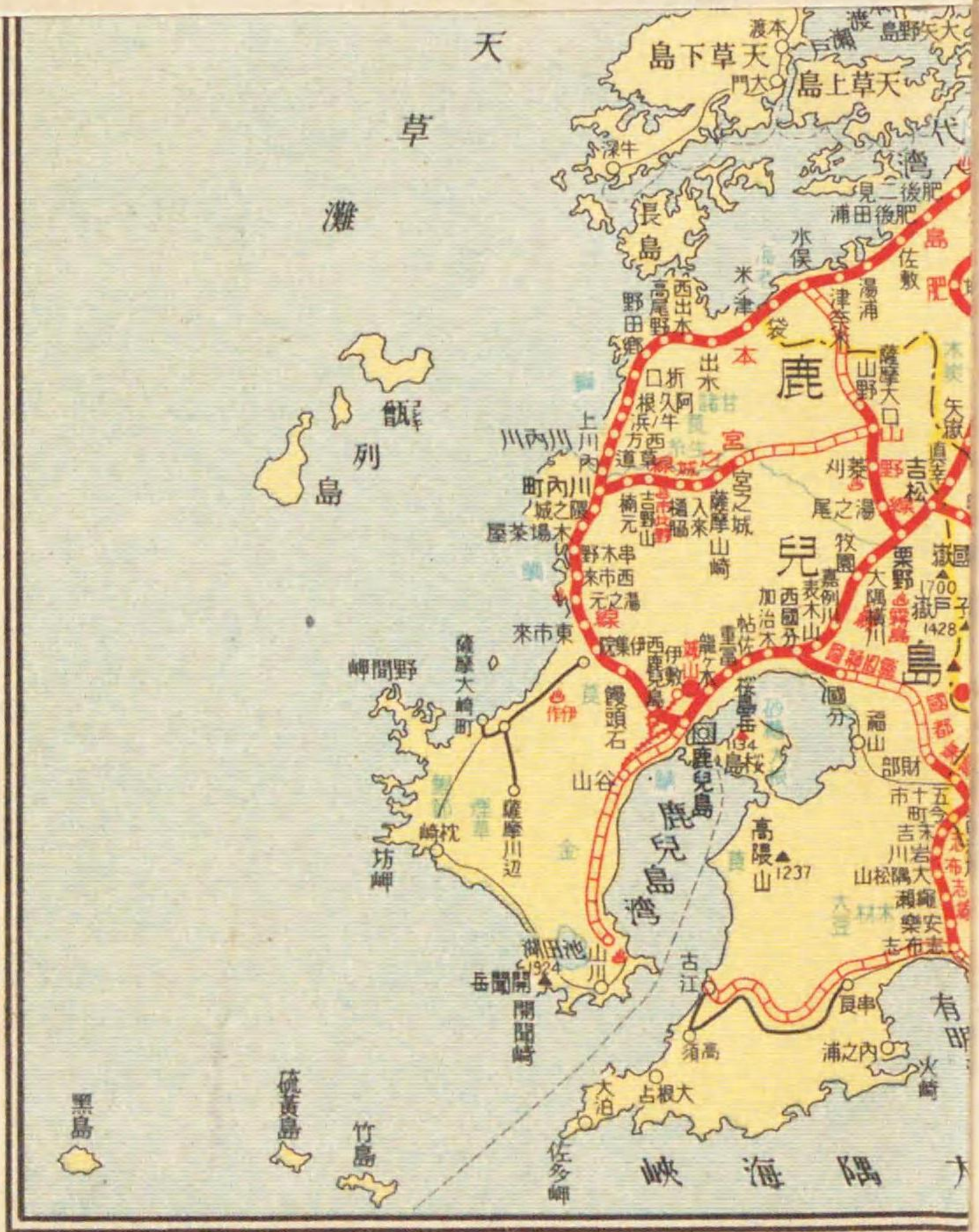
第八七番 長尾寺 八六番から九籽一同郡長尾村大字長尾西
 第八八番 大窪寺 八七番から一四籽。同郡大窪村

我國には古來一定の靈場があつて信徒がこゝに參詣する風がある。その中最も著名なのが西國三十三所觀音、四國八十八箇所、次は法華經六十六部を書寫して諸國の一寺に納める六十六部、眞宗の二十四輩詣、淨土宗の二十五箇所詣及四十八箇所詣。日蓮宗には百箇所詣及二十一箇所詣などがある。

四國八十八箇所巡禮は四國廻路ともいひ、全行程約一、二〇〇籽(三百里)これを巡る日数は約四十日、旅費は一日約米三升の金額でよいといはれてゐる。

おんあほきや、べいろしやなう、まかほたら、まにはんごま、ぢんぼら、はらはりたや、うん、南無大師遍照金剛

四誓誓願
 衆生無邊誓願度
 煩惱無盡誓願斷
 法門無量誓願學
 佛道無上誓願成



九州地方



Legend for the map's features:

- (Red circle): Major cities or stations
- (White circle): Minor cities or stations
- ▲ (Red triangle): Mountains
- (Black square): Other landmarks
- ▣ (White square): Other landmarks
- ▤ (Black square): Other landmarks
- ▥ (White square): Other landmarks
- ▧ (Black square): Other landmarks
- ▨ (White square): Other landmarks
- ▩ (Black square): Other landmarks
- (White square): Other landmarks
- (Black square): Other landmarks
- ▬ (Red line): Railway lines
- ▬ (Black line): Roads
- ▬ (Dotted line): Other routes
- ▬ (Wavy line): Rivers
- ▬ (Dashed line): Other boundaries

鹿兒島線

一	鹿兒島本線	門司、鹿兒島間	四〇〇
一	室木線	遠賀川、室木間	一一
一	久大線	久留米、筑後吉井間	二六
一	篠栗線	吉塚、篠栗間	一〇
一	三角線	宇土、三角間	二五
一	肥薩線	八代、鹿兒島間	一五
一	宮之城線	川内町、宮之城間	二九
一	湯前線	人吉、湯前間	二四
一	山野線	栗野、山野間	二三
一	國都西線	西國分、國分間	二

本線は門司を起點とし鹿兒島に達するのである。その間小倉からは日豊線を南に分岐し、折尾では筑

鹿兒島線

豊線と交叉し、遠賀川からは室木線を南に分ち、吉塚では東に篠栗線を岐け、鳥栖からは長崎線を西に分岐し、本線は更に南して久留米で久大線を、熊本で豊肥線を東に分ち、宇土から三角線を西に岐け、八代からは左に肥薩線を岐ち八代海、天草灘に沿うて川内町に至り、左に宮之城線を岐け、薩摩半島の頸部を横断して鹿兒島に入る。

肥薩線は球磨川の峡谷を傳うて人吉に至りこゝで湯前線を左に岐ち、吉松で小倉から分れた日豊線と會し、栗野からは山野線を西に、西國分で國都西線を東に岐ち、そこからは鹿兒島灣に沿うて鹿兒島に入る。汽車が門司を發して海岸に沿うて西に走ると、車窓の右に筑豊地方産出の石炭累々として山を成し人をして直ちに九州の富を想はしめる。大里の海濱は企救ノ高濱といひ、白沙青松長く連つて風光が佳

い、こゝを後にすれば玄海灘、波頭澎湃として、六連、馬、藍、白洲の諸島眼界に入り来る。戸畑から汽車は洞海の東南岸に沿うて走り線路の右に八幡の製鐵所を見る、無数の煙突林立し、煤煙天を覆ひ、對岸の若松港亦近く指點される。香椎、箱崎の間、一水緩かに流れて海に入るのは多々羅川で、足利尊氏西奔の時、肥後の菊池氏が吉野朝の爲に、屢々小貳、大友と戦つた所、汽車はこの間を走り海の中道を右に見ながら進む。

箱崎から博多に至る間は即ち千代ノ松原、満目の赤松、千慮萬様、宮崎宮、龜山上皇、日蓮上人の銅像など皆車窓の眺に入つて、汽車亦畫中のもとなつた感じがする。

博多からは鐵路南し、菅公に因深い天拜山を右に、寶満山を左に見つゝ進んで行く、この間山野田蕪の

間、多く黄檗を見る、晩秋の眺、紅楓よりも美観である。原田では左に筑豊本線と會し、鳥栖からは長崎本線が西に岐れ本線は更に南して筑後川を渡る。川は九州第一の長流、頼山陽の詩に名高い處、鐵橋を渡れば久留米である。大牟田を過ぎて長洲に至れば、初めて有明海に接す、海の彼方に峨々として聳えるは島原の鎮山雲仙嶽、これから八代に至る間、幾度か車窓の人を楽しましめるものがある。高瀬から南木葉、植木の邊は明治十年西南役の古戰場、彼山此水悉く血戰奮闘の跡で、この間汽車は右に三ノ嶽、左に田原坂の丘陵を見ながら進む。

熊本城は加藤清正の築く所で、明治十年の役に名高い處、汽車は上熊本から熊本驛に至るまで、左にその外廓を見て走る。

熊本驛を出てから左窓東北を望めば、群峯天を指

す中に中央の一山、熾に煙を噴くを見る。これが阿蘇の靈峯である。八代からは球磨川を渡り、山麓に沿ひ田圃を過ぎ日奈久に着く、こゝは不知火灣の泉都にして小別府の稱あり、日奈久からは汽車は、大關、國見、笠山、鬼嶽などの相連る山々がその裾を有明海に洗はれてゐる邊を縫うて走る。海の彼方には天草の島々が點在し、白帆はその間を點綴する。やがて汽車は昔三太郎越えとして知られた肥薩の國境、赤松、佐敷、津奈木の天嶮を抜け天草島の翠色を煙波の彼方に眺めつゝ、鶴の渡來地として聞える野田郷、阿久根を過ぎ、川内町に出で伊集院を経て鹿兒島に入る。

鹿兒島本線

門司（もじ）九州の最北端で、海峽を隔てゝ

鹿兒島線



下關と相對し、瀬戸内海及九州の咽喉を扼し、重要な海門である。下關との間には鐵道省經營の關門連絡船往復し、一日四十九回十五分で達する。市は人口約十萬五千

(三、一二調) 昭和三年度貿易額は輸入九千四百七十九萬二千圓輸出三千七百八十萬圓である。

▼縣社和布刈神社 東北二軒、神功皇后三韓から凱旋後、彦火々々出見尊外數神を祀られた社である。

對岸壇の浦と僅に數百米を隔て、その間潮流急にして音を立てゝ流れてゐる。毎年大晦日の夜、海中の和布を刈つて元旦の供へとするのでこの社名がある

▼縣社甲宗八幡宮 東北約一軒、神功皇后三韓役の時甲を神體とせられたので甲宗八幡と號するのである。▼清瀧公園 東半軒、門司五城址の一たる三角

鹿兒島線

山の麓にあり、海を見下して展望がきく。旅館 川卯、石田、丸山、山田、茶庄。名物 雲丹、バナ、その他果實類。

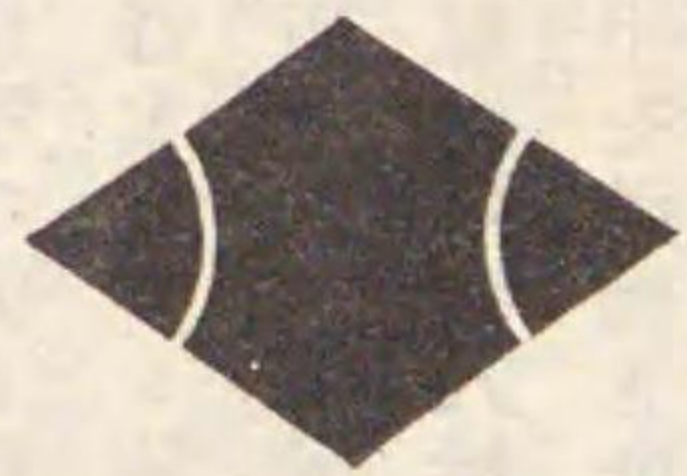
九州電気軌道 門司、折尾間及途中大門から戸畑に至るものと、中央區から天籟寺川に至る支線とがある。

門司築港軌道 市内東本町から田ノ浦まで開通してゐる。

大里 (だいら) 東南三〇〇米に安徳天皇の柳の御所がある。附近には製糖、ビール、小麥粉、焼酎、製銅電線などの大工場が多い。

▼西本願寺鎮西別院 東南約一軒。

小倉 (こくら) 一一軒七 日豊線分岐點、小倉鐵道(東小倉、上添田間三九軒四)、小倉電気軌道(市内大阪町、北方間四軒五) 接續點。



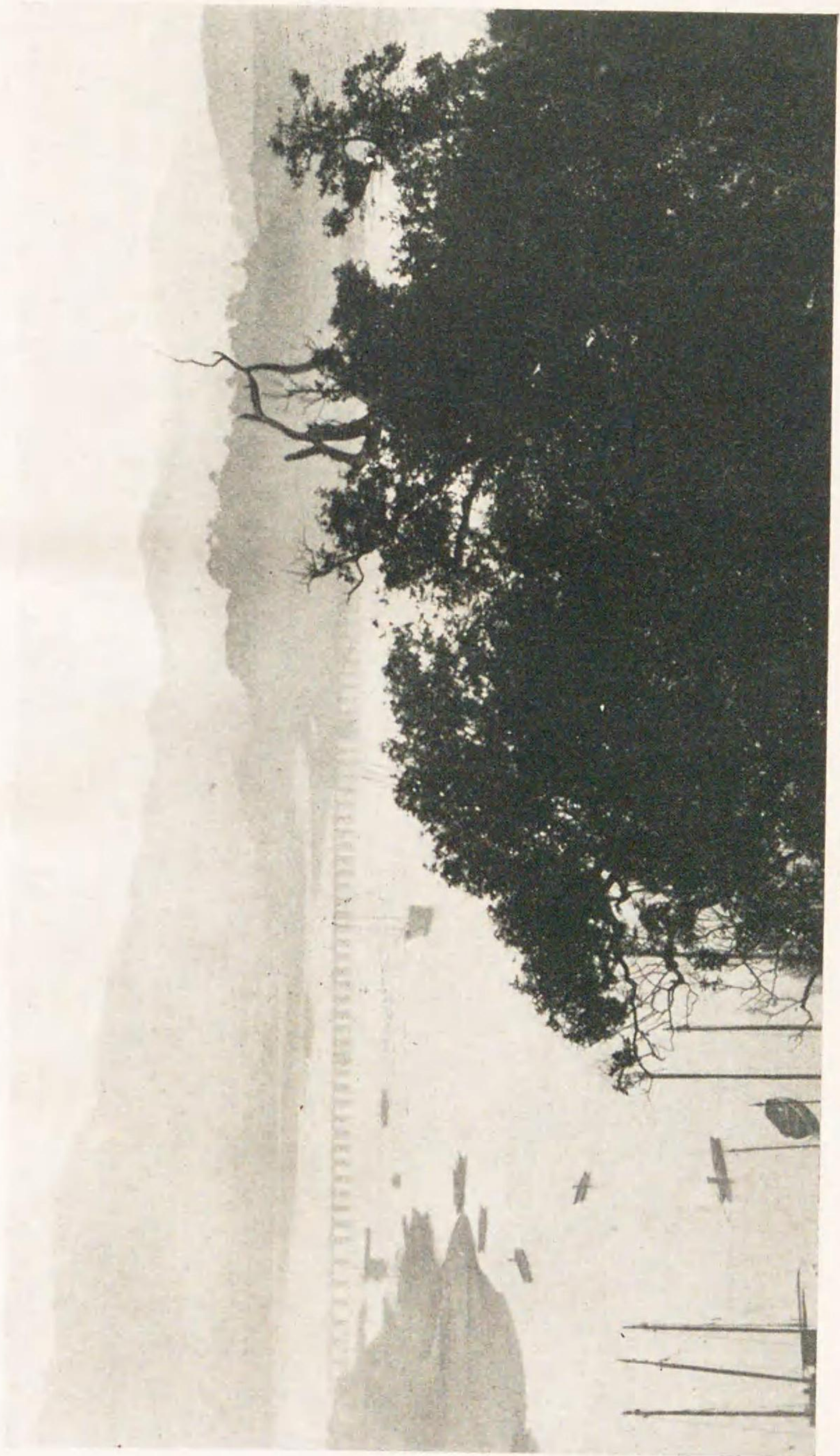
小倉はもと小笠原氏十五萬石の城下で、人口八萬五百(三、一二調) 古來小倉織を産し、洋紙、ワイヤロープ、陶器、電球などの大工場がある、また木材の集散が盛んである、市の内外には大工場が多い。

舊幕時代には九州諸藩東上の船場であつた。

▼小倉城址 約半軒、市の中央にあり紫川に臨んでゐる。毛利氏、細川氏、小笠原氏相次いで城主となつたところ。今第十二師團司令部がある。▼永照寺(眞宗) 東約一軒、眞宗本願寺派で地方有数の大刹である。▼延命寺遊園地 南三軒、電車六錢、海岸の丘上にあつて海を隔て、彦島と相對し眺望がよく、對岸の岸柳島は宮本武藏の敵討によつて知られてゐる。▼福聚寺 南約三軒、足立山麓にある。



所 鐵 製 幡 八



▼妙見神社 東南約三軒、足立山上にある。

旅館 梅屋、播磨屋、高尾屋。

戸畑 (とばた)

洞海邊くまのうみにあり、若松と共に筑

豊炭の輸出港である。人口四萬四

千(四、三調)附近に紡績、クレオ

ソート油注入木材、精糖などの工

場がある。若松へは渡船あり、約

五分賃三錢。



枝光 (えだみつ)

附近に板硝子、鐵釘、骸炭

ナフタリン、クレオソートなどの工場がある。

八幡 (やはた) 二二軒一

製鐵所開設以來異常な發達を遂

げた處で人口十四萬(四、三調)

を有し、労働市である。

八幡製鐵所は本所、戸畑作業



場、西八幡工場に分れ、昭和三年度實産額製鉄八三

一、八〇〇噸、製鋼一、二一六、四〇〇噸、骸炭九〇三、

八〇〇噸、従業員二萬百八十人。

旅館 丸屋、池田屋。

黒崎 (くろさき) 附近に電氣機械、器具、セ

メントなどの工場がある。

折尾 (をりを) 三一軒一 筑豊本線交又點。

若松へ一〇軒八。附近に炭坑が多い。

遠賀川 (をんががは) 室木線はこゝから岐れる

この線は室木までの支線で沿線には炭坑が多い。蘆

屋鐵道もこゝから西蘆屋にしあしやに行く、六軒。蘆屋町は古

是水みづき莖ノ岡なか又は岡ノ水門みなとといひ、神武天皇の舊蹟で

玄海灘の眺望雄大、海水浴場として知られてゐる。

旅館(蘆屋) 蘆屋俱樂部、山鹿屋。

赤間 (あかま) ▼官幣大社宗像神社(邊津宮)

八軒、自動車四十五錢。次驛東郷からは北四軒自動車四十五錢。思姫命、湍津姫命、市杵島姫命を祀り三箇所に別れ邊津宮は田島に、中津宮は海上の大島に、奥津宮は同じく奥ノ島にある。邊津宮の神殿、拜殿及阿彌陀經石は國寶。

福岡 (ふくま) ▼宮地嶽 西北約二軒、自動車二十錢、開運の神として參詣者が多い。▼津屋崎海水浴場 西四軒、自動車二十五錢。▼香椎 (かしひ) 博多灣鐵道接續點。

博多灣鐵道 南は宇美まで一二軒六、西は西戸崎まで一二軒二。別に新博多(福岡市)から宮地嶽(福岡)まで二三軒の線が西戸崎線和白で交叉してゐる。西戸崎線の走る處はいはゆる海の中道で、風光天橋立に似て更に大、頼山陽も「此景何に縁つてか西僻に在る」と惜んだ、終點西戸崎の海上

約二軒にある殘島は弘安役の古戰場である。南線の宇美驛の近くには應神天皇御降誕の舊蹟宇美八幡宮がある。尙新博多から宮地嶽へ行く線に沿うては、名島驛の西一軒に妙見島があり、博多灣の眺望を一眸に收める、西一軒には帆柱石がある。神功皇后三韓の役に用ゐられた兵船の帆柱が化石したと傳ふ。

▼官幣大社香椎宮 東南約一軒、電車の便あり、祭神は仲哀天皇及神功皇后。▼名島 西五軒、帆柱石がある。

箱崎 (はこざき) ▼官幣大社宮崎八幡宮 西二〇〇米、祭神は應神天皇、神殿、拜殿は結構善美、樓門と共に國寶である。樓門の「敵國降伏」の扁額は後醍醐天皇の宸筆を模せるものといふ。社前の「標の松」は應神天皇の御胞衣埋葬のしるしである。▼九

州帝國大學工學部、同農學部、同法文學部 北約一軒
吉塚 (よしづか) 篠栗線分岐點及筑前參宮鐵道接續點。▼東公園 西一〇〇米、附近一帯を千代の松原といふ、園内に元弘記念館、龜山上皇及日蓮上人銅像、元弘記念館、九州帝國大學醫學部、崇福寺などがある。

筑前參宮鐵道 吉塚から南東に向ひ宇美神社のある宇美を経て勝田まで九軒四。

篠栗線

篠栗 (ささぐり) ▼八木山 六軒自動車四十錢、篠栗吉野の稱がある。篠栗から筑豊線飯塚に出る國道に沿ふ。又この附近には篠栗新四國の靈場があり、巡禮者が多い。

博多 (はかた) 七九軒 九州鐵道、北九州鐵



道、九州水力電氣線接續點。門司から約二時間、博多は福岡市の一部で、那珂川を隔て、福岡と相對してゐる。市内に博軌、福博二會社の電車がある。福岡市はもと黒田氏五十二萬石の城下で人口二十萬九千(三、一二調)を有し博多織、博多人形、博多焼、筑前琵琶、平助筆などを産する。

博多は古の那大津で本邦三津の一に數へられ支那貿易の市場としてその名夙に海外に聞え、殊に太宰府に近い要衝に當つてゐたので、守護職を置いて外敵防禦の要地としてゐた。壹岐の勝本、對島の嚴原及釜山へ汽船便がある。昭和三年度貿易額は輸入五百六十九萬三千圓、輸出十五萬圓である。

▼萬行寺 西半軒、眞宗本山の巨刹。▼東公園 東北二軒。▼西公園 西六軒、博多灣の風光を見渡す景勝の地、園内に平野國臣の銅像あり、櫻の名所。▼福岡城址 西二軒、慶長五年(三三〇年前)黒田長政が工を起し數年にして完成、今本丸が残つてゐる。何れも電車の便がある。

こゝから「今津防壘、芥屋ノ大門、虹ノ松原」廻遊の面白い旅が北九州鐵道によつて出来る。

北九州鐵道 南博多、東唐津間五二軒八。

東唐津、山本間七軒四。

今宿 (いまじく) ▼今津防壘 北四軒、文永、弘安(約六六〇年前)兩度の戦蹟で、役後築いた防禦の石壘蒙古軍人塚及千人塚などがある。前原(まへばる) ▼芥屋の大門 北八軒、芥屋浦の玄武岩からなる巨岩が怒濤に噛まれて洞を穿つ

てゐる、洞口から約三〇〇米近くまで小舟が入る。洞頂、洞底共に六角石を以て編まれ、至る處に龜甲紋を織るさま奇觀である。前原から汽車は海岸に沿ひ「虹ノ松原」の中を通つて東唐津驛(唐津町)に出る。▼虹ノ松原(唐津線唐津驛参照) ▼博多織 博多といへば直ちに博多織を聯想される程全国的に知られてゐるが、之は足利時代の中葉後南支那の精巧な廣東織及緞子織の製法が傳へられ之を基にして創出されたもので天文年中(約四〇〇年前)竹若伊右衛門が更に新機軸を出し、帶地としての名聲を擧げることになつたのである。年産額二百八十萬圓。織物には右の外博多絞があり、地質の堅牢と染色の確實なることにより好評がある、年産額十七萬圓。旅館(福岡) 榮屋、松島屋、紅卯、旅順館、今任、

水野、玉川。名物 博多人形、二〇加煎餅、石堂飴、鶏卵素麵、鶴の子。

福岡縣廳は福岡市にあつて、筑前、筑後の兩國及豊前の一部を管轄してゐる。北は玄海灘と瀬戸内海に面し、下關海峡を挟んで山口縣と相對する。遠賀川流域地方は炭田多く直方その中心をなし、門司、若松はその輸出港である。門司の西南には小倉市あり小倉織を産し、小倉の西方八幡には東洋第一と稱せらるる製鐵所がある。福岡市は博多灣岸に位し商工業盛んに博多織の産あり、又九州帝國大學が置かれてある。博多灣頭から、南築後川下流に及べる筑紫平野には米、菜種の産多く、又壘表の産あり、久

留米は筑後川に沿うて久留米耕を出し、高瀬、柳河地方は醸造業が盛んである。南境の大牟田附近には我國第一の炭坑を有し、三池港から石炭の輸出をなしてゐる。縣下には門司、福岡、小倉、久留米、若松、大牟田、八幡、戸畑の八市がある。

博多節

博多帯締め、筑前絞り
筑前博多の帯オシメて
歩む姿は柳ドッコイシヨ、ごし。
「お月さんがちよいと出て松の影
ハイ今晚は」。

雑談

いつも五月のさつきならよから
思ふ殿御の手苗さる。
娘友 達や櫻の花よ
さかりすぐれはちらはらと。

水城（みづき） 東北一〇米には天智天皇の朝外寇に備へる爲に築造した水城の址があり、指定の史蹟である。

二日市（ふつかいち） 太宰府電気軌道、朝倉軌道の接続點、後者は杷木まで一六軒七。

▼官幣中社太宰府神社 北東約三軒、太宰府電軌賃十一錢、自動車十五錢、菅公の廟所、社殿は壯麗雄偉で境内に公が遺愛の飛梅がある。

▼太宰府址 二軒餘、太宰府町から福岡市に通ずる道の路傍に「都府樓古址」の石碑がある、これが古へ九州二島を治め、兼て外交を掌つた一大政廳太宰府の址である。南に大門、北に都府樓の址が残存し、礎石計七十箇を數へ、指定の史蹟である。

▼觀世音寺(天台宗) 太宰府町から西約半軒、天智天皇の創建で、七代八十餘年を費して聖武天皇の御

代に竣工した、往古は境域廣く堂宇盛觀を極めたが幾度か火災に罹り漸次衰頽した、今残存の佛像十九何れも優秀で國寶になつてゐる。

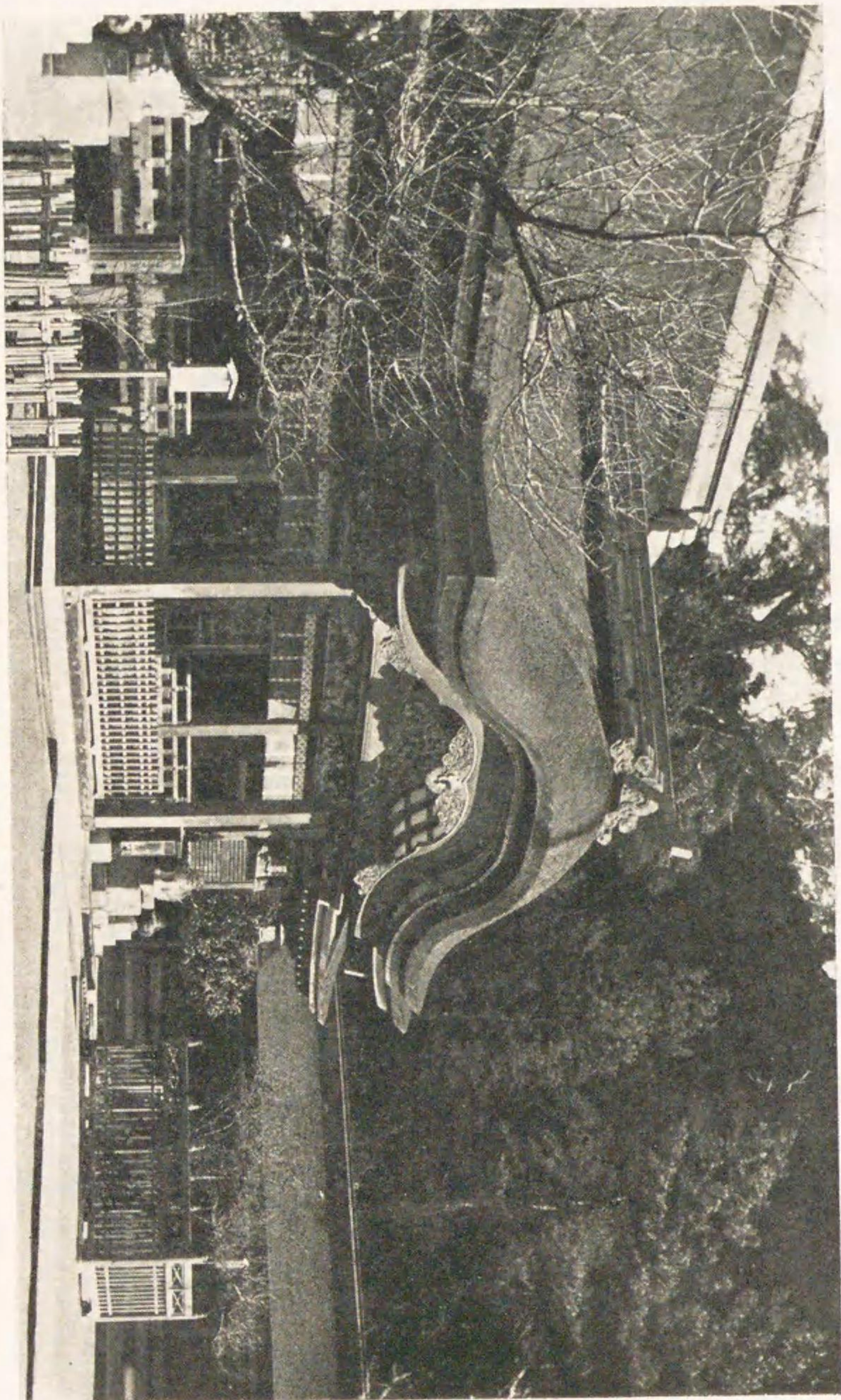
▼戒壇院 觀世音寺の西にある、觀世音寺四十九院の一で、大和東大寺、下野藥師寺の戒壇と共に日本三戒壇の一である。觀世音寺の子院で僅かに残つてゐるのはこゝのみで盧舍那佛坐像一軀は國寶である。

▼天拜山 山頂に一株の老松と小祠とがあり、菅公が冤を天に訴へたところといふ。▼官幣小社竈門神社 上宮は太宰府神社の背後に聳える寶滿山上に下宮はその南麓にあり、玉依姫命を祀る。寶滿山は眺望雄大、參拜を兼ねての登山者が多い。

▼武藏温泉 西南半軒、遊樂的な温泉場。

旅館 延壽館、大丸館。

名物 飛梅酒、梅ヶ枝餅。



太宰府天満宮

原田 (はるだ)

筑豊本線分岐點。

鳥栖 (とす)

一〇八軒三 長崎本線分岐點。

久留米 (くるめ)

一一五軒四 久大線分岐點。



大川鐵道及九州鐵道接續點。大川鐵道は上久留米から榎津まで一九軒八、別と同鐵道軌道部線は柳河、下若津間三軒九の間通ずる。

久留米は門司から急行二時間半、普通三時間、もと有馬氏二十一萬石の城下で、人口八萬三千(三、一、二調)を有し、久留米緋、久留米縞、足袋、筑後傘、漆器、生蠟などを産する。久留米緋は生地が丈夫で幾度洗濯しても色が變らないのが特徴で天明年間(約一五〇年前)の創製にかゝり、現在年産額八百萬圓、各方面に廣く送出されてゐる。足袋は年産額二

千五百八十萬圓。▼久留米城址 東一軒、筑後川(筑紫二郎)に臨み、もと篠原城とも稱し、天正以來毛利、田中、有馬氏の居城であつた。本丸址に縣社篠山神社があり、藩祖有馬豊氏等を祀る。▼遍照院 約二軒、高山彦九郎の墓がある。彦九郎は寛政三奇人の一人で、寛政五年(一三七年前)節原村森嘉膳の邸宅で自刃したのである。

明治天皇御製

國のため心つくし、たか山の
いさを空しくはてしあはれさ

▼井上傳の碑 兩替町にある、傳女は天明八年久留米通外町に生れ、久留米緋を發明し、明治二年八十歳で歿した。▼梅林寺(臨濟宗) 北西半軒、有馬氏入國以來藩主累代の香華院。▼縣社水天宮 北西約一軒、附近の流行神、筑後川畔にあつて景勝の地、

祠前に勤王家眞木和泉守保臣の銅像がある。
旅館 布屋、青々館、林松館。
名物 栗おこし、いつもぢ(菓子)。

久大線

久留米、大分間を連接する豫定線で、今久留米から筑後吉井まで開通してゐる。
御井 (みる) 古の國府の地。▼國幣大社
高良神社 高良山上にあり、驛から山麓まで一軒半。山麓から頂上まで二軒、高良玉垂命を祀り築後國一ノ宮である。寶物中平家物語は國寶である
高良山中には一大奇蹟たる神籠石がある。高さ約一米の石壘で、高良神社の後から全山を一周し、延長二軒餘に亘る。その築造の時代及目的に關しては諸説あり未だ定説がない。

善導寺 (ぜんだうじ) ▼善導寺 北一軒、淨土宗の九州本山。▼大刀洗飛行場 北約四軒。
筑後草野 (ちくごくさの) ▼專念寺 西三〇〇米、九州日光と呼ばれてゐる。
筑後吉井 (ちくごよしゐ) 二六軒四。
日田盆地 驛から二一軒、自動車一圓、一時間別途大湯線(日豊本線大分驛分岐)豊後中村驛からは四〇軒、自動車二時間半、二圓二十錢、又耶馬溪鐵道(日豊本線中津驛接續)守實驛からは一六軒、自動車一圓、一時間。
筑後川の支流、三隈川の平野にあり、地勢二區劃に別れ、隈は商業區、豆田には役所、學校などがある。東西八軒、南北八軒の盆地で數條の支流が縦横に貫流し繪のやうな水郷を成してゐる。鮎の名産地で、夏の宵鶉飼があり、これを取り巻く屋

形船の紅提灯は水郷情趣の中特に勝れたものである、遙かに久住連峯、秀麗な英彦山及阿蘇山の噴煙を望む。▼永興寺(淨土宗) 豆田の東北約一軒寺内の觀音堂に安置する十一面觀音立像一軀、毘沙門天立像三軀、四天王立像四軀は國寶に指定されてゐる。▼咸宜園 廣瀬淡窓が文化二年から安政年間まで五十餘年間三千餘名の子弟を教育した處で「君汲川流我拾薪」の詩で名高い。
旅館 (日田) 山陽館、山水旅館。

こつこつ節 (日田)

お月さんさへ夜あそびなさる
サンヤネー コツ〜。
年は若うて、十三な、つ
止してお呉れや雲がくれ。
春の野に出て七草つめは
サンヤネー コツ〜。

羽犬塚 (はいぬづか) 南筑軌道(羽犬塚、黒木間一七軒二)、三瀨軌道(羽犬塚、榎津間一一軒七)接續點。附近は花菱、壘表などの産地で年産額百五十萬圓に達し歐米並南洋方面にまで輸出してゐる。尙筑後傘(年産額百六十萬圓)の本場である。
日向神岩から菊池神社へ 黒木まで南筑軌道により、黒木から東約一六軒自動車がある、日向神岩は大淵、矢部兩村の間にあり、矢部川の兩岸に奇巖羅列して耶馬溪に劣らぬ奇勝を造つてゐる。
矢部村の奥一二軒の御側名には後征西將軍良成親王の御墓がある。
附近には九州に於ける吉野朝の末路を語る史蹟が尠くない、矢部村から約四軒、福岡、熊本縣界を越えて行けば隈府町の菊池神社に出る、山路約二四軒、恰好な草鞋旅である。

船小屋 (ふなごや) ▼船小屋鑛泉 東半籽、矢部川と松永川との合流點にある水郷。旅館 樋口軒、玉振館、吉野屋。

矢部川 (やべかは) 東肥鐵道接續點。

東肥鐵道 矢部川、南關間一三籽七。その本吉驛から二籽、本吉山の中腹には名刹清水寺(天台宗)あり、大同元年(一、一二四年前)慈覺大師の開基にかゝり山海の眺觀に富む、寺の北方に女山神籠石(鬼ノ窟)と稱し高さ約一米、延長四籽、山谷を縫うて楕圓形に連互する石垣がある。▼柳河町 六籽、柳河軌道の便あり賃二十四錢。町はもと立花氏十二萬石の城下で柳河城址、立花農園がある。

大牟田 (おほむた) 一四九籽 門司から急行三時間普通約五時間、有明海に臨む、人口十萬。附近



に三池炭鑛がある。年産額二百三十三萬噸、坑夫職工一萬五千人。この炭鑛の發見は約四百年前で、稻荷山、平野山、生山の開掘に創り當時この三山を總稱して三池炭山といつたのである。現在萬田、宮浦、宮ノ原、四ツ山の炭坑がある。三池港の貿易額は昭和三年度輸入四百五十二萬五千圓、輸出一千二百三萬五千圓である。三池炭田は東南二籽乃至四籽の間にあり、本邦第一の大炭田で埋藏量豊富、三井の經營に成り、萬田宮浦、宮ノ原、勝立、大浦、四ツ山の六大坑あり、一ケ年の産額二百三十萬噸、工夫一萬二千人。その他三井關係の工場が多い。旅館 有明館、明治屋、本吉。

萬田 (まんだ) 萬田炭坑へ東北二籽。四ツ山

炭坑へ西北約二籽。三池築港へ西北約二籽。三池からは島原、口之津へ汽船が出る。

高瀬 (たかせ) ▼立願寺溫泉 東北約三籽、

東北の一小丘を隔て、富尾溫泉がある。

旅館 紅葉館、玉榮館、壽館。

▼小天の蜜柑 東南一二籽、自動車四十錢。全山黄金色を呈するまでに多量の蜜柑を産する、年産額五十萬圓。この蜜柑は景行天皇の御代(一、七〇〇餘年前)新羅から移し植ゑたのに創まると傳へられてゐる。

木葉 (このは) 西南役に名高い田原坂は東約

二籽。

名物 木葉猿。

植木 (うゑき) 鹿本鐵道接續點。

▼菱形八幡宮 北約三籽、俗に穴八幡といひ、應神天皇が初めて神となり現れ給うた處と傳へてゐる。

鹿本鐵道 植木、山鹿間二〇籽三。平島 (ひ

らしま) ▼平島溫泉 東三〇〇米、旅館いろ

は屋。宮原 (みやはら) ▼宮原鑛泉 二〇〇

米。山鹿 (やまが) 菊池川畔の小繁華地で山

鹿溫泉所在地、旅館 櫻井、山福。地に山鹿神社

あり、八月十六日の燈籠祭が有名である。

上熊本 (かみくまもと) 一四九籽八 菊池電氣軌

道接續點。熊本市の北邊にあり、熊本城(東南一籽)、

加藤神社(同一籽)、清正公廟のある本妙寺(西一籽)

などはこの驛から近い。

熊本名所廻り

廻遊籽程約五籽。本妙寺は九州に於ける日蓮宗の第一寺、清正公廟の左右には殉死せる大木土佐と朝

鮮人金官の墓あり、第三世の貫主日遙上人も清正凱旋に従ひ歸化した鮮人で、日鮮合同融和の範を三百年前に示してゐる。

▼縣社加藤神社 清正を祀り、市の北半部を脚下に俯瞰し遠く阿蘇の噴煙が望まれる。

▼熊本城 慶長六年(約三三〇年前)清正が舊城を改築したもので、その手植の公孫樹があるので銀杏城ともいふ、後細川忠利がこれに代つた。西南の役兵火に罹り僅に宇土櫓を残すのみだが、孤軍嬰守五旬に互る悲壯な史蹟となつてゐる、今第六師團司令部あり、城内御幸坂は櫻の名所である。

熊本名所廻遊は上記の本妙寺、加藤神社、熊本城の外新市街、商品陳列館、藤崎八幡宮を経て水前寺公園に遊び、歸路市内第一の繁華唐人町を過ぎ花岡山、二本木を見て熊本驛に出る。

熊本驛に初めて下車した人はこの反對の徑路をとるがよい。

菊池電氣軌道 上熊本、隈府間 二五軒九。

隈府 (わいふ) ▼別格官幣社菊池神社 約二軒、菊池武時以下五代の靈を祀る。社境は菊池氏の隈府城址で、櫻樹が多い。隈府の正觀寺内には菊池武光、武政、武國の墓がある。

熊本 (くまもと) 一九八軒 豊肥本線分岐點

門司から急行約四時間半、普通約一時間、熊本は白川畔肥後平野の間にあり、加藤清正がこゝに封ぜられてから繁華を來し、細川氏五十四萬石の城下となつて益々榮えた。熊本醫科大學、高等學校、高等工業學校、熊本放送局などあり、人口十五萬五千(三、一



熊本城



二調)を有し、米穀の集散甚だ盛んに又醤油を産する
鐵道は豊肥本線を東へ岐つ外、別に熊本電氣軌道は
田崎、百貫石間の百貫線、長六橋、横町間の川尻
線の二つを分岐する。百貫石から近津へ四軒、自動
車あり、近津から島原へ一日二回の汽船便がある。

熊本名所廻り (上熊本参照)

▼花岡山 西北三〇〇米、西南役に薩軍が砲壘を設
けて熊本城を攻撃した處、山櫻が多く眺望が佳い。
▼國幣小社藤崎八幡宮 東四軒、白川畔にある。祭
神は應神天皇で、その祭禮の甲冑武士の行列は壯觀
である。

▼河内温泉 一六軒、前記百貫石から自動車がある
旅館 潮鳴館、廣田。
旅館(熊本) 研屋本支店、綿屋、松の井、寶來屋。
名物 朝鮮餛飩、鯛の花、毒消丸。

鹿兒島線

熊本縣廳は熊本市にあつて肥後國を管轄して
ゐる。東北には火口の大、世界第一といはるゝ
阿蘇山あり、肥後平野その西に横はつて農業盛
んに、良質の米を産し、又粟の産が多い。縣下
又茶の産出多く牧畜も行はれ、河内山地方から
は柑橘を産出する。熊本市は熊本城あるを以て
名高く、その南、緑川の口に近く宇土半島突出し
て尖端に開港場三角港あり、縣の南部は九州山
脈連互し、球磨川の急流その間を流れて鮎を産
すること多く、上流には人吉あり、河口には八
代あり、八代の附近からはセメント及紙を出し
鏡町には人造肥料の工場がある。天草群島の下
天草島からは無煙炭、陶土を産してゐる。熊本
電氣會社は阿蘇山下の白川及黒川に發電所を設
け、縣下及筑後方面に電力を供給してゐる。

鹿兒島線

肥後節

一つの城より二つの城おこす
後は御旗の風で散る。

アラ シヨカシヨカネ

どうしよか隊長さん 今度の戦にや

どうでもどうでも行きたい

行かないや俺等の身が立たぬ。

雨は降る降る陣羽はぬるる

こゝは古戦場の田原坂。

(雉子前に同じ)

ノンシコラ

肥後の刀の、さけ緒の長さ、ノンシコラ

まさか逢へば玉櫛、アラヨカ、ノンシコラ、

ホツホヨカ〜。

エウナカバツテン、ドウシヨウカイ、

カンニンセイ〜。

親は鈍なもの、柴茶に迷よて

知らぬ他村に娘やる。

(雉子前に同じ)

雑語

男振りには惚れんはな、

煙草入の銀金具か因縁たい。

アカ、チャカ、ベツチャカ、チャカ、

チャカ、チャカ。

川尻 (かはしり)

▼大慈寺(曹洞宗) 東南約

二籽。

宇土 (うど)

三角線分岐点。▼木原山 東北

約四籽自動車がある。雁回山ともいひ、鎮西八郎爲

朝の守護たる木原不動がある。

三角線

この線は宇土半島の北部を走つて三角に行く支
線である。

住吉 (すみよし) 網田 (あみだ) 附近は海水浴

に適する。

赤瀬 (あかせ)

▼赤瀬鏡泉 二〇〇米。

旅館 寶慶館、大和館。

三角 (みすみ)

▼三角港 西北三籽、昭和三

年度貿易額輸入三百八十五萬五千圓、輸出十二萬

圓である。鳥原の雲仙獄と天草諸島の翠色とを眺

め、景勝肥後第一と稱せらる。舟を雇つて島巡り

をすれば興が深い、こゝから鳥原、本渡富岡、牛

深へ汽船便がある。船上から展開矚目する所は天

草灘、いはゆる「雲耶山耶吳耶越、水天髣髴青一髮」の山

陽詩中の人となる。三角は近年海水浴場として聲

價を高めた。旅館 池田屋。

▼金柵鏡泉 東方約三籽。旅館 福原。

有佐 (ありさ)

▼鏡町 西二籽自動車が行く

初めて米券倉庫を設けた地として知られてゐる。尙

大日本人造肥料會社の工場あり、年産額五百萬圓。

鹿兒島線

▼五箇庄 東四〇籽、途中柿迫村まで二〇籽、自動車

一圓。球磨川の一支流なる川邊川の山谷を占め、方

約一八籽に互る椎原、久連木、縦木、葉木、仁田尾

の五村は山峯重疊の中間にあり、九州第一の僻地で

平家の落武者が匿れた處といふ。

八代 (やつしろ)

二三三籽八 肥薩線分岐点

町は西約二籽を距て自動車二十錢、松江城内には官

幣中社八代宮あり、征西將軍懷良親王を祀る。同北

の丸の松井神社境内には臥龍梅があり、又つゝじの

大木が多い。▼懷良親王御陵墓 西北約二籽半、悟

眞寺内にある。▼妙見宮 東南二籽。▼不知火 毎

年陰曆七月晦日の夜半から朔日に互り、八代海一帯

に現はれる火、八〇餘籽の海面へ夜光の玉を連ねた

やうに波を照す、原因不明、古來龍神の燈明を點じ

たるものなど傳へ一に龍燈ともいひ、奇觀である。

旅館 帶屋、油屋。

名産 鮎、高田焼、朱薬、西瓜。

日奈久 (ひなぐ) ▼日奈久温泉 約一軒、天草

灘に面し、雲仙及天草島の翠色を望んで風景よく、

小別府ともいふべき海岸温泉地で、胃腸、神経衰弱

リウマチスなどによい。鳩山、東山、櫛山、温泉神

社、太閤越、水島など浴客散策の名所も多い。

旅館 金波樓、筑後屋、濱伊勢屋、旭館。

佐敷 (さしき) ▼三太郎越え 日奈久から南

海岸を傳つて米ノ津に出る道には、赤松太郎、佐敷

太郎、津奈木太郎の嶮があり、いはゆる三太郎越で

ある。

▼天草 日奈久から大門まで一日一往復の定期

汽船あり、賃金一圓十錢、姫浦、樋島、池浦、棚底

宮内 柳本を経て行く。不知火灣の風光は瀬戸内

海に劣らないものがある、大門から本渡町まで四軒

である、島は天草の亂に名高く、到るところ風光明

媚である。

湯浦 (ゆのうら) ▼湯の浦温泉 西北半軒。

旅館 昭和館、旭館。

水俣 (みなまた) 肥薩海岸に於ける第一の繁

華な町、附近に水俣城址、陣の坂、出月原、月浦な

ど探るべきものがある。尙この邊一帶は西南役の戦

蹟である。尙驛の前には日本窒素肥料會社の工場が

ある、年産額九百五十萬圓。

▼湯出温泉 東南八軒、自動車四十錢。

米ノ津 (こめのつ) 廣瀬川の河口に位し、漁業

盛んに車海老の産が多い。▼名護ノ浦 西約一軒。

▼野間の關址 東北約一軒、寛政の奇人といはれた

勤王家高山彦九郎が薩摩に入らんとして拒まれ「薩摩

入いかにやいかに刈萱のせきも閉さぬ御代と知らずや」と詠じた

ところ。▼加紫久利神社 東半軒餘。

出水 (いづみ) 附近は煙草の産地で年産額百

四十九萬圓に上る。

野田郷 (のだがう) ▼五廟社 西北半軒餘。島

津忠久以下五代の廟所。▼鶴群渡來地 北二軒弱、

自動車二十錢、渡來期阿久根に同じ、天然記念物と

して指定せらる。▼俊寛の墓 北半軒餘。

折口 (をりぐち) ▼白湯の濱 西北半軒餘、

海水浴場がある。▼愛宕公園 西北二軒餘、海中に

突出した斷崖上にあり、眺望佳、愛宕神社がある。

▼黒ノ瀬戸 西北六軒自動車二十五錢。長島との間

の海峡、潮流激甚壯觀を呈する。

阿久根 (あくね) 風光明媚の地、天草島への渡

港で近海鮮魚の陸揚港、鮮魚は鯛、鱈、鰻などで年

産額二十三萬圓。

▼鶴群渡來地 南一軒餘、毎年十月下旬に來り三月

頃去る。天然記念物に指定せられてゐる。

▼戸柱山 西南一軒餘、高松川の河口に聳える小岳

眺觀に富む。▼阿久根温泉 一軒餘。旅館 吉田屋

大島 西海上約二軒、船賃三十錢。

▼天草へ 阿久根から脇本、鹽見、指江、藏元を經

て牛深、崎津に至る汽船便あり、海上繪のやうな風

光美を見ながら行く。

西方 (にしかた) ▼西方の濱 西三〇〇米、

海水浴場。▼湯田温泉 東四軒、旅館 榮屋、梅屋

上川内 (かみせんない) ▼國幣中社新田神社

西一軒、瓊々杵尊を祀る。祠後尊の可愛山陵あり。

▼國分寺址と泰平寺址 一軒乃至二軒、國分寺址に

は創建當時の五重塔石といふのがある。泰平寺は秀

吉が島津義久と和義を構じた處、降參石といふのが残つてゐる。

川内町 (せんだいまち) 宮之城線分岐點。川内川に臨んだ河港である。旅館 高瀬屋、常磐屋。

宮之城線

川内町から東に岐れて宮之城まで開通してゐる。將來は山野線薩摩大口に連絡する豫定である。

通 脇 (ひわき) ▼市比野温泉 約三軒自動車二十錢。

入 來 (いりき) ▼添田温泉 半軒餘。旅館 朝日屋。

串木野 (くしきの) 西薩海岸に於ける第一の漁港、天草島、甌島への定期航路の便があり、附近に

三井鑛業經營の金山がある、年産額五十五萬圓。

西市來 (にしいちき) ▼吹上の濱 西一軒七。湯之元 (ゆのもと) ▼湯之元温泉 南約三〇〇米。旅館 朝日屋。

伊集院 (いじふるん) 三七九軒五 南薩鐵道接續點。▼徳重神社 北約半軒、島津義弘を祀る、陰曆九月十五日の祭禮は妙園寺詣といひ、夜中薩南の健兒が甲冑に身を固めて參詣する。

南薩鐵道 伊集院から伊作、加世田を経て薩摩大崎町まで三一軒五。途中阿多驛から薩摩川邊まで九軒三の間、薩南中央鐵道がある。

日置から伊作に至る間、汽車は海邊近く走り、吹上の濱の風光美が車窓に迫る。伊作 (いざく) 附近に伊作島津家の城址がある。▼伊作温泉 約三軒自動車を通つてゐる。旅館 みどりや、福住。

加世田 (かせだ) ▼竹田神社 驛附近、その祭禮には勇壯な加世田踊が行はれる。▼枕崎の漁港 南二〇軒、鯉節の産地として知られてゐる。自動車がある。

▼坊ノ津 枕崎から八軒、往古三津の一に數へられ風光の勝地である。

西鹿兒島 (にしかがしま) 鹿兒島市内南部にあり、南薩、西薩地方から市内に入る門戸となつてゐる。市内の名所は大久保利通誕生地、鴨池遊園地、天保山、月照の墓、俊寛の碑、西本願寺別院、照國神社、城山公園、岩崎洞窟、南州終焉地、南州洞社などである。(鹿兒島驛参照)

鹿兒島 (かがしま) 四〇〇軒 本線の終點。市は鹿兒島灣に望み、西北に城山を負ひ、前に櫻島を控へて風光繪を見るやうである。もと島津氏七十七



萬石の城下で、人口十五萬一千(三、一二調)、薩摩焼、薩摩餅、煙草、薩摩芋、錫器、竹器、櫻島大根などを産する。大根は櫻島の特産で直徑約五〇厘に及ぶものがあり甘味に富み、その粕漬は薩摩漬と稱して好評を博し、年産額二十萬圓に達する。貿易港の一で貿易額昭和三年度、輸入一千四十九萬五千七百圓、輸出七萬四千圓である。

市内見物は西北一軒、淨光明寺内の西郷隆盛以下の墓地に參詣し、そこから岩崎谷に西郷隆盛終焉の地を弔つた後、城山に登る。城山からは全市を脚下に見晴して櫻島に對した風光もよく、市の大觀を見るによい。城山を下れば別格官幣社照國神社がある。島津齊

鹿兒島線

彬を祀り、齊彬以下の銅像三基が境内にある。

島津別邸（普通磯邸といふ）驛から海岸傳ひに約四軒、前に錦江灣を隔て、櫻島を控へ、眺望がよい、邸内亦林泉の美に富む、刺を通じて請へば觀覽が出来る。

櫻島は鹿兒島から舟航一時間、驛の近くから渡船がある、大正三年の大噴火以來稍々山容の美を損したが、この島あつて鹿兒島市の風光が一層増される程秀麗である。

旅館 明治屋、山城屋、薩摩屋。
名物 輕羹、櫻島大根。

指宿温泉へ 南四八軒自動車二時間、乗合一圓五十銭約二時間半で行ける。鹿兒島灣に臨み大隅の翠巒を望む大温泉郷、柴立、二月田、彌次ヶ湯、村の湯、摺ヶ濱その他に分れ、胃腸病、リウマチスな

どによい。附近には薩摩富士の開聞嶽、その御池の池田湖は周回一八軒。その北麓にある薩摩國一ノ宮國幣小社枚聞神社、山川港、知林島など曳杖の場所が多い。

旅館（柴立） 園田、泉屋。（二月田）鳥泉館。（濱田）濱田。（高田）高砂。（馬場）馬場。（摺ヶ濱）借樂園。

鹿兒島縣廳は鹿兒島市にあつて、大隅、薩摩の二國を管轄してゐる。二國共に大半島にして鹿兒島灣を抱き中に櫻島火山があり、鹿兒島は夫に對して港市をなし、薩摩耕、薩摩焼、陶器を産してゐる。縣下の農産は甘藷、煙草、蕎麥などを第一とし、牧畜の業亦盛んに、林産には木材、樟腦あり、近海は水産の利多く鰹、鰯、

烏賊、鱈などを産し、鯉節は特に聞えてゐる。鐵産には牛尾、山ヶ野からは金、谷山からは錫を産してゐる。薩南諸島の中、種子ヶ島は甘蔗の栽培盛んに、大島には黒砂糖、大島紬の産がある。

はいんや（薩摩）

はいんやへ——、はいんや、
はいんやへ——で半年や暮れたア、ヨイ〜
後の半年やサーマ泣き暮らす——ヤ。

嘶「お前さんの頃ぢや、爲ぬちゆはウツぢや
髪に火の付く覚えぬ頃ぢや。

はいんやへ——、はいんや、
俺とお前さんは眷戸やの茄子、ヨイ〜
成ることならぬはサーマ知らぬ——や。

嘶「……………」

はいんやへ——、はいんや、

鹿兒島線

わたくし鹿兒島の魚屋、馬場育ちやヨイ〜
米の實る木はサーマ未だ知らぬ——や。

嘶「……………」

ちごの前髪おろさはおろせ、わしもごめませう振袖を。

開夜なれども忍ばず忍べ、伽羅のかをりをしるべにて。

わしの稚兒さんほこなさはこなせ、腰の朱鞘は伊達ぢやない。

雜話

聞いておそろし顔見て怖し、添うてやさしい薩摩さん。

さくら島見てなびかぬ人は、枝垂柳でもてかへる。

琉球 薩南諸島の西南に連り、北部に沖繩諸島あり、南部に先島諸島がある。全部沖繩縣に屬し、縣廳は沖繩島の那覇市にある。那覇市は人口六萬八千（四、三調）貿易港で昭和二年度輸出十一萬七千圓、輸入五百十五萬圓。市から首里市へ沖繩電氣軌道が通じてゐる。首里市人口二萬（三、四調）尙島内沖繩縣管

鐵道がある。縣内甘藷、甘蔗の産多く、甘蔗から製する砂糖は縣の主産物となつてゐる。その他泡盛、芭蕉布、琉球餅、阿且帽なども世に聞えてゐる。

琉球節

琉球へおじやるなら、草鞋はいておじやれ

琉球は石原、小石原

したりやよめく、しんによたく

してがんく、セーッセ。

琉球と鹿兒島が、地つゞきならば

かよつて酒盛して見たい

したりやよめく、しんによたく

してがんく、セーッセ。

肥薩線

鐵路球磨川の峽谷に沿つて走り、絶勝目を新にするものあり、人吉から三度球磨川を渡つて矢嶽に至

る間は、球磨川畔と共に九州に於ける難工事で急傾斜の山嶽を登るに際し、軌道を螺旋狀に敷設しその中間に水平面を設けて大畑驛を設けてある。矢嶽隧道を出れば霧島の峯巒波濤の如く連り、眞幸平の平野遠く見えて景致雄大である。汽車はこれから急勾配の線路を下つて眞幸を経、益々南して錦江灣頭の西國分に至り、灣に沿つて西南鹿兒島を指す、その間櫻島は徐ろに山容を變へて絶えず車窓の眺に入り、風景正に繪を見るやうである。

白石（しろいし） この驛から次驛一勝地までの間は球磨川沿岸中最も風光の勝れた處で、山溪特に色を生じ、急瀬奔湍矢の如く、舅落、清正公岩、鎗倒岩の勝は皆この間にある。▼鍾乳洞 二二〇

米、驛の對岸にあり、神瀬の岩戸といふ。高さ一五米、幅三七米、奥行七三米、鍾乳石の垂下せる様美

観である。▼吉尾温泉 北二軒。

人吉（ひとよし） 五一軒八 湯前線分岐點。

人吉は球磨川上流の繁華地、淨瑠璃伊賀越の文句で名高い九州相良である。もと相良氏二萬二千石の城下、城址は東南二軒、球磨川の天嶮に據り、日本三名城の一に數へられてゐる。城内の人吉神社には相良長頼以下累代の靈を祀る。

旅館 鍋屋、球磨川、朝陽館。

名物 球磨焼酎、球磨の雪、柿。

▼九州相良温泉 西二軒、球磨川崖相良氏の下屋敷にある。旅館 掬水館。

▼林温泉 三軒餘自動車二十錢、球磨川崖にある。旅館 翠嵐樓。

名物 鮎。

球磨川下り 人吉から白石まで二八軒を三時間で

下る。舟は貸切一艘十圓で十二人乗を普通とするが携帶品でもある時は八人以内が適當である。服装は湯上り浴衣位がよい。一勝地附近左右の峽壁嶄然として球磨川を壓する所には舅落岩と清正公岩とが相對し、岩下の奔流は一轉して直に槍倒岩に向ふ。この岩の下を通過する時は相良侯も行列の鎗を倒さねばならなかつたのでその名がある。

湯前線

人吉から岐れて東に向ひ、球磨川上流の平野を走り、多良木を経て湯前まで行つてゐる。

湯前（ゆのま） ▼生善院 南八〇〇米、俗に猫寺といふ。こゝから四軒の山峠を越えて日向に入り、一ノ瀬川の溪谷を傳うて妻線の杉安に出られるが、その間約六〇軒可成困難な道である。

吉松 (よしまつ) 日豊本線接續點。▼蟠龍梅
 四軒、樹齡千年を越えるといふ。
 栗野 (くりの) 山野線分岐點。この線は山野
 まで行つてゐる支線。▼栗野岳温泉 六軒。旅館
 南州。

牧園 (まきぞの)

霧島温泉郷から高千穂峯へ 温泉郷まで東北一八
 軒、自動車上り一圓、下り八十錢、霧島温泉郷とは
 榮之尾 (旅館榮之尾館)、硫黄谷 (旅館島館)、明攀
 (旅館高千穂館) の三温泉をいふ。何れも霧島山の
 中腹海拔七〇〇米以上の所に位し、眺望雄大にして
 爽快な嵐氣に包まれてゐる。

高千穂峯 (海拔一、五七三米) 普通霧島登山とは
 この峯に登るをいふ、温泉場から山頂まで一二軒、
 上り四時間、下り二時間半を要する。山頂には天孫

降臨の遺跡といふ「天の逆鋒」がある。

官幣大社霧島神宮は温泉から約八軒、高千穂峯の
 麓にある。祭神天津日高彦火瓊杵尊。高千穂案内
 料、山頂まで往復三圓、山頂を経て日豊本線高原驛
 まで五圓。

嘉例川 (かれいがは) ▼鹽浸温泉 三軒餘。旅

館 鶴屋。▼山之湯温泉 約四軒。旅館 菊屋。

西國分 (にしこくぶ) 一二四軒二 國都西線分

岐點。▼官幣大社鹿兒島神宮 西北約一軒、いはゆ

る國分八幡宮で天津日高彦火瓊杵尊を祀る。▼隼

人塚 西數百米。▼日當山温泉 東二軒餘、自動車

三十錢。鹿兒島人士の遊樂地である。旅館 大正館

加藤。▼安樂温泉 北一二軒、自動車六十錢。牧園

からは東南約一〇軒。旅館 安樂館。數百米離れて

安樂新湯温泉がある。▼官幣大社霧島神宮 北二四

軒、自動車一圓二十錢。天津日高彦火瓊杵尊を祀
 る、高千穂峯へはこの驛からも登る。

國都西線

國分 (こくぶ)

附近は煙草の産地として古い

歴史 (約三二〇年間) をもち、その香氣が芳醇で

風味のよいので知られてゐる、年産額百五萬圓。

東南約一軒には國分寺跡があり、南約一軒半に柏

子橋がある。橋は一名庚申橋といひ熊襲が親族を

集めて酒宴を張り舞踊中日本武尊に逐はれてこの

橋の附近で誅せられたといふ。

鹿兒島 (かごしま) 一五二軒 (鹿兒島本線鹿

兒島驛参照)

薩州鹿兒島城下より七里西の方ノシコロ(苗代川)ミ
 いふ所は、一郷皆高麗人なり。往昔太閤秀吉、朝鮮國
 御征伐の時、この國の先君、彼の國の一郷の男女老若
 捕虜となして歸り給ひ、薩州にて彼の朝鮮の者共に一
 郷の土地を賜ひ、永く此の國に住せしめ給ふ。今に至
 り其の子孫打續き、朝鮮の風俗の儘にして衣服言語も
 皆朝鮮人にて、日を追ひて繁茂し數百家となれり。中
 略一翌日案内の者來りて高麗焼の細工場、並びに竈を
 見物す。仰山なる事どもなり。此の村半分は、皆焼物
 師なり。朝鮮より傳へ來りし法を以て焼く故に、白燒
 なごは、實に高麗渡りの如くにて、殊に見事なり。日
 本にて焼きたる者とは見えず。夫れ故に上品の焼物は
 太守よりの御用物ばかりにて、賣買をは嚴しく禁ぜら
 る。以下略

橘南谿西遊記續篇

鹿兒島線

御田踊 (薩摩)

苗は小苗で一本苗よ、よねが八石八百石、九石になしてくまにまゐらせ。

物の見事は吉田の城よ、

後は山で、前は大川、花の流れ。

むかへ此地が地續きならば、

なるこさけて花の鳥を追ふ。

山口踊 (薩摩)

土佐から船が三艘ほど参る、先なは鏡よ、中なは金よ、後なは土佐のわさ米よ、わさ米ならば箕でひいて手ではかれ、斗かきは置いて手で計れ。

鶯が／＼花踏み散らす細足でお薙刀でさくご切らはや。やら／＼見事、やら見事。

筑豊線

一 筑豊本線	若松、原田間	六六軒一
一 香月線	中間、香月間	三軒五
一 伊田線	直方、伊田間	一六軒二
一 桐野線	勝野、桐野間	五軒三
一 幸袋線	小竹、二瀬間	七軒六
一 漆生線	芳雄、漆生間	八軒六
	上三緒、筑前山野間	二軒二
一 上山田線	飯塚、上山田間	一四軒四

その本線は若松を起點として折尾で鹿兒島本線と交叉して南し、北九州産炭地の中心直方、飯塚を連ね、稍西南に折れて鹿兒島本線と原田で接続してゐる、その間六の短支線を分岐し、その中、伊田線は伊田で

筑豊線

日豊線田川支線に合してゐる、列車は若松から原田まで二時間乃至二時間半を要し、若松から原田を経て、鹿兒島本線鳥栖に至る直通列車もある。この線の沿道一帯はいはゆる筑豊炭田で鹿兒島本線大牟田萬田地方と共に本邦石炭の最主要産地として知られ、昭和元年の全國産炭量約三、四〇六萬噸の内、九州炭はその約七割を占め、内筑豊炭は約一、四七八萬噸に達してゐる。

筑豊本線

若松 (わかまつ) 帆檣林立する洞海の灣口の西岸にあり、對岸の戸畑と共に筑豊炭輸出の最大門戸である。是等二港から搬出される石炭額は全國鐵道取扱總額の四分の一に及ぶ。五十年前の一漁村若松は今や新興都市として活潑な市況を呈するに至つ



た。驛の構内は直ちに海に接して廣さ約六、七〇〇アール(二十萬一千坪)、線路の敷設延長三二軒餘、刻々運び来る炭車は萬千を以て數へられる。

人口六萬二千(三、一二調)昭和三年度貿易額輸入四千三十三萬圓、輸出千五百十七萬圓。

製油、鐵柱類、各種機械類などの工場がある。

對岸戸畑との交通は渡船便による、渡船場は驛から東一軒、約五分。

▼蛭子神社 北六〇〇米。▼金比羅山 西二〇〇米眺望がよい。

旅館 久家、つた屋、櫻屋。

二 島 (ふたしま) 附近に板硝子工場があり、年産額五百五十萬圓。

筑前内野 (ちくぜんうちの) 炭田地方から佐賀

方面に出る街道中こゝから山家へ越すのを冷水越と

稱せられ古くからの要衝にあたつてゐた。

原 田 (はるだ) 鹿兒島本線參照。

田 植 唄 (筑 前)

腰の痛さよせまの長さ、四月五月の日の長さ。

何時も五月のさつきならよかる、思ふ殿御の手苗さる。

待つがよいかよ、別れがよいか、否の別れよ、待つがよい。

折 尾 (をりを) 鹿兒島本線との交叉點。

中 間 (なかま) 香月線分岐點。その終點香月

驛は九州礦業線接續點、香月 野面間三軒九。

直 方 (なほがた) 伊田線分岐點。鞍手軌道(直

方、福丸間一三軒八)接續點。筑豊炭田の一中

あり、石炭輸送の主要驛である。

勝 野 (かつの) 桐野線分岐點。

小 竹 (こたけ) 幸袋線分岐點。

芳 雄 (よしを) 漆生線分岐點。

飯 塚 (いひづか) 上山田線分岐點。筑豊炭田

並この地方商工業の一中

飯塚から鹿兒島線篠栗支線の終點篠栗に出る八木

山越の街道は、福岡市と炭田地方を連ねる捷路で自

動車があり、その途中、驛から一七軒の八木山は櫻

樹多く新吉野と稱せられてゐる。

盆 踊 歌 (筑 前)

盆來れやうれし、正月來れやうれし、うれしの花は

ごに咲く、ごにさく、山にも咲かぬ、川にも咲

かぬ、石山寺の門に咲く。

紺屋の裏にきりぎりすがないた、紺屋の嫁になろこ

いうてないた、紺屋の嫁になそなたなそが、墨すれ、

ごすれ、ごの豆はかれ、あひたにや形もつけ習へ、

つけ習へ。

長崎線

一 長崎本線 鳥栖、長崎間 一五八八
 一 唐津線 久保田、西唐津間 四二五
 山本、岸岳間 四一
 一 有明線 肥前山口、肥前龍王間 九八
 一 伊萬里線 有田、伊萬里間 一三〇
 一 佐世保線 早岐、佐世保間 八九

その本線は國有鐵道幹線の一部をなし、鹿兒島本線鳥栖から西に分れて筑後川下流の沃野を西南に走り佐賀を経て久保田から西北に唐津線を、肥前山口から南に有明線を、有田から北に伊萬里線を、早岐から西に佐世保線を分ち、本線は南折して風光勝れた大村灣の岸に出る。川棚、大草兩驛の間汽車は屈

曲の多い海岸に沿うて走り、灣又灣、山又山でその車窓の眺めは他に類が尠ない。
 長與から灣を離れて南し、やがて長崎に達する。列車は本線内の外、門司長崎間を直通するもの五回あり、内一回は急行で門司長崎間六時間を要する。

長崎本線

鳥栖 (とす) 鹿兒島本線参照。
 中原 (なかばる) ▼目達原 西南四軒、櫻樹多く、毎年四月中は目達原假乗降場を設けて觀櫻客の便を圖る。



佐賀 (さが) 一三三軒三
 佐賀電軌接續點。佐賀、都渡城間七軒六。
 もと鍋島氏三十五萬石の城下

で人口四萬七千(四、三調) 縣下農産物の集散地である。

▼佐賀城址 南約二軒、馬車軌道及自動車がある。龜甲城とも稱し、龍造寺家兼の創築にかゝり、後慶長十三年(三二二年前) 鍋島直茂大いに増築を加へて偉觀を呈したが、明治七年江藤新平の亂の時僅に本丸の一部と城門とを残して悉く焼失した。
 ▼松原神社 南約一軒半、藩主鍋島氏歴代の靈を祀つてある。その境内は公園となり林泉の美に富み園内には幕末の名君鍋島閑叟の銅像がある。
 ▼神野御茶屋 西二軒、弘化三年(八四年前) 鍋島閑叟の經營した山莊で多布施川の清流を引いて泉池とし趣致に富んでゐる。
 旅館 松本屋、榮徳屋、曙屋。
 名物 丸房露は約三百年前和蘭人から製造法を傳へ

られたといひ獨特の風味によつて一般の評判がよい干柿は茶菓用として賞味せられ東京、京阪方面へも送られてゐる、年産額十七萬圓。

▼熊之川温泉 (湯の川温泉ともいふ) 佐賀電軌都渡城から川上川に沿うて溯ること四軒餘、佐賀からは西北八軒自動車がある。
 旅館 新屋、角屋。
 ▼古湯温泉 熊の川温泉から更に六軒餘の川上川上流にあり、佐賀からは西北二〇軒自動車あり、唐津線小城驛からは北一二軒。
 旅館 東京屋、旭屋。

佐賀縣廳は佐賀市にあつて肥前國の一部を管轄してゐる、北方は筑紫山脈連互して丘陵峻峯が起伏してゐるが南部は有明海に瀕して豊饒な筑紫平野の一部をなし農産に富んでゐる。

地中には唐津炭田の賣庫を有し玄海灘にのぞむ、唐津及有明海沿岸の住ノ江は石炭輸出港である、尙西部有田は陶磁器で名高く有明海には牡蠣の産がある。

久保田 (くぼた) 唐津線分岐點。

唐津線

久保田から岐れて西唐津に至り、途中山本から岸嶽へ支線を分岐してゐる。この線は唐津炭田の動脈ともいふべく、各驛の構内には炭車が目立つて多い。

小城 (をぎ) もと鍋島氏七萬石の支封地で

驛の北二〇〇米の城址は今櫻ヶ岡公園と稱し櫻の名所で園内に後西天皇の御製を奉録した石の歌碑

唐津築港を營んでゐる、開港場で唐津炭の主要輸出港である。

昭和三年度の貿易額は輸入七十二萬三千圓、輸出二百六十七萬圓、古雅な唐津焼、半紙を産し魚類も多い。

地は風光明媚な海水浴場として知られ又附近には虹ノ松原、領巾振山、七ツ釜、芥屋大門、名護屋城址などの名勝史蹟がある。

旅館 岩井屋、博多屋、本家岩井屋。名物 松浦漬(鯨の撫骨の粕漬) 雲丹、唐澤焼、松露饅頭。

▼舞鶴公園 東一軒、松浦川口の西岸舊城址がそれである、直ちに海に臨んで眺望絶佳、こゝを中心として左右に大弧形を描いて續く松原は舞鶴の兩翼をなし、舞鶴の名稱は茲に由來するので

がある。

名産 小城羊羹。

筋原 (あざみばる) ▼多久聖廟 南五軒、

多久村椎原山なる小丘の麓にあり、學藝に關する史蹟に指定されてゐる。

唐津 (からつ) 西唐津 (にしからつ)

唐津はもと小笠原氏六萬石の城下で松浦川口に跨つて唐津灣に臨み人口一萬八千、町の中央を東西に濱崎から佐志まで唐津軌道が通じ、松浦川口の東岸満島にある東唐津驛を起點として北九州鐵道は一方虹ノ松原を縫うて東進し、鹿兒島本線博多驛に接續し一方唐津線に平行し南へ走つて山本驛で唐津線に接續してゐる。

古來北九州の要津として榮えたが松浦川の運ぶ土砂の堆積に禍され町の西北四軒、大島の蔭に西

ある。

▼虹ノ松原 東五軒、北九州鐵道の虹ノ松原驛はその松林の中であり、指定の名勝地、且つ名高い海水浴場である。満島から濱崎まで八軒の間、數百年を経た老松が海岸に沿うて幾萬株となく續いてゐる。この白沙青松の磯邊に夕陽が燃えて海波に紅を彩れば、紅青白の色を重ねて宛ら大虹の懸つた觀がある。

▼近松寺 北一軒、淨瑠璃作家として謳はれた巢林子近松門左衛門が幼時得度した處と傳へ境内にその墓がある。

▼領巾振山(鏡山) 虹ノ松原の後にあり、海拔約二〇〇米、松浦佐用姫の傳説で知られてゐる。

▼芥屋の大門 夏季は遊覽船がある。(鹿兒島本線博多驛參照)

▼七ツ釜 西唐津の北海上九軒四、夏期遊覽船がある。全岬柱を列べたやうな玄武岩から成り、その先端が分れて稍三叉状を呈し、その東の又の基脚に七箇の横洞並列して竈を列べたやうである。風波静穏の日は自由に洞門内に舟を漕ぎ入れることが出来る。こゝから呼子港までの間約四軒の海岸は玄武岩の斷崖絶壁が連続してゐる。

▼呼子港 唐津から陸路一三軒、自動車がある。支海の要津である。旅館 上方屋。

▼國幣中社田島神社 呼子の前面に浮ぶ加部島にあり、呼子から渡船による、官幣大社宗像神社と御同神である。境内の佐用姫神社には「効忠貞之節」の扁額を掲げ社殿内には望夫石がある。

▼名護屋城址 西唐津驛の北二〇軒、呼子から渡船便がある。豊臣秀吉が朝鮮役の際、陣營を置いたところ

たところで諸侯の行陣の跡が二〇軒の間に散點して規模の雄大だつたことを偲ばせる、本丸址は丘陵の上に位し礎石、石壁残存し遠く蒼波を隔てて壹岐、對馬を望み風光の美に加へて英雄の壯圖を追想せしめる。

城址の麓の古びた一寺は廣澤寺と稱し秀吉の愛妾廣澤の局の建立で境内に大蘇鐵がある。

牛津 (うしづ) ▼住ノ江港 南八軒自動車の便がある、六角川の有明海にそぐ處にあり、石炭を移出する。

肥前山口 (ひぜんやまぐち) 有明線分岐點。この線は今肥前龍王まで開通してゐるが將來は有明海に沿うて南下し、諫早で長崎本線と接続する豫定である。

武雄 (たげを) 祐徳軌道接続點。武雄、祐徳

門前間二二軒八。途中五町田驛附近鹽田から嬉野まで九軒七の肥前電氣鐵道がある。

▼武雄温泉 西半軒、胃腸病、痔、婦人病によい。附近の廣福寺には國寶の四天王像がある。

旅館 東京屋、角樹、東洋館、三國屋。

▼鹿島旭ヶ岡公園 東一六軒、祐徳軌道及自動車の便あり、鹿島は鍋島氏二萬石の支封地で旭ヶ岡はその舊城址である。園内に松陰神社あり一名松陰公園といふ。櫻の名所で花時は數百米の間一曲一折の花トンネルをなす。

▼祐徳稻荷神社 東南二二軒、祐徳軌道及自動車がある。京都伏見及茨城笠間の稻荷と共に日本三大稻荷の一に數へられる流行神で遠近からの賽者が絶えない。

▼嬉野温泉 西一四軒、軌道によるときは鹽田から

肥前電鐵に乗換へる、別に彼杵驛から一五軒自動車がある。口碑に神功皇后三韓役の歸途發見されたと傳へて居り、南谿の西遊記にもこゝの情調が書かれてゐる、周りは山にかこまれた盆地で中に嬉野川が流れ風光がよい、湯はリウマチス、神経痛、皮膚病などに效く。嬉野温泉株式會社の經營で諸施設が完備してゐる。

旅館 大村屋、和多屋、笹屋、龜屋。
この附近に産する嬉野茶は古くから好評がある。
上有田 (かみありた) 有田焼の産地として名高く、附近に香蘭社、深川製磁會社、有田製陶所などがあり、年産額三百萬圓に達し内地はもとより鮮満支那、南洋方面に送出してゐる。

こゝの陶器は文祿年間(約三四〇年前)領主鍋島直茂が朝鮮から陶工を連れて歸り領内各地で製造せ

しめたのはじまり、陶祖の季參平が有田泉山の白磁礦を發見してから長足の進歩發展をして今日に及んだもので往時伊萬里港から移出したため一名伊萬里焼とも稱せられる。

有田 (ありた) 伊萬里線分岐點。

有田燒の産地。

旅館 川内屋。

伊萬里線

伊萬里 (いまり) 伊萬里線の終點に當り、伊

萬里灣頭の要津で古來有田燒の移出地として知られてゐる。七ツ島の奇勝は伊萬里から海上五軒七旅館 岩田屋。

早岐 (はいき) 佐世保線分岐點。早岐の瀬戸に望み五島、平戸に行く汽船便がある。

前)に外船來航して交易した我國最初の泰西文化の輸入地で 當時の和蘭商館址、英國商館址、和蘭の架法によつた 幸橋があり、尙沖禎介記念館もある。

彼杵 (そのぎ) ▼嬉野温泉 一五軒、自動車がある。(武雄驛參照)

大村 (おほむら) もと大村氏二萬八千石の城下、城址は西南八〇〇米、眺望のよい處である。

旅館 山札、乾物屋、松島屋。

名物 眞珠、このわた。眞珠は天然、養殖共に産出し、年産額三十萬圓。

諫早 (いさはや) 島原鐵道接續點。戰國の頃龍造寺氏のゐた處で、肥前南部諸半島の中心に位置する重要地である。

旅館 中村、舞鶴、水月樓、富士屋。

佐世保線

佐世保 (させぼ) 佐世保鐵道接續點 (上佐世保、相浦間一〇軒及途中左右から柚木へ三軒九)。

佐世保は三方峰巒に圍まれ南方海に面して良港をなし島嶼西邊に横はつて形勢無比の地で海軍鎮守府がある、人口十三萬二千(三、一、二調)。



旅館 池月、油屋、鶴谷、山下。

▼九十九島 佐世保港から平戸港に至る一六軒の海上には、無數の島嶼散在して翠松を波に浮べ舟遊によい。

▼平戸港 平戸はもと松浦氏六萬石の城下。佐世保から海路五四軒八、天文慶長年間(約三三〇年

島原鐵道は諫早から分岐して島原半島の東岸を走り島原湊まで四二軒三。途中愛野村から千々石まで温泉鐵道九軒三。千々石から肥前小濱まで小濱鐵道八軒餘があり、島原湊から半島の南端口之津を経て更に西進し加津佐まで口之津鐵道三六軒二がある。

島原鐵道 西郷(さいがう) ▼岩戸觀音 ことから行く。多比良町(たひらまち) ▼正

▼島原港 島原はもと松平氏七萬石の城下で熊本縣の天草、三角、長洲に至る汽船がある。市街は、前は有明海に面し後には眉山及雲仙岳が悠然と聳え山紫水明の境で、附近の遊覽地に九十九島、島原亂に名高い島原城址、靈丘公園などがあり又毎年陰曆七月晦の深更には海上遠くに不知火の奇觀

を望み得るといふ。

旅館 南風樓、米屋。

口之津鐵道 安中村(あんなかむら) ▼徳法

寺 南三〇〇米。布津(ふつ) 熊野神社、

琴比羅神社、圓通寺(みんつうじ) 驛附近。堂崎(だうさき)

東七〇〇米の堂崎觀音堂附近の風光は和歌浦(わかうら)に

髣としてゐる。南有馬(みなみありま) 附近

には寛永十四年(約三〇〇年前)鳥原亂に天草四

郎等の據つた原城址(はらのじやうし)がある。口之津(くちのつ)

▼口之津港 半島の南端に位する開港場である。

加津佐(かつさ) 附近に岩戸の勝境あり、斷

崖絶壁海中に屹立し、一方僅かに陸地と接し、海

抜二二〇米、岩戸觀音堂がある。

雲仙遊覽 日本八景の一、春はつゝじ、秋は紅

葉、冬は霧氷の美を誇る、雲仙岳(うんせんだけ)は海山の眺めに

富む小濱温泉(こばま)、暑熱を知らぬ雲仙温泉(うんせん)をもつ。島
原半島の西面から中央部にかけての地域一帯は、
名勝に加ふるに懐古的興味濃やかな數々の史蹟が
あり、遊覽地に保健郷を兼ねた一大勝區として内
外人の來り遊ぶ者が多い。

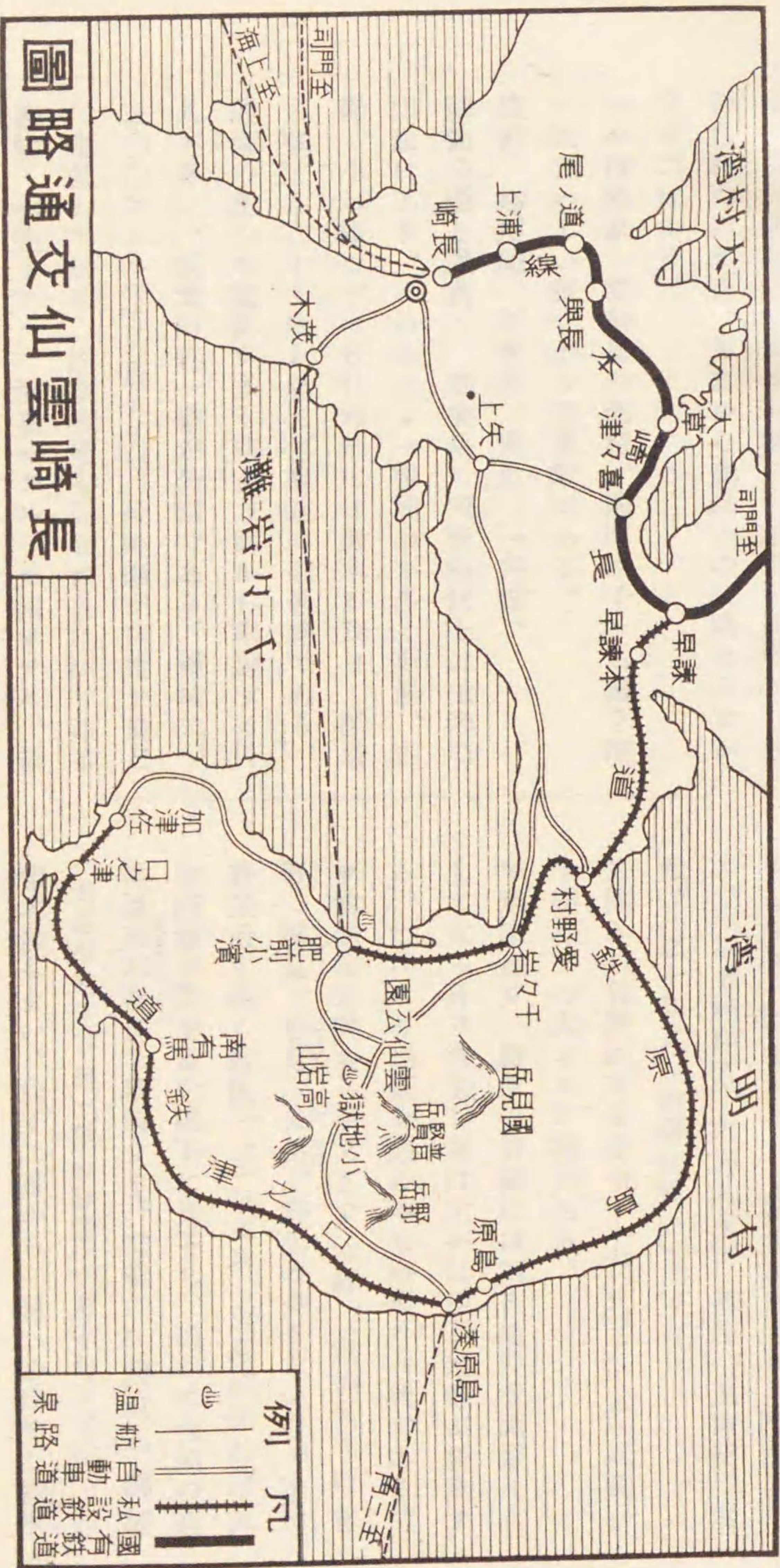
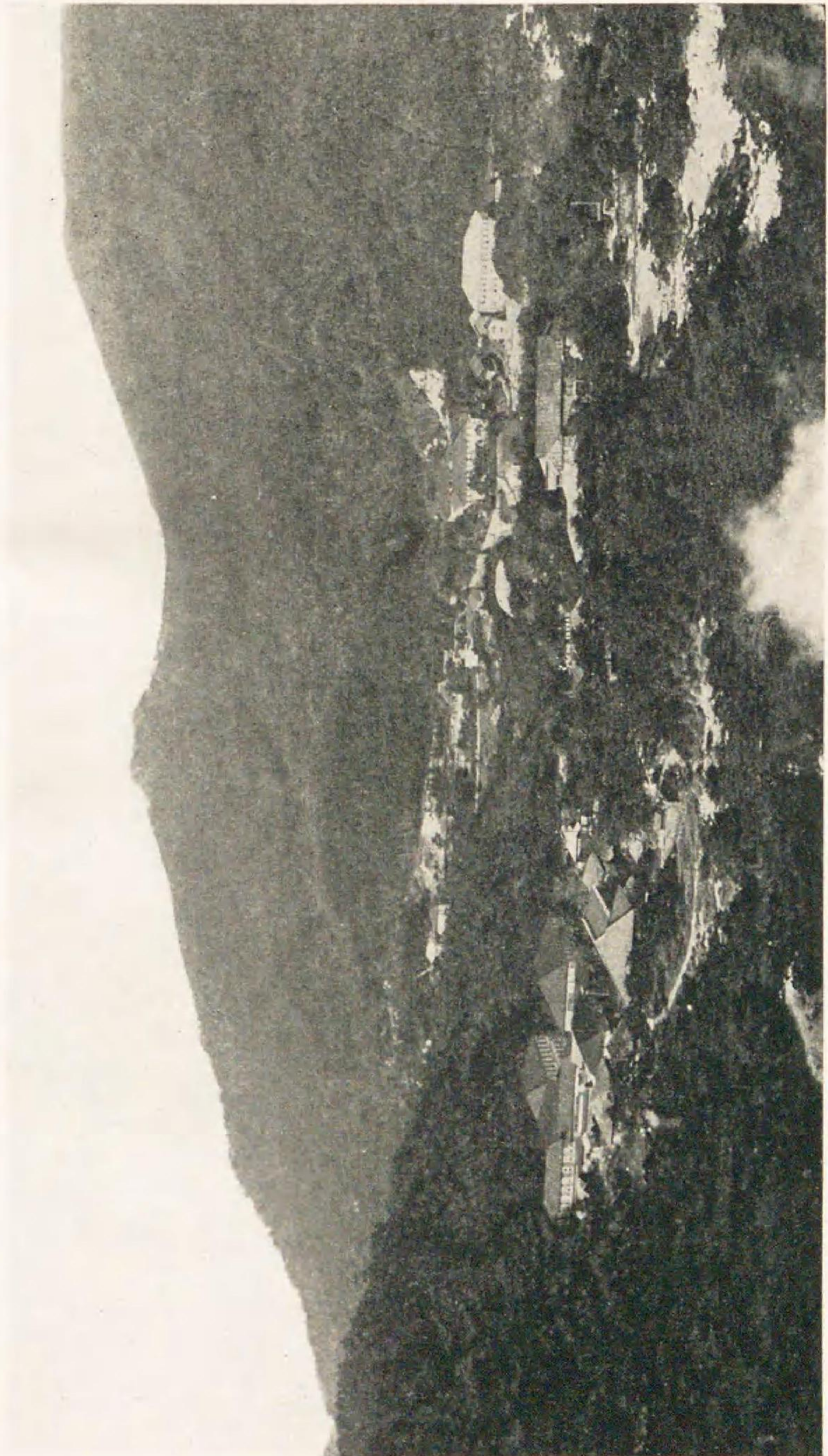
廻遊順路

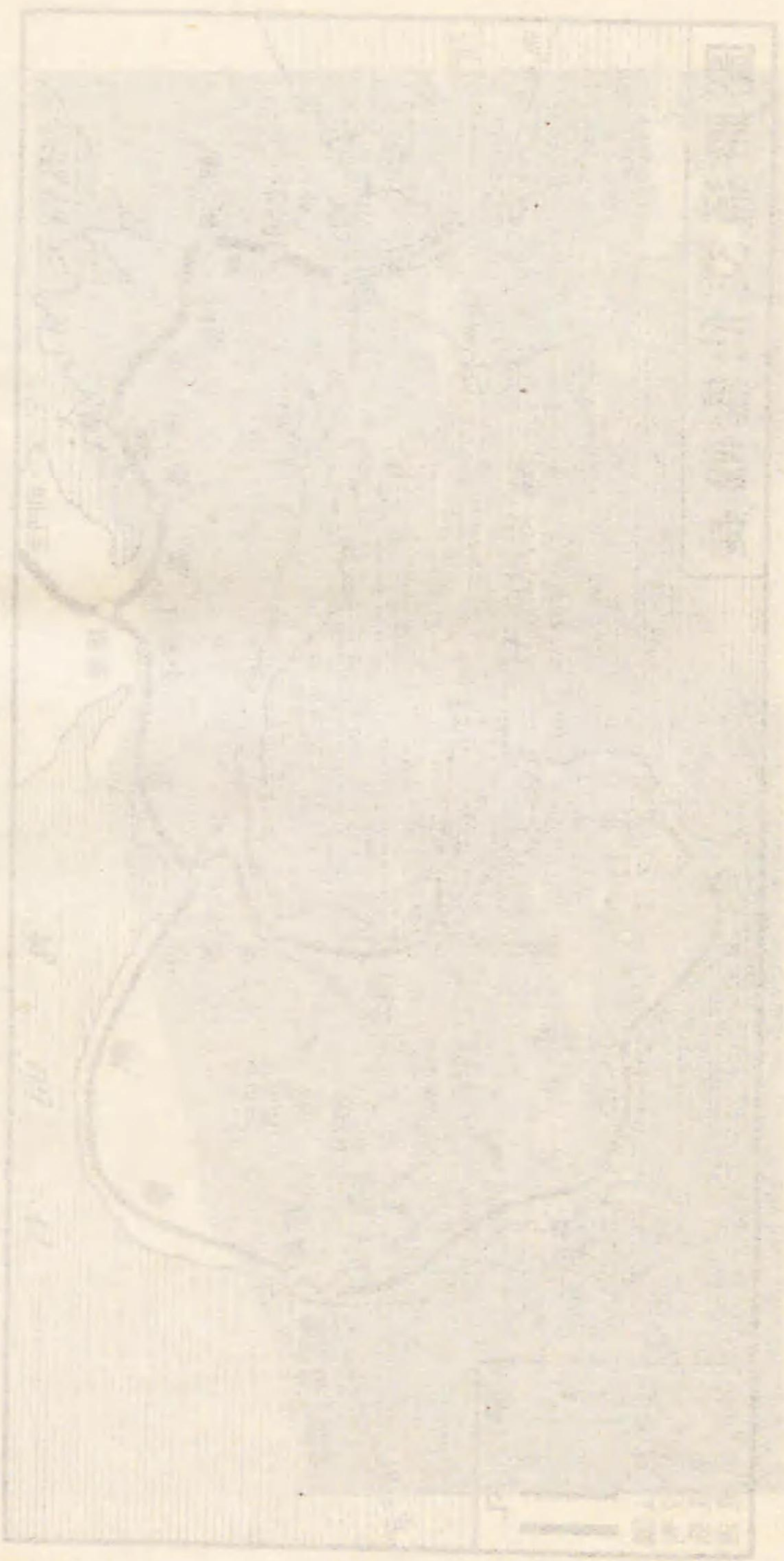
- 一 諫早から鳥原鐵道愛野村驛で乗換、温泉、小濱
兩鐵道により肥前小濱驛下車、小濱温泉を経て雲
仙公園温泉場まで一五料、自動車がある。別に愛
野村から小濱温泉へ直通する自動車もある。雲仙
温泉から雲仙岳の主峯普賢岳(ふけん)に登り鳥原に下る。
- 二 千々石驛(ちぢいし)から木場を経て雲仙公園まで一二
料、普賢岳に登つた後小濱温泉に下り、こゝから
海路茂木(もぎ)に上陸して長崎に至る、千々石驛から約
三〇〇米の處に橋中佐の銅像がある。



支那寺

雲 仙 岳





三 島原鐵道の終點島原港から雲仙公園まで二四
軒自動車がある。それから先は一の反路によるか
又は二による。

▼小濱温泉 雲仙岳の西麓、前面に千々石灘を控
へ風光のよい華やかな温泉郷である。

旅館 柳川屋、伊勢屋、角屋、一角樓。

雲仙公園と温泉 雲仙岳の西面海拔七二七米の

山腹にあり、このあたり一帯湧泉が多く新湯、古
湯、小地獄などに分れ周囲には樹木が茂り、酷暑
の候でも二十七度を超えず好適の避暑地である、
設備の整った旅館が多く南支方面から來遊する外
人が多い。新湯附近一帯が公園である。面積三、
三〇〇アール(十六萬五千坪)長崎縣が巨費を投じ
て經營して居り、娛樂設備も完全に具はつてゐる
旅館 有明ホテル、温泉ホテル、九州ホテル、新

湯ホテル、高來ホテル、富貴屋ホテル、緑屋ホテ
ル。(以上純洋式、内湯あり) 萬屋、上田屋、湯
元。(以上和式、内湯は無い)

公園から普賢に至る途中一、七〇〇アール(五萬一
千餘坪)の大ゴルフ場がある。

▼地獄廻り 旅館の背後には到る處に噴煙濛々と
して立ち昇り湯玉を飛ばすいはゆる地獄が散在す
る、これらの地獄を廻るのも浴後の一興である。

▼雲仙岳公園から頂上まで六軒、雲仙岳とは普
賢、國見、妙見、矢岳、野岳の諸峯をいひ、中に
普賢最も高く海拔一、三三三米、山巔に至れば天
空開闊島原半島を脚下に見下し、遙かに九州の諸
山及天草群島を觀望する。探勝には初夏の躑躅
(五月中旬—下旬)、秋の紅葉(十月中旬—下旬)の
頃が最もよい。尙十二月から一月へかけての霧氷

も亦棄て難い趣がある。霧氷は俗に花ボロといひ樹の枝、樹の根、岩角などに雪でもなく霜でもない半透明の氷の結晶が、劍の刃の如く細長く附着するもので、あたり一面お伽噺にある水晶宮を現出したやうな美觀を呈する。

大草 (おほくさ) 驛附近、海上の風光よく、西三籽三の伊木力は名高い蜜柑の産地である、年産額二十萬圓。

道ノ尾 (みちのを) ▼道ノ尾温泉 東七〇〇米

長崎人士の遊樂地。旅館 萬象園。

長崎 (ながさき) 二六七籽一

長崎は風光のよいのと氣候の溫暖なのを以て外人間に「世界の樂土」とまで激賞されてゐる。天正年間(約三二〇年前)西班牙、葡萄牙の商船が初めて來航し貿易を開いてから外國交通の唯一の門戸とし



て西方の文物、消息を輸入した古港で回想的興味の盡きない處である。港灣は瓊浦ともいひ三面に丘山を繞らし波穩かに風光更に愛すべきものがある。人口二十四萬五千(四、三調)縣廳、控訴院、税關、醫科大學、高等商業學校などがある。

昭和三年度貿易額輸入二千三百五十五萬圓、輸出一千七百六十萬圓、鼈甲、珊瑚、眞珠、金銀などの細工、漆器、洋傘、縫針、石炭、海産物などを産し、カラスミ、カステラ、枇杷も亦世に聞えてゐる。カラスミは鱈の胎子を乾燥したもので酒毒を消し、宿醉を豫防するので特に酒客の間に珍重されてゐる。

▼國幣中社諏訪神社 東一籽二、市の北方西山といふ小丘の上にある、社前まで電車がある、建御名方

ころ、今史蹟に指定されてゐる。

▼松平長七郎の墓 四籽、田上寺境内にある。旅館 上野屋、福島屋、平野屋、大寶館。

長崎縣廳は長崎にあつて肥前國の一部及壹岐對馬二國を管轄してゐる。縣の主部は殆んど半島から成り西彼杵、島原の兩半島はわづかに諫早の地峽によつて九州島の軀幹と連つてゐる。長崎は西彼杵半島の西南に彎入してゐる小灣に臨んで我國最古の開港場たり、三菱造船所がある、又灣外には高島炭坑がある、島原半島には口之津の開港場あり、佐世保は大村灣外の佐世保灣に臨んだ軍港である、縣下至る處水産の利があり、鰯、海鼠、眞鱈などを多く産し對馬及五島は鰯を以て聞え五島近海には鯨、珊瑚の産があり、水産額九州第一である。

大神、八坂刀賣大神を祀る。祠宇宏壯十月七日から三日間の祭禮は八月十五日の精靈流しと四月の風揚げと共に長崎の三名物となつてゐる。境内は今公園となり、グランド將軍の記念榕樹、山岡鐵舟の碑などがある。市の大觀を展望するによい。

▼崇福寺 俗に支那寺と稱し寛永六年(約三〇〇年前)支那歸化人の建立したもので彼等の菩提寺である。本堂、樓門及唐門は國寶である。市の東部には特色のある南京寺が多く、福濟寺、興福寺などがある。

▼シーボルト學舎址 文政年間(約一一〇年前)蘭醫の泰斗シーボルトの建てた學堂址は鳴瀧川の中流に沿ふ地域にあり、今その邸址は史蹟に指定せられてゐる。

▼大波止場 南一籽。▼大浦の天主堂 約二籽、日本最初の天主教の教會堂。

▼出島 徳川時代和蘭人の居留地として知られたと

長崎線

ぶらぶら節(長崎)

わりたちもみんな出て見ろ今夜こそ

彦山やまの月のよかはい。

長さきの山からいづる月はよか

こんけん月はあつみなかはい。

長崎名物、はた揚、盆まつり

秋はお諏訪のシヤギリで、氏子がぶうらぶら

ぶらりくくというたもんだいちう。

遊びにゆくなら花月か中の茶屋

梅ぞの裏門たいて、丸山ぶうらぶら

ぶらりくくというたもんだいちう。

大井手町の橋の上で、子供が紙鳶けんくわ

世話町が五十町あまりで、二三日ぶうらぶら

ぶらりくくというたもんだいちう。

川柳

神風に懲りて交易船ばかり

丸山で髯人蔘も花に出し

ほれたのを通餅一人が可笑がり

豊肥線

一 豊肥本線

熊本、大分間

一四八軒

一 高森線

立野、高森間

一七軒七

本線は熊本から東し、立野で高森線を右に岐ち、阿蘇山麓を経て豊後に入り、竹田を過ぎて大分に達する豊肥横断線である。

この線によつて阿蘇登山や久住登山の快を味ひ、大分から別府温泉に出るのは面白い旅行である。尙

高森線終點高森からは高千穂に行く自動車もある。

春竹 (はるたけ) 熊延鐵道接續點。同線は御

船を経て甲佐まで二〇軒四。

水前寺 (すみぜんじ) 水前寺公園 東南約一

軒、林泉の美、風致の妙がある。富士に模した芝山の麓を巡る清泉は砂子の數も讀まれるまでに清冽

豊肥線

である。園内の出水神社は細川氏祖先の祠廟で、細川幽齋が和歌の秘奥を傳授したといふ「古今傳授の間」がある。池水は南流して畫圖湖に入り、そこでは又別景觀を現してゐる。

名物 水前寺餅、水前寺海苔。

立野 (たての) 高森線分岐點。同線は高森ま

で一七軒七開通してゐる。高森から天孫降臨の地といふ高千穂は東南約三二軒自動車二圓六十錢。日豊本線延岡へは六〇軒自動車二圓。

阿蘇登山及温泉廻り 阿蘇は世界有數の活火山

で、いはゆる阿蘇の五岳の南北には火口原たる阿蘇谷、南郷谷があり、火口瀨たる黒川、白川の二流そ

の兩谷を流れ、立野に至つて西方の一壁を破つて合流する。

火口原には三町(内ノ牧、宮地、高森)十一箇村約

六萬の住民がある。更にその平原を取巻く外輪山あり、北は長倉峠、鞍岳山一帯の山嶽を以て、南は大矢山、冠嶽を以て、西は依山、二重峠を以て、東は豊後境上の連山を以て之を劃り、西北二八料、東西一六料に互り、形勢の雄大世界にその比を見ない。西麓に京都帝大の火山研究所がある。

登山順路としては坊中口、宮地口、立野口、長陽口、白川口の五つがある。

(一)坊中口 豊肥本線坊中驛下車、頂上まで九料、登り約二時間半、下り約一時間半、勾配が緩かで婦女子の登山にもよい。

(二)宮地口 同線宮地驛下車、頂上まで一〇料、大分方面からの人はこの路が便利。

(三)立野口 同線立野驛下車、頂上まで一二料、戸下、栃木、湯ノ谷の諸温泉及千里ヶ濱の草原を経て登る。

白川と黒川との合流點にある。

旅館 碧翠樓。

▼栃木温泉 戸下温泉から二料、自動車五十錢、高森線長陽驛から約二料自動車二十錢。白川の溪谷に沿ふ。近くに鮎返り瀧がある。

旅館 小山、荒牧。

▼垂玉温泉 栃木から約八料、登山路の中程にある。長陽驛からは自動車がある。眼界濶く展けたところ。

旅館 山口。

▼地獄温泉 垂玉から坂を越えたところ、「夜ノ峰」の中腹にあり、白川の流が遠く有明海に入る様まで望まれる。

旅館 山本。

▼湯ノ谷温泉 栃木温泉から一〇料、阿蘇の五岳、烏帽子岳の中腹七六〇米の高所にあり、肥後平野並

(四)長陽口 高森線長陽驛下車、頂上まで約一二料、地獄、垂玉の温泉を経て登る。

(五)白川口 高森線中松驛又は阿蘇白川驛下車、頂上まで八料、俱利伽羅岩を経て登る。延岡方面から高千穂町を経て登るにはこの路が便利。

登山者は前記の路を往返夫々に換へるも面白い。火口へは之に近い阿蘇山上神社の側から焦石と爛砂とを踏んで行く、火口からは黒煙奔騰し萬雷轟くが如き壯觀を見る。

俚 語

阿蘇山は、根子、高、榎尾烏帽子岳、これに杵島を、五岳とぞ呼ぶ。

雨、霰、降るバツテンが、ジンベンに阿蘇の畑の、キヤト消えんタイ。

山を繞る温泉

▼戸下温泉 立野驛から約一料半、自動車三十錢、

有明海を一時に收める。

旅館 長生館。

▼數鹿流ノ瀧 立野驛の東北、肥後第一の大瀑布、高さ六米、巾三米。

内 牧 (うちのまき) ▼内牧温泉 四料、自動車がある。

宮 地 (みやぢ) ▼官幣大社阿蘇神社 南約一

料、二千年來の古社で建磐龍命を祀り、社殿は平安朝時代の皇居の制に擬し、樓門、社殿、その他規模宏壯である。

旅館 蘇門館、櫻屋。

玉 來 (たまらい) ▼狐頭稻荷 西北約一料半 元和二年(三一四年前)の創建で保食神外三神を祀る社頭に信者が放供した鶏が群をなしてゐるのが珍らしい。

竹田 (たけだ) もと中川氏七萬石の城下、人口約六千、山水の風致に富む静境、城址は昔天下無比の要害と稱せられた名城であつたが、今は野草の中に斷礎を止むるのみである。

▼魚住の瀧 西南約一軒半、自動車十五錢、雌雄の二瀑あり、附近の魚住橋から眺めるがよい。▼岡城址 東南約一軒半、一名臥牛城ともいふ。▼廣瀬中佐の銅像 西南約一軒、山下公園にある。

久住山 久住町まで一四軒自動車一圓。山は、九州第一の高峰、海拔一、七九〇米、山腹には久住、飯田の二大高原があり、温泉、鑛泉の湧出する所多く、九州輕井澤の稱がある。登山路としては久住町から久住高原を経て登れば頂上まで八軒、大湯線湯平驛から登れば驛から湯ノ平温泉まで約三軒半、自動車三十五錢、温泉から雪深峠を越え飯田高原を経て頂

上まで二二軒、久住町からこの路は町を出て大分縣種畜場を過ぎ森林を潜り溪流に沿うて行く、山上には大火口湖が二つあり、一は空池(こゝには水が無い)一は御池といひ周回約一軒半、清冽の水をたへてゐる。

頂上から下ること約二軒餘に「法華院温泉」がある。昔は天台宗の靈場で三十六坊の大伽藍があつたが今は一つも残つてゐない。山裾には七里田、湯の原、寒地獄、湯坪などの温泉がある。

三重町 (みへまち) ▼蓮城寺 北約三軒、自動車五十錢、一名内山觀音ともいふ。本尊千手觀音は欽明天皇十一年(一、三八〇年前)百濟の僧蓮城の作と傳へられてゐる。

菅尾 (すがを) ▼菅尾の石佛 西南二軒、敏達天皇時代日羅上人の築いた六體の石佛坐像で高さ

二米四、國寶に指定されてゐる。

犬飼 (いぬかひ) ▼風蓮鍾乳洞 東南一六軒 自動車六十錢、洞は新舊二つに分れ舊洞は延長約四四〇米、新洞は約七三米、洞口は堅穴で垂直に梯子を下ること約九米で洞底に達する。洞内の美觀は舊洞よりも勝れてゐる。▼湯ノ原温泉 二四軒、自動車がある。

竹中 (たけなか) ▼吉野の臥龍梅 東南四軒 次の中判田驛からは南一〇軒、自動車がある。天満社境内にあり、樹齡七百餘年といひ花時には曳杖者が多い。

瀧尾 (たきを) ▼國幣中社西寒多神社 南四軒、西寒多神を祀る、境内には櫻が多い。

大分 (おほいた) 一四八軒 豊肥本線分岐點

田能村竹田は近世たける名畫家で豊後岡の人、初め畫法を谷文晁に學び、後明清人の遺蹟を研究し、遂に一家の畫風をなした。詩文、書畫、茶の湯、香道に至るまで能くせざるなく、常に「畫は筆を用ふるの工ならざるを患へず精神の到らざるを患ふ、筆を用ゆるの工なるものは特に古人を摸するに宜し、精神到るものは自家一脚を立つ―山中人鏡舌―といひ、當時畫風の陋俗に流れるを慨し、努めて古人の規矩に従ふべきを持論とした。

豊肥線

豊後踊

今まで待ちだが、雨故か、時雨故か、入ろや〜、ざいざいとろや、いのいぐち後なる若衆と、急いでござれ、白菅笠に、露が立つ、皆一様に、お習ひあひて、踊りて振りて、御目にかけてよ、田舎ならひが、面白い、笠のにはひが戀なる戀なる、豊後の踊は一をどり。

笠の下から、一目見た、一目見たさへ、面白い〜、ヒンヤ肌そうたら、しゅみませうか〜、豊後の踊は一をどり。

よいやな節（豊後）

朽網名物七里田の湯、かまちゆまくらに前だけながめ、花の七里田ぢやないかいな。
さてもみごこなまへだけつゝじ、枝はゆかわじ、葉は市村に、花は竹田のぬめりせに。
思ひまするぞ、あなたのこゝを、山で木の敷、かやの敷、千里が濱の砂の敷。

日豊線

- 一 日豊本線 小倉、吉松間 四五〇軒九
- 一 田川線 行橋、添田間 三七軒二
- 一 宮床線 後藤寺、宮床間 二軒八
- 一 大湯線 大分、豊後森間 六八軒四
- 一 細島線 富高、細島間 三軒五
- 一 妻線 廣瀬、杉安間 一九軒三
- 一 志布志線 都城、志布志間 四一軒四
- 一 國都東線 西都城、財部間 七軒

その本線は鹿兒島本線小倉から岐れて南西に向ひ、曾根に至つて九州の東海岸に出で、行橋で田川線を西に岐ち、本線は尙海邊を走つて中津を經、豊前長州から國東半島の頸部を横斷し、日出に至つて

日豊線

再び海光に接し、別府灣岸に沿うて温泉都市別府を過ぎて大分に至る。この間由布、鶴見、高崎の峯巒相續いて眼界に入る。

大分からは大湯線を西に、豊肥線を南に岐ち、本線は幸崎から山間に入つて南し、臼杵に至つて三度波光に近づく。臼杵から津久見を經て佐伯に至る間は臼杵灣、津久見灣、佐伯灣の風光汽車の眺に入り斗出せる岬角、波に泛べる大島小嶼、往來する汽船帆船など宛然繪巻物を展いたやうな景色である。
佐伯からは海邊を離れて南し、豊後、日向の境に向ふ、神原からは山聳え谿迫つて地勢急峻、鐵路蜿蜒として山腹を縫ひ、隧道を潜ること十一回にして重岡に至る。重岡からは峯巒重疊樹木鬱蒼たる國有林の間を流れる大原川に沿うて進み、國境を越えて市棚に至る間隧道を潜ること二十四回。市棚からは眼

界漸く開け、日向長井からは西南役の古戰場たる可愛嶽の山麓に沿うて延岡に至つて又海に近づく。これから宮崎に至る間日向灘の波光幾度か視界に入つて東窓の人を厭かしめない。その間富高からは細島線を東に、廣瀬からは妻線を西北に岐けてゐる。

宮崎からは海邊に遠ざかつて南西に向ひ、線路は迂餘曲折して青井嶽の裾を幾度か隧道を穿つて都城に至る。霧島の峯巒が車窓の眺に入つて壯快極まりない。

都城からは南に志布志線を岐ち、更に同線の西都城驛から國都東線を岐ち、本線は大迂回して霧島東麓の裾野を北に向ひ、小林町から漸く西に向つて、霧島山麓と肥日國境山脈との間なる眞幸平の沃野を横斷し、吉松に至つて肥薩線に接するのである。

日豊本線

驛名の下に記してある行程は門司起點である。

小倉 (こくら) 鹿兒島本線参照。

行橋 (ゆくはし) 田川線分岐點。▼縣社須佐神社 東四軒自動車三十錢。

▼千佛鍾乳洞 西北約一一軒、山麓まで自動車三十錢、洞は延長約一四米、洞口は大小無數の鍾乳石が垂下して低く地に迫つてゐるが内部は開けて高く廣く或は低く狭く、この間隨所に清泉が滾々として流れてゐる。

田川線

行橋から西に岐れて添田まで三七軒二、沿線至るところ炭坑地である。後藤寺からは九州産業線を

介して筑豊線赤坂へ、また同金宮線を介して筑豊

線金田に連絡してゐる。豊津の東二軒には名刹國分寺があり、香春の北約三軒半には高座石寺があり梅の名所となつてゐる。靈峯英彦山へは終點添田から登る。

英彦山 添田驛から彦山町まで一二軒、自動車

一圓六十錢、そこから頂上まで約四軒、山は筑前、豊前、豊後の三國に跨り海拔一、二〇〇米、昔は修驗道者の行場で、山中大衆三千の坊舎があると號してゐた。兵亂の際には割據自ら封じて、富強諸侯に敵したものである。修驗道天台宗本山派の別本山に列し、鎮西山伏の管長であつた。

山上には官幣中社英彦山神社がある。いはゆる彦山権現で祭神は天津日子忍骨命である。山中には名勝が多く尙近年避暑地としても世に知られ登

山者が多い。

山を南に下ること一四軒で守實(日豊本線中津驛乗換、耶馬溪鐵道終點)に出る。そこから耶馬溪の勝を探るも面白い、彦山町の南二軒に湯ノ山鑛泉がある。

旅館(彦山町)白梅屋、花山。

新田原 (しんでんばる) 驛附近は桃、梨及葡萄の産地にして年産額約八萬圓。

宇、島 (うのしま) 宇島鐵道接續點。同線は耶馬溪樋田の對岸(耶馬溪驛)まで一七軒一。

中津 (なかつ) 六二軒八 耶馬溪鐵道接續點



山國川の河口にあり、もと奥平氏十萬石の城下である。紡績、絹絲、柞蠶絹絲の製産あり、年産額五百萬圓、その他綿布(二

百三十萬圓)、生絲(三百五十萬圓)の産出も盛んである。▼扇城址 北八八〇米、天正十六年(約三四〇年前)黒田孝高築城以來、細川、小笠原、奥平氏相次いで城主となつたところ、今公園となり、本丸址に、福澤諭吉の獨立自尊の碑がある。▼大雅堂 西八八〇米、自性寺の書院をいふ。襖、板戸皆池大雅の揮毫に成る。▼福澤諭吉宅址 約四軒、福澤諭吉は中津藩士百助の二男で明治文明の建設者の一人である。

旅館 高本屋、梅の井、竹内。
名物 柿羊羹、耶馬溪焼、白酒。

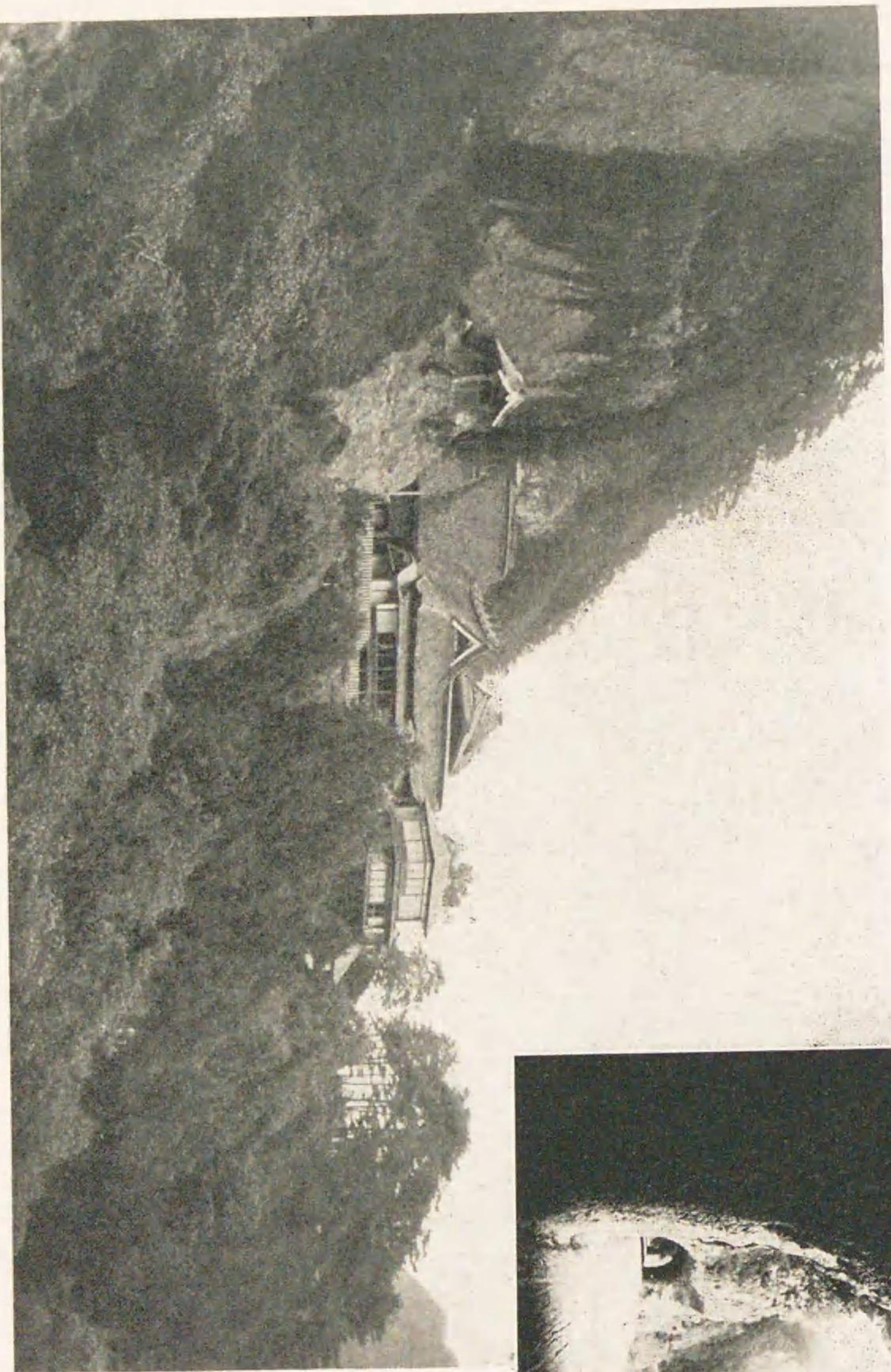
耶馬溪へ 中津から接續する耶馬溪鐵道は中津、守實間三六軒、名勝耶馬溪を貫通するもので、洞門から羅漢寺、深耶馬を経て守實まで、沿線溪山の勝がある、深耶馬溪、裏耶馬溪の探勝は同鐵道深耶馬

驛に下車する、中津から四十分、賃七十錢、守實へ一時間半、一圓一錢。

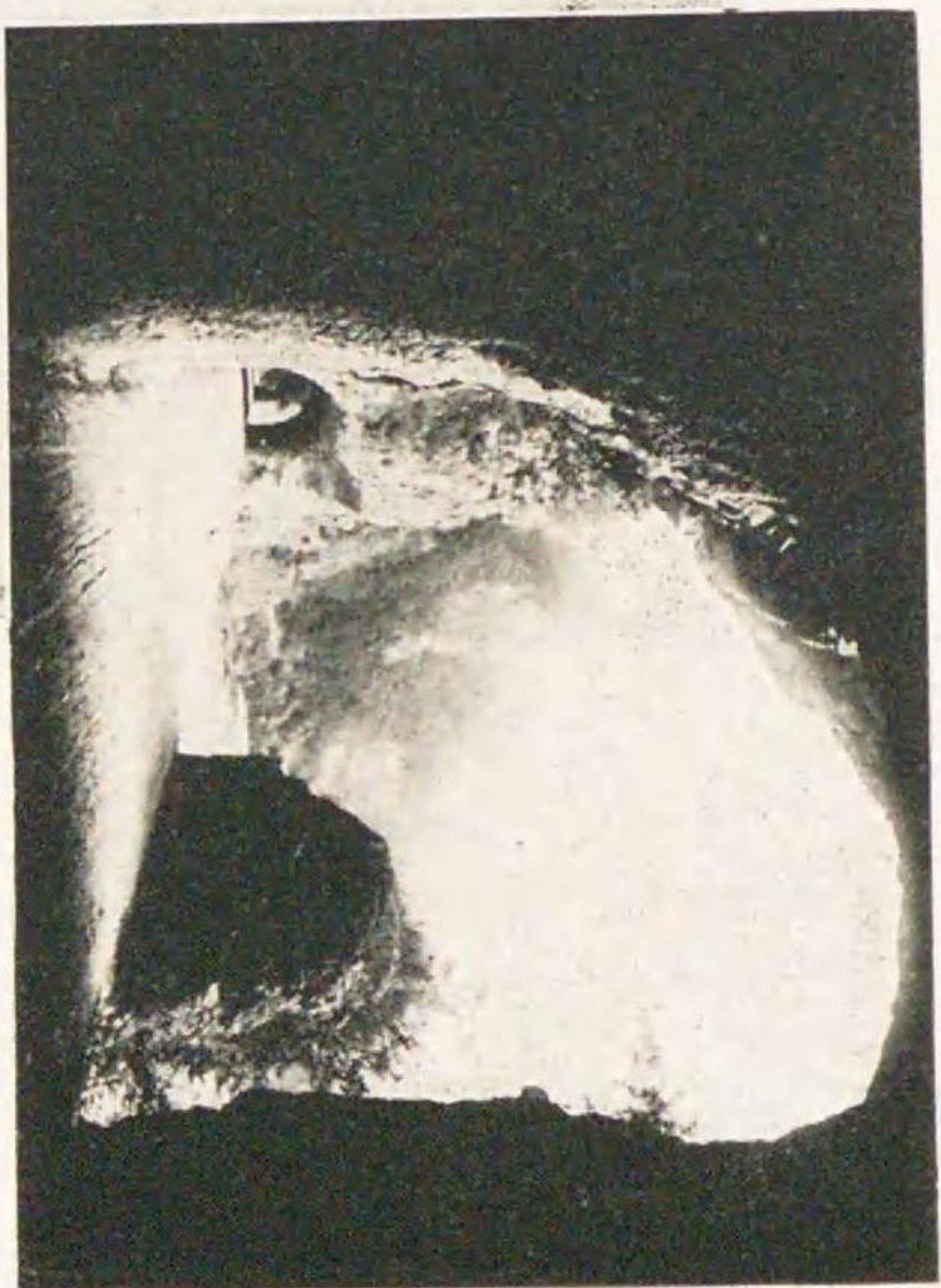
耶馬溪は本邦に於ける溪山の勝中、最も有名なもので、山國川の上流一帯の溪谷約六〇軒に互つてゐる。この溪谷美は昔頼山陽の才筆を動かして耶馬溪の名を命じ「之を海内第一といふも或は誣ひざるなり」といつてから、足九州に入つてこの地を訪はな

い者はない程に知られて來た。
樋田に近い鮎返から漸く風光の美を現はし、佛坂から青ノ洞門に至れば、路は攢峯の山腹を穿ち、川に沿うて通じてゐる。汽車はその對岸を走り、その景を見ることが出来る。

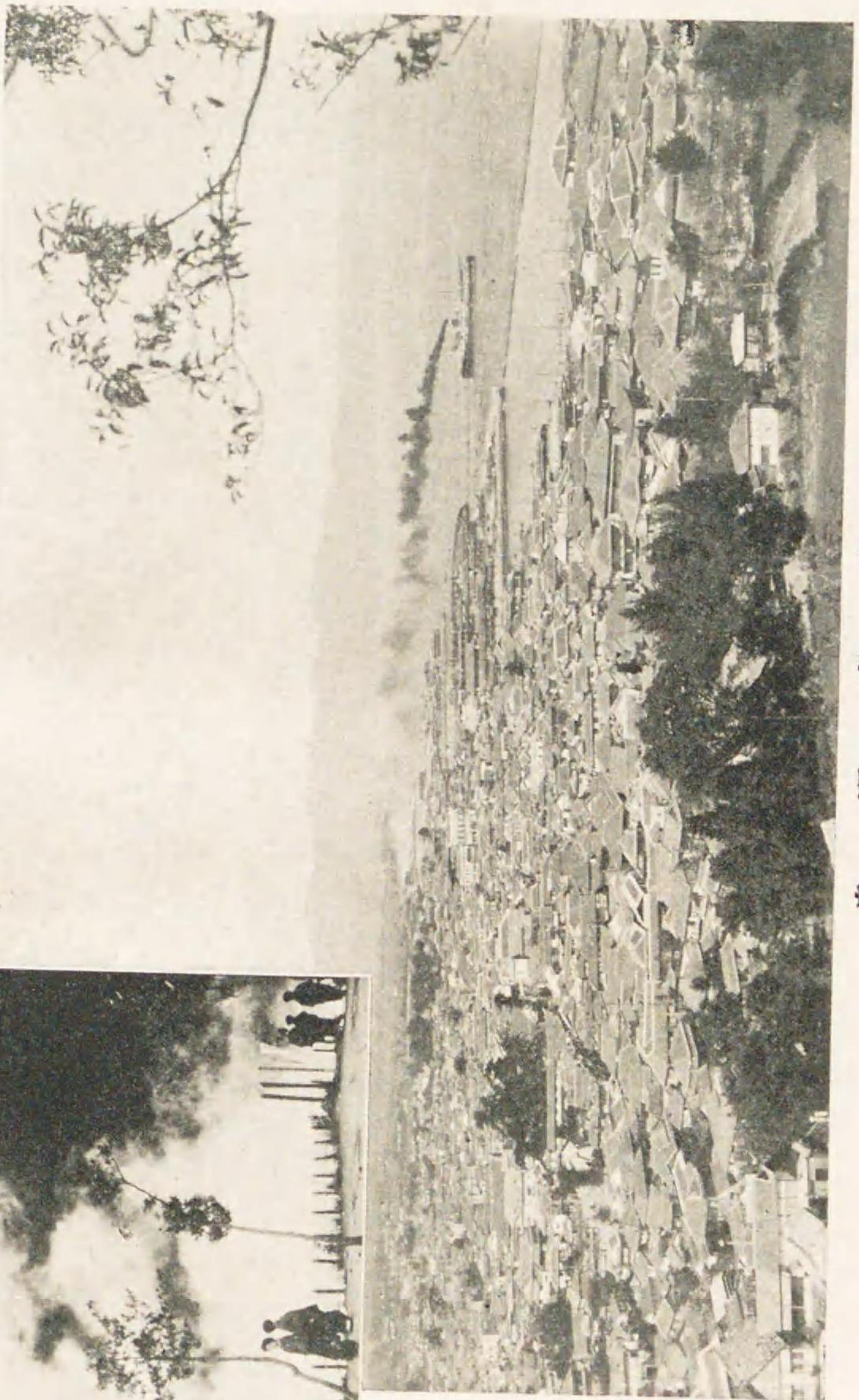
羅漢寺驛の近くには犬走りの勝があり、羅漢寺の寺門までは約一軒半、自動車の便がある。羅漢寺驛から尙進めば溪山の美愈加はり、曾木岩、巖洞山、



寺 漢 羅 溪 馬 耶



犬 走 り の 勝



地獄池ノ血



停立岩、醉仙巖、眺望巖などの勝あり、深耶馬驛の

背後はいはゆる山陽の筆投げの勝である。

深耶馬溪は深耶馬驛から南一六軒、自動車あり、近時その奇勝反つて本溪に勝るを説く人が多い。深耶馬驛から八軒にして山移、それから約一軒半を行けば芝石山、鳶ノ巢山、龍鼻岩、コジキ岩、七福岩船岩、人形岩、鴨良ノ瀑の勝あり、約八軒の間奇岩怪石千態萬狀を競うてゐる。秋季紅葉の美観は特に勝れた趣を呈する。

裏耶馬溪は下郷驛から八軒乃至一二軒の間をいふ。守實から豊前の日田へ一六軒、自動車一時間一圓。(日田は久大線参照)

旅館(羅漢寺)山國屋、圓山ホテル、第一樓。(深耶馬)三猿亭。

大貞(おほさだ) 驛附近は桃、梨及葡萄の産

日 豊 線

地、年産額約八萬圓。

豊前善光寺 (ぶぜんぜんくわうじ) 豊州鐵道接続

點。▼善光寺(天台宗) 約一軒、自動車がある。空也上人の開基、本多善光が佛像を護送して、信州、出雲及豊前の芝原の三ヶ所に安置したものと傳へ、本堂は國寶になつてゐる。

豊州鐵道 豊前善光寺、豊前二日市間一五軒四。

四日市町 (よつかいちまち) ▼東西本願寺別

院 三三〇米。拜田 (はいた) ▼一柱勝

宮 約半軒、拜田花立池畔にある莊嚴な建造物で神武天皇の古蹟と傳へる。三又川 (みつまたがは) 驛附近は西谷川、津房川の合流點で風景よく鮎の名産がある。▼小坂不動尊 五五〇米、本

尊不動尊は丈六の古像で灰を以て造つたものといふ。豊前二日市 (ぶぜんふつかいち) ▼仙ノ

岩の奇岩八籽。▼縣社妻垣神社 約四籽、宇佐神宮八箇社の一、祭神は宇佐神宮と同じ。▼西椎屋瀑布 一四籽、附近の東椎屋、龍泉寺瀑布と共に三名瀑といはれる。

宇 佐 (うさ) 宇佐參宮鐵道接續點。同線は宇佐、豊後高田間四籽一、宇佐、宇佐八幡間四籽八、賃十七錢。驛附近は製絲業が盛んで年産額五百五十萬圓に達する。

▼官幣大社宇佐神宮 西南約五籽、宇佐參宮鐵道宇佐八幡驛の東南五五〇米、譽田別尊、比賣大神、大帶姫命を祀る。宮は豊前國一ノ宮で古來朝廷の崇敬厚く廟宇壯麗本殿は國寶である。神護景雲年間に於ける和氣清磨託宣の一言、千年の後尙赫々たる神威を傳へてゐる。宮から半籽の大尾神社は清磨が神託を蒙つた處である。▼木目不動 同鐵道橋津驛か

ら西南一籽、地藏院境内にあり、杉の老木を以て立像となし、全身木理が現れて妙趣がある、高きは二米九。

杵 築 (きつき) 國東鐵道接續點。同線は杵築町守江を経て安岐まで一八籽。杵築町はもと松平氏三萬二千石の城下、杵築城址がある。勝山城ともいひ、初は木田村臺山に、建長年間(約六七〇年前)木付親重が築城し、爾來、杉原、福原、細川、小笠原氏の居城となり正徳中現在の地へ移つたのである。この地方で産する疊表は約二百五十年の歴史を有し、豊後表と稱して各地で好評を博してゐる、年産額三百六十萬圓。

日 出 (ひぢ) もと木下氏二萬五千石の城下、日出港は町の南にある。▼日出城址 町の南端海岸。▼松屋寺(曹洞宗)の蘇鐵 約一籽餘、樹齡五百

餘年といはれ、天然記念物に指定されてゐる。尙寺の上方、松屋寺山腹には幕末の鴻儒帆足萬里の墓がある。

龜 川 (かめがは) ▼龜川温泉 (別府驛參照) 別 府 (べつぷ) 一三一籽九 別府大分電鐵接續點。同線はこゝから大分驛前まで一二籽一の間開通してゐる。

別府は由布岳及鶴見岳の東に傾いて別府灣に盡きるところ一六籽に互る大温泉郷で、日本八景の一、人口四萬二千(三、一二調)。



海岸に沙汀に、丘上に溪間に、湯ノ池、湯ノ川、湯ノ瀧などがあり、到るところ温泉に恵まれてゐる。湯の種類も多く酸性泉あり、鹽類泉あり、炭酸泉あり、

硫黄泉がある、殊に海濱汀渚に湧出する砂湯の如きは他に例の尠いもので、別府の温泉か温泉の別府かと稱せられるも無理からぬ處である。

全区を分つて龜川、柴石、鐵輪、明礬、別府市、濱脇、觀海寺、堀田の八湯とする。この間鐵道は龜川、別府、濱脇の三驛を置く、温泉巡り地獄巡りに別府及龜川から自動車あり、乗合一圓、約二時間、歩いて八、九時間で十分である。

▼龜川温泉 龜川驛所在地で別府温泉の北門、旅館及民家約一千戸皆浴槽を有し、最も温泉の豊富な所である。

旅館 敷島支店、小松屋、室屋、魚屋。
▼血ノ池地獄 龜川の西約一籽半、赤褐色の熱湯沸々として湧き、時々噴騰する。

▼柴石温泉 血ノ池から西六六〇米、溪流に臨み景

趣豊かなところ。

旅館 柴石園、柴石館。

▼鐵輪溫泉 柴石から南へ約一軒半、この地は到る處天然蒸氣を噴出するので、家々では小孔を穿つて之を導き、釜や鍋を懸けて蔬菜を煮てゐる、名づけて地獄の火といふ。

旅館 常磐屋、富士屋別館、大平屋。

鐵輪から北、海地獄、坊主地獄、紺屋地獄などの硫氣芬々たる間を過ぎれば

▼明礬溫泉 鐵輪から三三〇米、龜川、別府からは八軒、地は別府諸溫泉中最高の位置を占め、豊後灣の風光、觀賞によい展望の勝地である、こゝで湯の花が採れる。

旅館 岡本屋、ゑびすや、喜樂。

▼別府市溫泉 八湯の中心に當り、宏壯なる浴場が

多い。海濱の砂汀は名高い砂湯場で、干潮の際砂中に全身を埋めれば適度の温度が自然に體を潤して、洵に愉快である。

共同湯中宏壯なるは不老泉を第一とする。

旅館 龜ノ井、日名子、米屋、鶴ノ居、中山、若松屋、別府ホテル。

▼觀海寺溫泉 市の西約三軒餘、八湯中最も展望の勝に富んでゐる。旅館 松屋、坂本屋。これから西北約二軒、鶴見岳の麓に堀田溫泉がある。旅館 金田屋、濱屋。こゝから更に登ること八軒で鶴見岳の山頂に達する。

由布嶽は鶴見の西に聳立し、豊後富士の稱あり、鶴見、由布の兩山は共に前に別府灣の海光を望み、別府市街から右は大分市、左は國東半島を望み、雙子熄火山の半島に聚立してゐるのを見ることが出来る。

る。風光の快潤なる九州東岸第一である。

▼濱脇溫泉 別府市溫泉の南にあつて、御幸町を以て境としてゐる。浴客の多いことは別府市溫泉より勝つてゐるやうである。濱脇公園がある。

旅館 川正、泉孫。

名物 竹細工、湯ノ花、地獄染。

▼ゴルフ場 驛の北一四軒、自動車がある、面積約二、〇〇〇アール（六萬坪）、別府灣を俯瞰する眺めもよい。

地獄巡り

海地獄、坊主地獄、鐵輪地獄、紺屋

地獄、明礬、血ノ池地獄などを巡るをいふ。地獄とは地中から水蒸氣を噴出したり、或は熱湯を沸湧する場所の謂で、所によつて夫々の特色がある。

別府の名産として竹籠類、藍胎、漆器があり、それ等の總年産額は六十五萬圓に上る、その中竹籠は

花籠が主で煤竹に擬してあり雅致に富んでゐる。その他縫針（年産額約三萬圓）、文旦漬（年産額約七萬圓）は土産物として好評を得てゐる。

別府溫泉節

別府湯どころ、湯は縁どころ

熱いなさけの湧くところ

ヨイ〜、ヨイ〜、ヨイヤサア。

熱いなさけの湧く湯の町で

さけた心は離れやせぬ

ヨイ〜、ヨイ〜、ヨイヤサア。

西大分（にしおほいた）

大分市の西端、別府灣に臨んでゐる。▼國幣小社柞原八幡宮 約三軒餘。

大分（おほいた） 一四四軒 大湯線、豊肥本

線分岐點。別府大分電鐵接續點。（大分驛前、境川間一四軒二）、市は（舊稱府内）大分川の吐口、大分平野の北部にあり、中世大友氏こゝに居り、武威九州



北部に及んだ、維新前は大給氏二萬石の城下であつた、城址は今の縣廳の所在地で荷揚城と稱した。今人口五萬九千（三、一、二調）米、青蓮、繭、生絲の産がある。

旅館 八百屋、帶屋、油屋、黒金屋、糝屋。名物 子持雜魚、大分饅頭、六方燒、堀川饅頭、菓子豊後梅。

大分縣廳は大分市にあつて、縣は豊後國及豊前國の一部を管轄してゐる。阿蘇山脈は縣の西南から東北に向つて縣下を横斷し、温泉到る處に湧いて別府温泉郷を成してゐる。大分市は別府灣頭にあり、附近一帶壘表の製造盛んである。

縣の北境には英彦山あり、山國川之から流れ出で、その峽谷に奇勝耶馬溪あり、中津はその河口にある名邑で、紡績業の見るべきものもある。東南部には九州山脈連互して林産多く山脈豊後水道に入つて盡くる處佐賀關海峽あり、沿海水産の利も多い。なほ縣は蜜柑、梅、桃などの果物に富む。

大 湯 線

大分から岐れて西し、大分川の流域を溯つて今豊後森まで六八軒四の間開通してゐるが、將來筑後川に沿うて久留米に到り鹿兒島本線に接すべき九州横斷線の一つである。

湯 平 (ゆのひら) ▼湯平温泉 約三軒半、自動車あり、三面山に圍まれ、花野川の清流を帶にした幽邃の境、附近には龍石、夜溝ノ瀧、小田池、山下池の名勝がある。旅館 新屋。

由布院温泉 由布は豊後富士由布嶽西麓の高原温泉郷で、海拔四八五米、東西六軒、南北三軒餘、由布川の流に絡んで湯ノ坪、田中市、乙丸、岳下、石松、山崎、柴石、八山などの温泉がある。之等を總稱して由布院温泉といふ。北由布驛から湯ノ坪

まで約一軒餘、別に別府から自動車も通ふ。

鶴見、由布の登山をかねての温泉巡りはこの線の三四日の旅行として楽しいものである。

旅館 鶴屋、右丸屋、紫明館、日の春、山水館。豊後中村 (ぶんどなかむら) ▼飯田高原 東

北一二軒、夏季に限り乗合自動車の便がある。(途中八軒、十三曲りの箇所に乗繼をする) 賃一圓十錢、海拔一、七八八米、九州第一の高峯、久住山の山腹にあつて所々に温泉又は冷泉を湧出している。湧泉の豊富、風光の雄大、實に銷夏の好適地で、一大キャンプ地として知られ、初夏の躑躅、深秋の紅葉もよい。

惠 良 (えら) ▼龍門の瀧 東北四軒自動車四十軒、自動車の終點から約一〇〇米、禪刹龍門寺の庭前普請閣に登ると、前面山岳の相迫る處に

高さ一八米、幅二一米の瀧が一五アール（四五〇坪）程の深淵に落下するのが見える、淵から流下する水の造る溪谷亦風致に富んでゐる。

豊後森（ぶんごもり） ▼日田盆地 西北二八

料 自動車一時間半一圓、（久大線筑後吉井驛參照）耶馬溪鐵道深耶馬溪驛の北方に位し森町から直ちに深耶馬の景勝に入る。溪地一帯を遊覽して深耶馬溪まで自動車一時間半一圓。

鶴崎（つるさき） 驛附近の大野川下流は海苔の養殖盛んでその年産額十八萬圓。

幸崎（かうさき）

▼佐賀の關 東一〇料自動車あり、海部半島の地頭で、その南北兩端に小港灣あり、半島の高峯は牧山でその東端は關岬である。關岬の絶端には牛島、高島相連り東北一五料を隔て、伊豫の佐田岬と相對し

てゐる。これ即ち古の速吹名門で今佐賀關海峽といひ、瀬戸内海から南方に通ずる水道の要害である。神武天皇御東征の時この地に椎根津彦あり、從つて東征船隊の前軍となり偉功を奏した。今早吹神社あり、その靈を祀る。

佐賀關には佐賀關製鍊所があり、その年産額金三百萬圓、銀二百五十萬圓、銅五百萬圓。

白井（うすき） 白井川の河口にあり、もと稻葉氏五萬石の城下である。

▼白井城址 北約一料餘、今白井公園になつてゐる。

▼深田の石佛 西約七料餘、自動車あり、佛教藝術上重んぜられてゐる。

津久見（つくみ） 驛附近一帯の丘畔は里餘に續く蜜柑山で、秋は黄果累累として美觀を現す。この地方の地質は蜜柑の栽培に最も好適とせられ甘味、

色澤、果肉など申分なく現在は作付七五、〇〇〇アール（七百五十町歩）年産額一二、〇〇〇疋。尙津久

美町には大友宗麟の墓がある。

佐伯（さへき） もと毛利氏二萬石の城下で佐

伯灣の西岸に臨んでゐる。城址は西南約三料、慶長六年（約三三〇年前）毛利高政の築城にかゝり柵車禮城内の市街をこゝへ移したのである。

旅館 鹿兒島屋、壽賀、久藤、港屋。

直見（なほみ）

小半鐘乳洞 西北八料、近時の發見で天然記念物

に指定された。尺餘の洞口を匍匐して進むこと約一八米にして洞内漸く廣く、鐘乳石、石筍、石柱の群るところに、入勝門、二見ノ關、龍鱗ノ嶮、雲ノ峯、宮殿、羅漢堂、垂ノ窟、龍宮、地獄谷、雌淵、雄淵、奥ノ院などの名あり變化の妙を極めてゐる。

日向長井（ひらがながゐ）

可愛嶽 西約一料半、西南の役西郷隆盛激戦の後重圍を突破して峰傳ひに遠く故山に歸還せる古戰場である。驛近くの俵野の兒玉氏宅は當時隆盛の本營としたところ、その本營裏に瓊々杵尊の御陵墓傳説地がある。

延岡（のべをか） 二六七料三 五箇瀬川の末

東海灣頭にあり、もと内藤氏七萬石の城下、城址は町の西方に高く聳えて今城山公園といひ、花の名所として知られ、眺觀に富んでゐる。附近椎茸の産あり、内地、臺灣、朝鮮、滿洲及南洋方面に送出されてゐる。年産額百五萬圓。

旅館 吉野屋、菊池。

名物 破れ饅頭。

日向高千穂 高千穂町へ驛から西北六〇料、自動

車二時間半二圓、別に高森線高森驛からも行く、路程四四軒自動車二時間二十分二圓。

高千穂町の手前約四軒のところ、五箇瀬川の上流岩戸村に「岩戸神社」がある。社は天照大神を祀り、神代史にいふ大神の隠れませし「天ノ岩戸」はこゝであると傳ふ。

高千穂町は山險に圍まれ、僅かに五箇瀬川の溪流が日向に向つて走る所、山中の一大聚落である。附近は石器時代の遺蹟に富み、高千穂の史蹟に就いてはまだ定説を見ないが、天孫降臨の傳説を託せる一名跡である。

町の東端約半軒のところには「高天原」と稱する高丘があり、皇孫はこゝに宮居し給うたといふ。丘上には老杉が數株聳立してゐる。

▼行藤ノ瀑布 北西一二軒、高さ五米四、山中に郷

ものもある。

高 鍋 (たかなべ) もと秋月氏三萬石の城下、古來文教の地として知られてゐる。城址は町の西方の丘にあり、今舞鶴公園といふ。▼かんく佛 約一軒、大友宗麟、島津義久等の古戦場で、六地藏を刻した供養塔が建つてゐる。

旅館 壽、水間。

廣 瀬 (ひろせ) 三三七軒八 妻線分岐點。

▼久峰の觀音 西北約一軒の丘山、僧日羅の建立、附近第一の流行佛。

次郎ヶ別府 (ちろがびゆう) ▼住吉の浦 二軒

自動車あり、日向灘の碧波縹緲たるを望む、白沙長汀、渚の後丘に住吉神社が鎮座する。

社行藤神社、祕密窟、日本武尊熊襲征討の傳説などがある。

富 高 (とみたか) 二八七軒八 細島線分岐點。細島は同線の終點で日向第一の良港である。

岩 臨 (いはわき) ▼小倉ヶ濱 附近一帯の海岸、白沙青松遠く連り、汐干狩、海水浴に適する。

美々津 (みづつ) ▼立盤神社 北約三軒、神武

天皇御東征の發船地と傳へ境内に御腰掛石がある。

都 農 (つの) ▼國幣小社都農神社 北約二軒半、自動車あり、日向國一ノ宮で大己貴命を祀る。

旅館 木村。

名物 うに。

川 南 (かはみなみ) ▼西別府の古墳 西南約七軒、大小の古墳數十あり、その形狀瓢形をなし、その大なるものは高さ九米、周圍約三二七米に及ぶ

九州の六つかしい驛名

南風崎 彼杵 雜餉隈 朧原 嚴木

大畑 眞幸 日出 淺海井 次郎ヶ別府

新延 木場茶屋

九州で原をはると讀ませる驛名

原田 原町 中原 朧原 新田原

油須原 向之原

妻 線

この線は廣瀬から岐れて西北に向ひ、一ノ瀬川の流域を走り、佐土原、妻を過ぎて杉安に至る支線である。

佐土原 (さどはら) 天正十五年(三四〇年前)まで伊東氏に屬し、後鳥津氏の有となり幕末は三萬七千石の城下であつた。町内に縣社愛宕神社がある。▼大光寺(臨濟宗) 東南約半軒、運慶の裔孫康俊の作と傳ふる文殊菩薩がある。
名物 佐土原人形。

妻 (つま) 附近は旅行者の興味を牽くもの多く、都萬神社は西約一軒、木花開耶姫を祀る。日向櫻川の古跡で附近に櫻が多い、尙附近の椎茸は香氣と形の大きいので好評がある、年産額十

二萬圓。西都原は妻驛北西約二軒餘、日向は皇祖發祥の地、國內到る處に古蹟の散在する中にもその最も多いのは西都原の高原一帯の地で大小の古墳凡六百累々として相接し、時に路上古器物を見ることがすらある。中にも最大なる二山陵は東北の一陵を男狹穗塚、西南の一陵を女狹穗塚といひ、古から前者は瓊々杵尊、後者は木花開耶姫の御陵と傳へてゐる。

旅館(妻) 大阪屋。

宮 崎 (みやざき) 三五一軒 人口四萬八千、



(三、一二調)を有し、大淀川は市の西南を流れ、清武臺の丘陵その南を繞り、西方遙かに日向山脈を見る。附近南瓜の産多く年産額約四十萬圓に上る。



日向 妻

鹿兒島市及櫻島



▼官幣大社宮崎神宮 北二軒餘、自動車あり、前驛

花ヶ島からは西三三〇米、舊都高千穂宮址に神武天皇を祀つた社である、境内に徴古館がある。▼景清

廟所 宮崎神宮から約一軒、眼病平癒祈願に参拜するものが多い、廟の側に景清の娘人丸の墓がある。

(大淀驛参照) ▼一葉の濱 東北四軒、松樹亂綴約二〇軒に互り、往々一葉の松があるのでこの名に呼ばれる。

旅館 神田橋、廣瀬、宮内。

大 淀 (おほよど) 三五三軒六 宮崎鐵道接續點。

▼縣社生目神社 西六軒、宮崎から自動車五十錢、悪七兵衛景清主家の爲に報復を圖つて成らず、遂に兩眼を扶つて瞽となつたが、その兩眼を祭つたのがこの神社といはれ、眼病に靈驗があるとて参拜者が

多い。

宮崎鐵道 大淀から青島を経て内海まで二〇軒

一。

青 島 (あをしま) ▼青島 驛から約五〇〇

米、別途宮崎から自動車六十錢、大淀驛から同四十錢、島は周圍約一軒、對岸の陸地から橋が架けてあるが、干潮時は沙路を歩いて行かれる、島中彦火々出見尊と豊玉姫命とを祀つた青島神社があり、その附近は蒲葵樹幾千となく聳立し、頽桐、蘆葦、文殊蘭など多く宛然熱帯地方の森林を思はせる。宮崎に行く人は必ずこゝに立寄ることにしてゐる。

植物の主なるものは オホハマグルマ、ハマオモト(文殊蘭)、モクダチバナ、オニヤブソテツ、トベラ、クワズイモ、ヒギリ(タウギリ)、バセウ

ムサシアブミ(由跋)、ハヒビヤクシン(矮檜)、ピ
ラウ(蒲葵)、コノデカシハ(側柏)、マサキ、ハマ
ビラ、イスビハ、タルベルギア、リキダニバル、
ブラタヌス、ヤナギイチゴ、ビルマコウラン、バ
ニヤなどで何れも天然記念物に指定されてゐる。
旅館(青島) 廣瀬。名物 貝細工、外郎。

内 海 (うちうみ) ▼官幣大社 鶴戸神宮 南

一八軒 別途宮崎又は大淀から自動車で、鶴戸村
に至る、ここから徒歩八八〇米、自動車あり、毎日
朝一回列車に接続して汽船が出る。賃七十銭、海
に臨む巖窟内に鷓鴣草(ふさあそ)不合尊を祀る。岩窟は廣
さ東西三八米、南北二九米、高さ約五米あり、社
殿はこの内に鎮座する。社前怪巖亂立して風光雄
大である。鶴戸から飢肥まで一六軒、飢肥から油
津まで六軒三の間宮崎縣營鐵道の便あり、飢肥は

もと伊東氏五萬一千石の城下、油津には梅ヶ濱の
勝がある。旅館 角屋。名物 鶴戸館。



都 城 (みやこのじやう)

四〇一軒 志布志線分岐點。も
と鳥津氏支封の地で、大淀川(おほよどがは)
の上流にあり、附近の物貨集散地
である。人口三萬五千(四、三調)

▼縣社 神社 南約半軒、天照大神を祀り、鳥津
氏の崇拜が厚かつた。▼小松原公園 驛附近。▼攝
護寺 市内寺町にある本派本願寺に屬する名刹。
旅館 持永、水間。
名物 逆鉾煎餅。

志 布 志 線

この線は都城から岐れて南に向ひ今大隅松山を
經て志布志まで開通してゐる。志布志は有明灣に
臨める海港で海上権現島、檳榔島あり、風光がよ
う。

國 都 東 線

志布志線(志布志) 都城から現在財部まで開通してゐ
る、將來國分まで延長されて肥薩線と會する豫定
である。

財 部 (たからべ) ▼龜甲岩 北約四軒、自

動車及馬車がある。大淀川の上流、溝ノ口川の河
底にあつて大小數萬の壺を埋めたやうな穴の群は
龜甲のやうに見える。地質學者の珍重するところ。

直ぐその下流は高さ一六米、巾三三米の「關ノ
尾」の瀧となり、附近一帶は晩春から初夏にかけ
て一面に躑躅が美しく咲く。

高 原 (たかはる) ▼縣社 狹野神社 西南三軒

半、自動車二十五錢。宮崎神宮の別宮で神武天皇御
降誕の地と稱する。

▼蓮太郎冷泉 四軒、自動車四十錢。

霧 島 山 宮崎方面からする登山の最捷徑路で、途

中霧島東神社 (約六軒半、自動車五十錢) に參詣
し、夫から登路約六軒、約三時間を費して高千穂峯
の絶頂に達する。絶頂(一、七〇〇米)から噴火口
を左に南すれば八軒にして官幣大社霧島神宮に出る。
(肥薩線牧園驛參照) 霧島神宮へ直接參詣すれば西
南二二軒。

小林町 (こばやしまち) 霧島山麓の群峯は町の

日 豊 線

正面に聳立してゐる。飯野驛と共に木材の主産地で年産額百十萬圓。▼陰陽石 北約五軒。

飯野 (いひの) ▼海棠の野生地 東約一二軒 高原の氣分に富み、附近溪流を挾んで幾千株の野生の海棠叢生し、周圍五四五種、高さ五米四に及ぶものがある。指定の天然記念物。

京町 (きやうまち) 驛附近三三〇米乃至三軒の所に黒松、龜澤、吉田の諸温泉がある。

吉松 (よしまつ) 四六二軒六日豊本線終點、肥薩線分岐點。

田植唄 (日向)

おひの殿様、清武泊り

みたれ桶かよ、おひ懸し。

さんざ振れく三尺袖を

着せて振らせて、見て御座る。

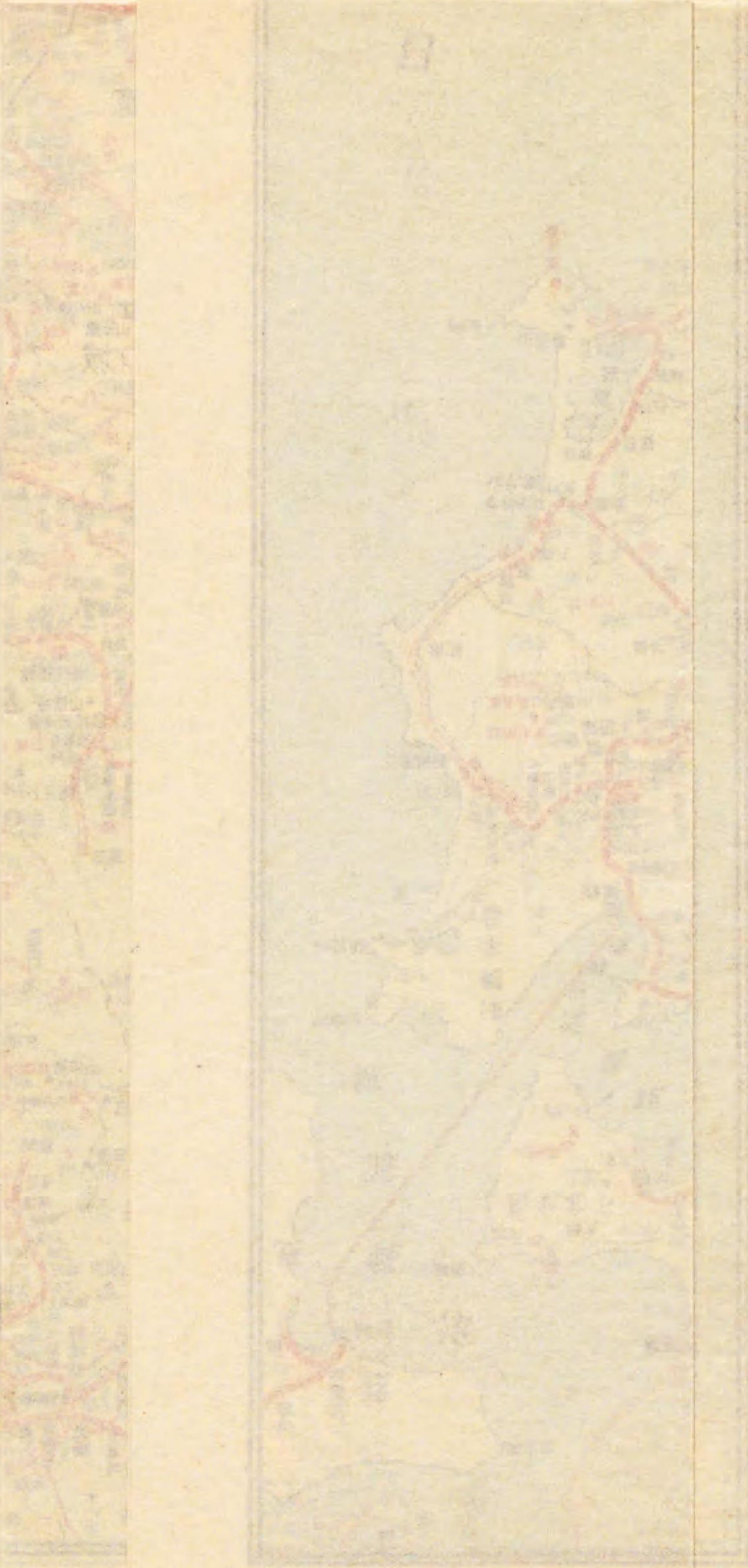
米踏唄 (日向)

谷川の濁り淋しく米な搗く

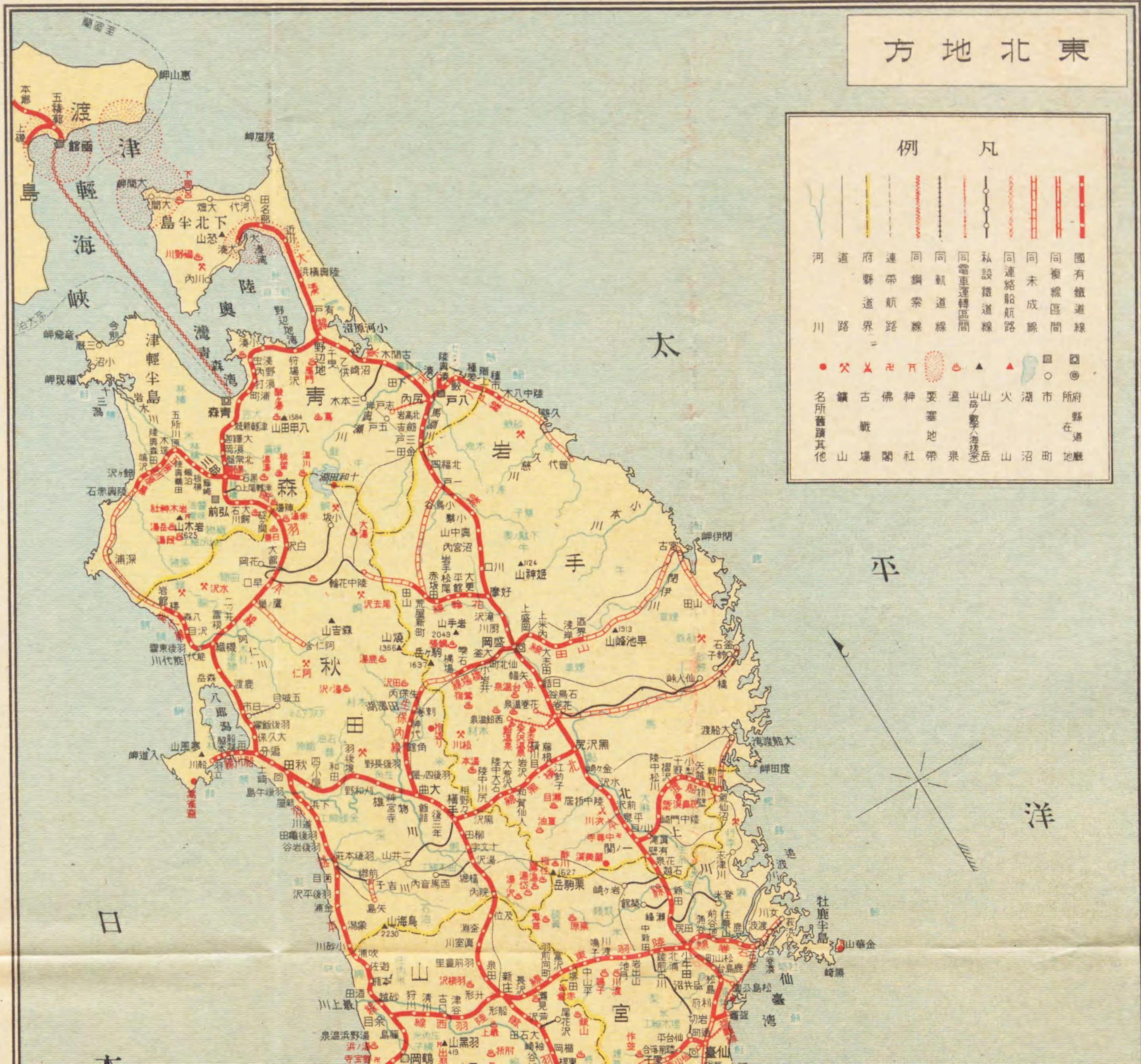
こぬかくこ待つばかり。

酒屋男となんねこすれば

蔵の窓から糟貰うた。



東 北 地 方

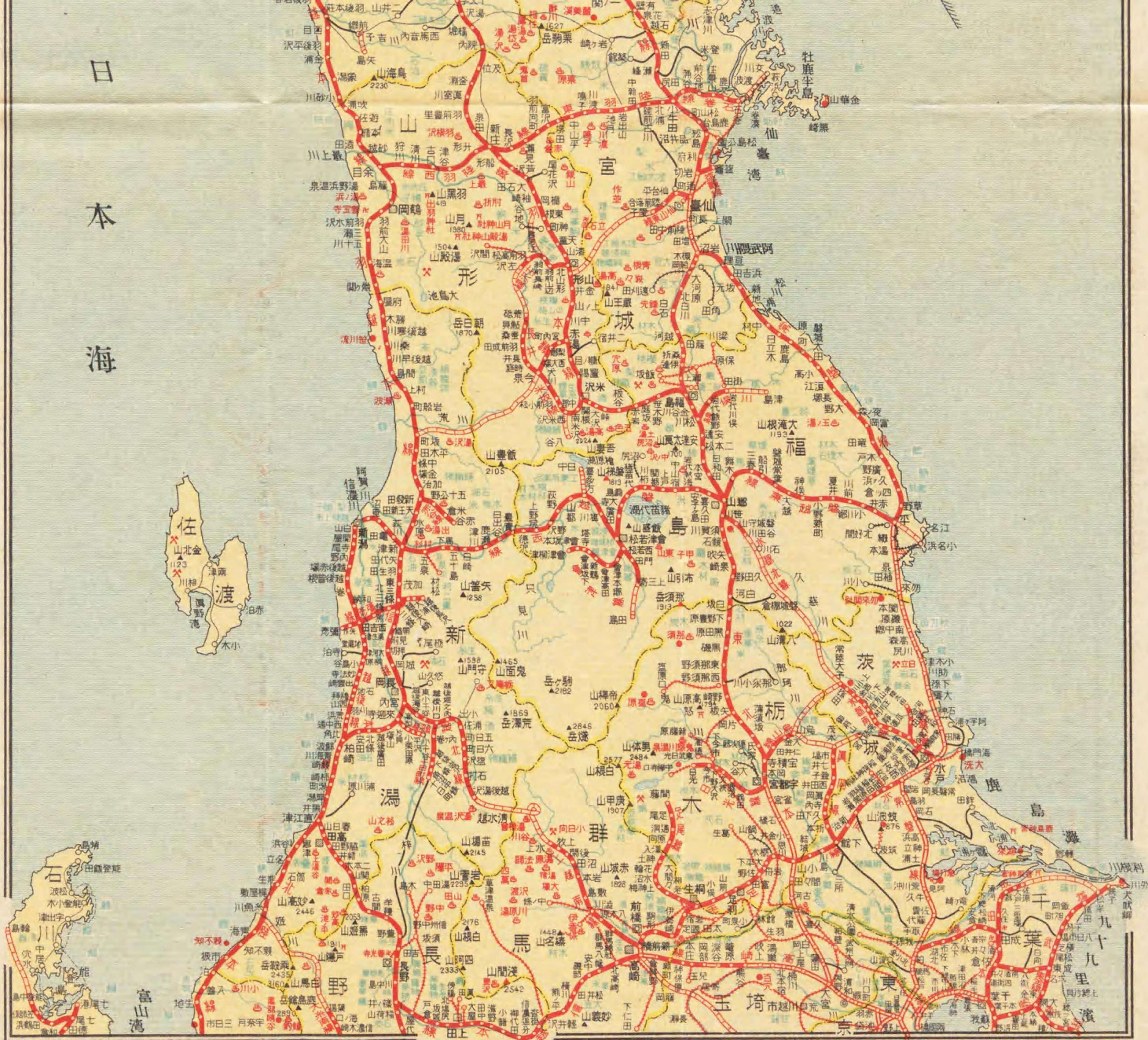


例 凡	
	河 川
	道 路
	府 縣 界
	連 帶 航 路
	同 鋼 索 線
	同 軌 道 線
	同 電 車 運 轉 區 間
	私 設 鐵 道 線
	同 連 絡 船 航 路
	同 未 成 線
	同 復 線 區 間
	國 有 鐵 道 線
	名 所 舊 蹟 其 他
	佛 社
	神 社
	要 塞 地 帶
	山 岳 海 嶽
	山 岳 海 嶽
	火 山
	湖 沼
	市 町 村
	所 府 縣 在 道 地

日

本

海

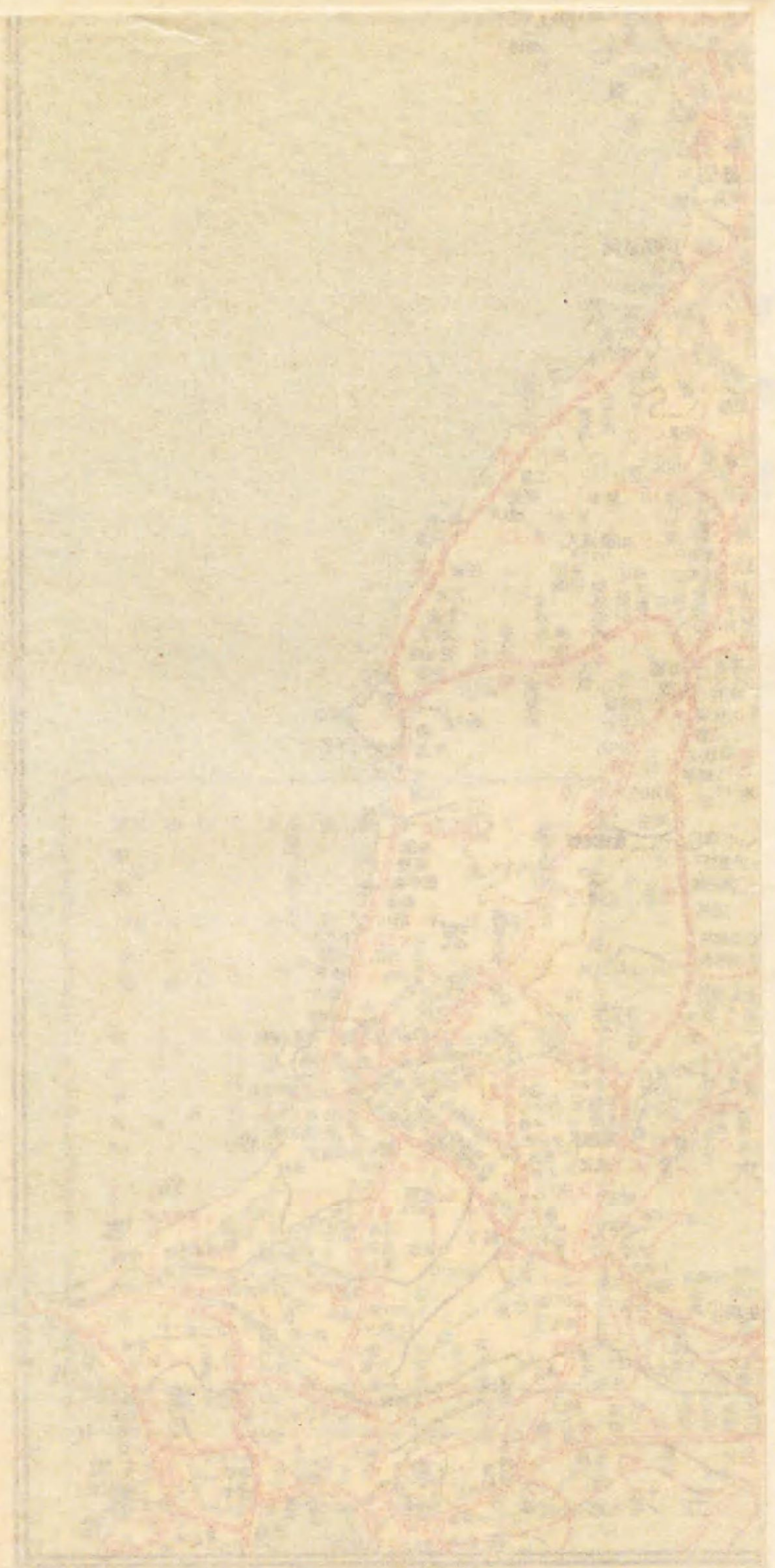


みだれ桶かよ、飯肥戀し。
 着せて振らせて、見て御座る。
 さんざ振れ〜三尺袖を

東北線

一	東北本線	東京、上野、青森間	七四〇
一	山手線	日暮里、赤羽間	七
一	常磐線	品川、田端間	二〇
一	水郡南線	池袋、赤羽間	五
一	高崎線	日暮里、岩沼間	三四
一	兩毛線	水戸、常陸大子間	三
一	上越南線	上菅谷、常陸太田間	五
一	足尾線	大宮、高崎間	九
一	水戸線	小山、高崎間	七
一		新前橋、水上間	七
一		桐生、足尾本間	九
一		小山、友部間	一
一			二

一	眞岡線	下館、茂木間	四二
一	日光線	宇都宮、日光間	四〇
一	烏山線	寶積寺、烏山間	二〇
一	水郡北線	笹川、谷田川間	八
一	川俣線	松川、岩代川俣間	二
一	鹽竈線	岩切、鹽竈間	六
一	仙山東線	仙臺、愛子間	一五
一	大船渡線	一ノ關、氣仙沼間	六二
一	横黒線	黒澤尻、横手間	六〇
一	橋場線	盛岡、橋場間	二三
一	山田線	盛岡、區界間	三五
一	花輪線	好摩、田山間	四九
一	八戸線	尻内、湊間	八
一	大湊線	八戸、陸中八木間	三七
一		野邊地、大湊間	五八



その本線は國有鐵道幹線の一部をなし、汽車は東京市上野驛を起點として宇都宮、福島、仙臺、盛岡などを経て、青森に至つてゐる。その間青森灣頭に於て海光に接するの外は、東北の山野を走るのでのみで風光の變化に乏しいやうであるが、峰巒の起伏、平野の曠茫また見るべきものがないではない。特に白河以北は古の陸奥の地、この地一帯は蝦夷人種が跋扈し、古より殆んど別世界をなし、安倍氏、清原氏から藤原氏に至つて漸く盛んに、平泉の古址には今尙當時を想見するに足るものがあり、近く徳川氏の時に至つても、時に泰西に使用して私に交を修むるなど、殆んど小王國の觀ありし處で、滿目の風物自ら趣を異にしてゐる。列車は上野、青森間相互四回の直通列車の外、常磐線廻り三回、奥羽線廻り一回の直通列車があり、本線直通の内一回は急行で十七時間、

常磐線急行も同じく十七時間、奥羽線廻りは秋田まで急行、秋田から普通となり十九時間半を要する。別に上野から信越線、北陸線を経て東海道線米原に至るもの二回、金澤に至る急行が一回あり、新潟との間に信越經由のものが六回、内急行一回、磐越線經由のものが三回ある。上野金澤間は約十三時間、上野、新潟間は信越線と磐越線の何れによるも約十二時間半を要する。

本線は支線が多い。山手線は日暮里及赤羽で分岐し、常磐線は日暮里から岐れて太平洋岸を縫うて岩沼に至つて本線に合してゐる。大宮から岐れる高崎線は高崎に至つて信越線、兩毛線と接し、小山から左に岐れて高崎に至る兩毛線は桐生で足尾本山に至る足尾線、新前橋で清水峠を越えて新潟に通ぜんとする上越南線(現在水上まで)を岐ち、右に岐るゝ水

戸線は下館で眞岡線を岐け、友部に至つて常磐線に接續する。宇都宮からは日光線が岐れ、烏山線は寶積寺、水郡北線は笹川、川俣線は松川、仙山東線は仙臺、鹽竈線は岩切、大船渡線は一ノ關、横黒線は黒澤尻、橋場線と山田線とは盛岡、花輪線は好摩、八戸線は尻内、大湊線は野邊地から各々分岐してゐる。

木 遣 唄 (武藏)

日本橋から南をみれば、きぬはなけれぬ吳服橋。
あれにみゆるは錢瓶橋よ、後藤に後藤で一石橋。
一ツ橋から向をみれば、そほで飛出すきじ橋よ。
いつか此家をはなれるならば、花の板橋歌で越す。
あのや娘をほめるぢやないが、すがたやさしき柳はし。

東北本線

上野 (うへの) 東京市上野公園下にあり、東北地方への交通の門戸である。東京、上野、赤羽間は電車線で横濱櫻木町との間に直通電車を運轉してゐる。

日暮里 (にっぽり) 常磐線の分岐點で汽車はここから一時別路を走り、尾久を経て赤羽で本線に合する。

田端 (たばた) 三軒五 山手線分岐點。

山手線

東京市の西北東部を一周し、東京驛から品川、新宿、池袋、田端、上野を経て東京へと池袋、赤羽間とに電車を運轉してゐる。

池袋 (いけぶくろ) 赤羽行電車分岐點。武蔵野鐵道及東武鐵道東上線接續點。

武蔵野鐵道 池袋、吾野間五七九。沿線には、所澤に飛行場があり、西所澤からは村山公園へ行く支線がある。豊岡町及飯能は關東における機業地として知られてゐる。飯能驛から西一料に天覽山、一六料に名栗鑛泉、高麗驛の北三料には高麗王若光の墓と傳へるものがある。

東武鐵道東上線 池袋、寄居間七四八。この線は、川越を経て寄居で秩父鐵道に接續する。途中坂戸から八料には岩殿山觀音があり、紅葉の勝地として聞え、自動車がある。

目白 (めじろ) ▼學習院 東三〇〇米餘。

▼雜司ヶ谷鬼子母神 東北約八〇〇米。

高田馬場 (たかだのば) 西部鐵道接續點。

堀部安兵衛の敵討で知られた所。▼穴八幡 東一料 ▼早稻田大學 同一料二。

西武鐵道 村山―川越線 高田馬場、川越間四五料七及東村山、國分寺間七九。新井藥師前 (あらゐやくしまへ) ▼新井藥師南西一一〇米、子育治眼藥師として參詣がてらの郊外散策に適する。▼哲學堂 北三三〇米、和田義盛の城址に故井上圓了博士の創設したもの。

上石神井 (かみしやくじみ) ▼石神井城址 北一料、附近から石器時代の石斧、鏃などが出る。花小金井 (はなこがね) ▼小金井の櫻 南一料。東村山 (ひがしむらやま) ▼村山貯水池 南西二料餘、自動車がある、周回一六料、丘陵に圍まれ自然の公園を成してゐる。

所澤 (ところざは) ▼所澤飛行場 東北一

料。入間川 (いるまがは) ▼稻荷山公園

西南一料、入間川を隔て、遠く秩父連山を望み景色がよい。夏は名物の鮎が獲れ、秋は芋掘の興がある。川越 (かはごえ) 川越は人口三萬五千 (四、三調) 附近物資の集散地で、上杉、



北條の時代から江戸時代にかけて地理上重要視された所。▼喜多院 東一料天台宗の名刹、家康の帷幄に參した南光坊天海の再興にかゝり現在の堂宇は寛永

年間 (約三〇〇年前) 江戸城紅葉山の別殿を移したものである。境内に開山堂、五百羅漢、東照宮などがある。▼川越城址 上杉、酒井、堀田、松平、秋元の諸氏が替つて居城し維新當時は再び松平氏 (八萬二千石) のゐたところ。

新宿 (しんじゆく) 中央本線との交叉點。

京王電鐵及西武鐵道新宿線接續點。

京王電氣鐵道 新宿、東八王子間三八料五。

沿線調布の北二料に天台宗の古刹深大寺、府中には官幣小社大國魂神社あり、百草には百草園あり、武蔵野を見晴す眺めがよい。

西武鐵道新宿線 此から妙法寺を経て荻窪まで行つてゐる。

原宿 (はらじゆく) 官幣大社明治神宮參拜の下車驛。

澁谷 (しぶや) 玉川電鐵及東京横濱電鐵の接續點。

玉川電氣鐵道 玉川を経て砧溝ノ口へ、途中三軒茶屋から京王電鐵下高井戸へ支線を出してゐる。他は天現寺橋、中目黒方面へ通ずる。玉

川停留所附近の玉川プールでは國際水泳競技が行はれる。

東京横濱電氣鐵道 本横濱まで二四九の間の通じ、目黒蒲田電鐵と田園調布、丸子多摩川附近で交叉する。澁谷驛の西一軒七に帝國大學農學部がある。

恵比壽 (えびす) ▼大日本麥酒會社恵比壽ビール工場 驛附近。

目黒 (めぐろ) 目黒蒲田電鐵接續點。▼目黒不動(天台宗) 西一軒、堂後の丘陵に甘藷先生青木昆陽の墓、門前に比翼塚などがある。▼目黒競馬場 一軒半。

目黒蒲田電氣鐵道 目黒、蒲田間一三軒四、大岡山、大井町(東海道本線)間四軒七、沿線には圓融寺、洗足池、九品佛、丸子水泳場などがある。

五反田 (ごたんだ) 池上電鐵接續點。

池上電氣鐵道 五反田、蒲田間一軒一及雪ヶ谷、新奥澤間一軒四の本、支線からなり、沿線には圓融寺、洗足池、九品佛を始め太平記や院本神靈矢口の渡によつて名高い新田義興を祀つた新田神社や、日蓮上人入滅の靈蹟本門寺がある

王子 (わうじ) 驛附近に砲兵工廠支廠、關東酸曹會社、王子製紙會社などがある。▼瀧ノ川の紅葉 西北約二軒。▼飛鳥山 驛前にあり櫻樹が多く面積四三三アール(一萬三千坪)花時の雜沓東京附近第一といふ。花期四月五日から十六日まで。

▼郷社王子神社 西北約三〇〇米。▼王子稻荷 西北約八〇〇米。▼荒川堤の櫻 東北五軒餘、櫻樹は堤上數軒にわたり五色櫻といはれ、一重及八重の變種が多い、花期は四月十五、六日から二十五、六日頃

埼玉縣廳は浦和にあつて、縣は武藏國の一部を管轄してゐる。西半の秩父地方は山岳多く、秩父絹を産し、東半は平野遠く連つて麥の産多く、養蠶、機業また盛んに熊谷、川越などその一中心地となつてゐる。川越地方はまた甘藷の産地として名高い。

與野 (よの) ▼與野公園 西南四軒、櫻樹が多く、老木は享保年間(約二〇〇年前)大和の吉野から移植したものである。

大宮 (おほみや) 二六軒七 高崎線分岐點。西武鐵道大宮線接續點。大宮、川越間一二軒九、大宮には鐵道省大宮工場を初め片倉組大宮館、山丸、渡邊などの製絲工場がある。▼官幣大社氷川神社 東北一軒二自動車の便がある。須佐之男命、大己貴命

まで。

赤羽 (あかばね) 山手線分岐點。▼浮間の櫻草 西二軒、川口町からも略同様、荒川對岸の廣野に咲く。▼靜勝寺 約四〇〇米、太田資長の城址に建てられたもので、境内の道灌堂に道灌の木像がある。

川口町 (かはぐちまち) 鑄物の産地として知られてゐる。

浦和 (うらわ) 浦和高等學校がある。調宮の境内には浦和公園がある。近年住宅地として著しく發展して來た。旅館伊勢彌治、山口屋、松屋。▼田島の櫻草 西四軒、荒川沿岸の田島の廣野に咲く、天然記念物に指定されてゐる。▼中山道の松並木 浦和、大宮間約六軒に互り、江戸時代に植付けたものである。